

令和5年度 第1回 生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会 次第
(川西市環境審議会専門部会)

日時：令和5年5月19日 14:00～

場所：アステ川西 6階 マルチスペース

1. 委員長 あいさつ

2. 委員長及び各委員 紹介

3. 審議事項

(1) 令和4年度 環境に関する意識調査結果について【資料1】

(2) 「生物多様性ふるさと川西戦略」の計画改訂について

【資料2-1、2-2】

(3) 「生物多様性ふるさと川西戦略」利用の地図情報の更新等について

【資料3-1、3-2】

4. その他

・事務局からの連絡

5. 市民環境部長 あいさつ

【配付資料】

①令和5年度 第1回 生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会 次第

②令和5年度 第1回 生物多様性ふるさと川西戦略推進委員 名簿

③令和5年度 第1回 生物多様性ふるさと川西戦略委員会 座席表

④【資料1】令和4年度 環境に関する意識調査 調査報告書

⑤【資料2-1】生物多様性ふるさと川西戦略 改訂箇所一覧表

⑥【資料2-2】(案) 生物多様性ふるさと川西戦略 (改訂版)

⑦【資料3-1】川西市の現存植生図の更新について

⑧【資料3-2】川西市の現存植生図の統合案について

令和5年度第1回 生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会(川西市環境審議会 部会) 名簿

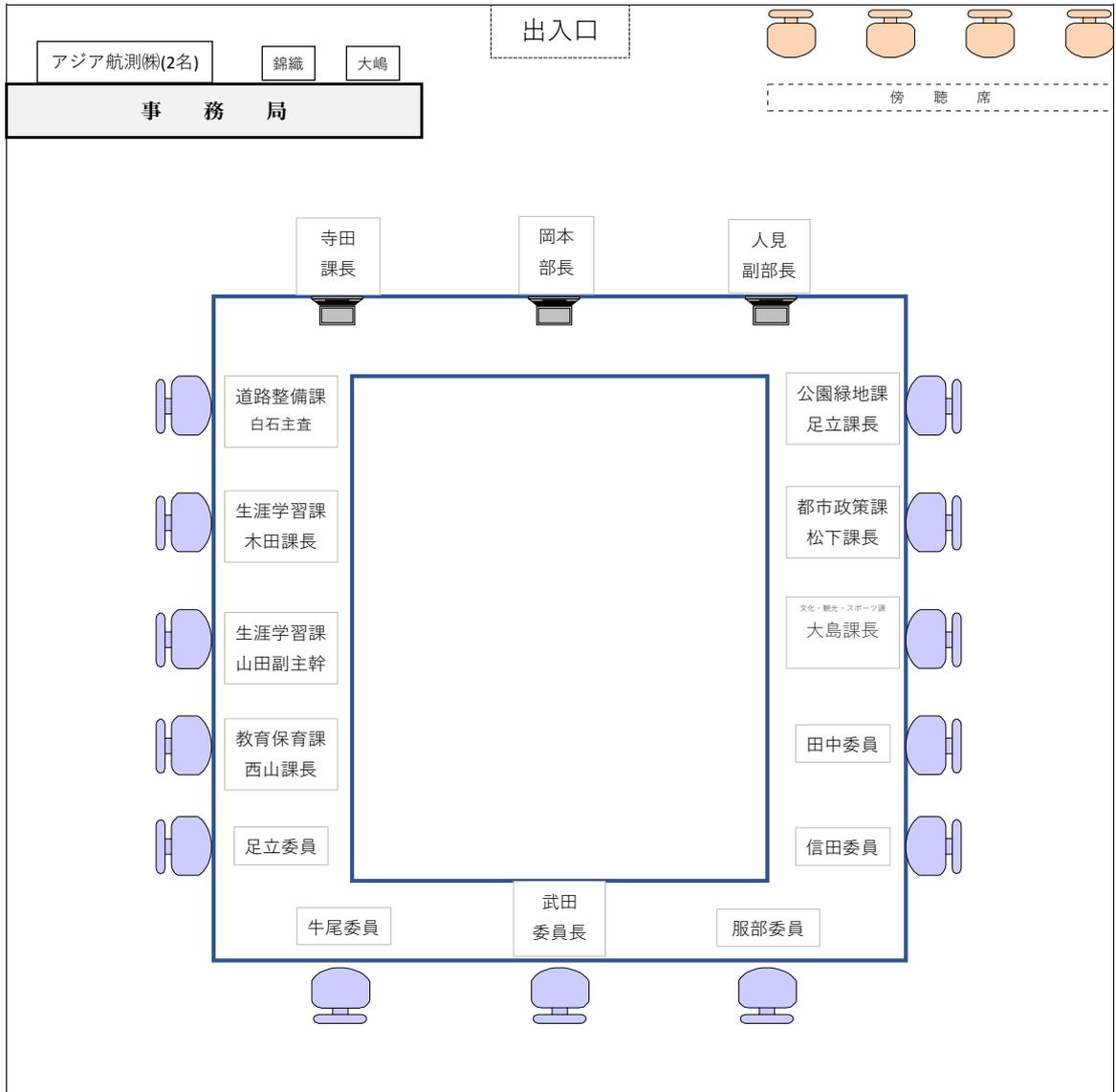
令和5年5月19日(金) 開催 アステ川西6階 マルチスペース1

No.		氏名	役職	選出区分	備考
1	審議会委員	武田 義明	神戸大学人間発達環境学研究科名誉教授	学識経験者	部会長 (委員長)
2	専門委員	信田 修次	能勢妙見山ブナ守の会副会長 元能勢電鉄株式会社	学識経験者	
3	専門委員	牛尾 巧	一庫公園管理事務所長	学識経験者	
4	専門委員	服部 保	兵庫県立大学自然・環境科学研究所 名誉教授 兵庫県立南但馬自然学校学長	学識経験者	
5	専門委員	足立 隆昭	兵庫丹波オオムラサキの会会長	学識経験者	
6	専門委員	田中 廉	川西自然教室代表	学識経験者	
7	関係行政職員	森田 幸治	産業振興課長(農政担当)	市職員	欠席
8	関係行政職員	大島 弘章	文化・観光・スポーツ課長	市職員	
9	関係行政職員	松下 吉晴	都市政策課長	市職員	
10	関係行政職員	足立 拓也	公園緑地課長	市職員	
11	関係行政職員	中津留 幸紀	道路整備課長(道路補修担当)	市職員	白石主査代理出席
12	関係行政職員	木田 愛子	生涯学習課長	市職員	
13	関係行政職員	山田 浩史	生涯学習課副主幹(文化財担当)	市職員	
14	関係行政職員	西山 晋司	教育保育課長	市職員	
15	関係行政職員	岡坂 憲一	教育保育課長(研修・特別支援教育担当)	市職員	欠席

令和5年度 第1回川西市環境審議会部会
(生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会)

令和5年5月19日(金) 14時00分～

アステ川西6階 マルチスペース



令和4年度
環境に関する意識調査
調査報告書
【生物多様性戦略】

目次

I	調査概要	1
II	アンケート結果	3
1.	基本情報について	3
2.	生物多様性に関する知識	5
3.	川西市の自然環境などに対する認識	7
4.	事業者で行っている環境教育・環境学習	28
5.	川西市が行った方がよいと思う「生物多様性」保全の取り組み	32
III.	まとめ	34

I 調査概要

1. 調査の目的

「生物多様性ふるさと川西戦略」の改訂及び「第3次川西市環境基本計画」策定のため、市民、事業者、小学生の皆様に川西市の環境に関する考えを伺い、意見を反映させることを目的とする。

2. 調査設計

市民アンケート	
調査対象	市内在住の1,200名を無作為抽出
調査期間	令和5年1月
調査方法	郵送配布、郵送・WEB回収
調査項目	1. 基本情報について 2. 川西市の環境について 3. 地球温暖化問題について 4. 環境問題に関する取り組みについて 5. 川西市の自然（生物多様性）について 6. 情報の発信について

事業者アンケート	
調査対象	川西市商工会会員を中心に、100社を無作為抽出
調査期間	令和5年1月
調査方法	郵送配布、郵送・WEB回収
調査項目	1. 基本情報について 2. 温室効果ガス排出量の現況について 3. 環境問題に関する取り組みについて 4. 「生物多様性」に関する取り組みについて 5. 環境教育・環境学習の実施状況について 6. 情報の入手、発信について

小学生アンケート	
調査対象	川西市内の公立小学校に通う6年生277名
調査期間	令和5年1月
調査方法	学校を通じた配布、WEB回収
調査項目	1. 川西市の環境について 2. 環境を守るために取り組んでいることについて

3. 回収結果

	市民	事業者	小学生	合計
送付数（通）	1,200	100	277	1,577
回収数（通）	359	35	238	632
回収率（％）	29.9	35.0	85.9	40.0

4. 報告書の見方

- 回答結果は、回収数に対して、それぞれの回答の占める割合を示している。アンケート結果の割合は小数点第2位を四捨五入しており、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100%にならない場合がある。
- 図表中において、「無回答・無効回答」とあるものは、回答が示されていない、回答の判別が困難、または指定の選択数を超えて回答しているものである。

Ⅱ アンケート結果

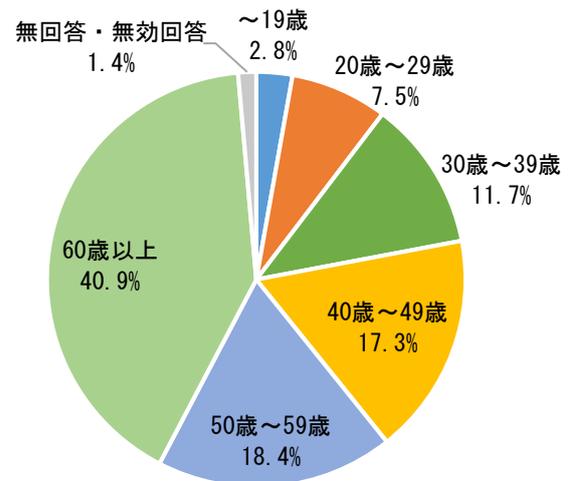
1. 基本情報について

〈市民〉

あなたの年齢について、あてはまる番号1つに○をつけてください。

回答者の年代については、「60歳以上」(40.9%)が最も多く、次いで「50歳～59歳」(18.4%)、「40歳～49歳」(17.3%)と続いている。

	回答数 (件)	割合 (%)
～19歳	10	2.8
20歳～29歳	27	7.5
30歳～39歳	42	11.7
40歳～49歳	62	17.3
50歳～59歳	66	18.4
60歳以上	147	40.9
無回答・無効回答	5	1.4
合計	359	100.0



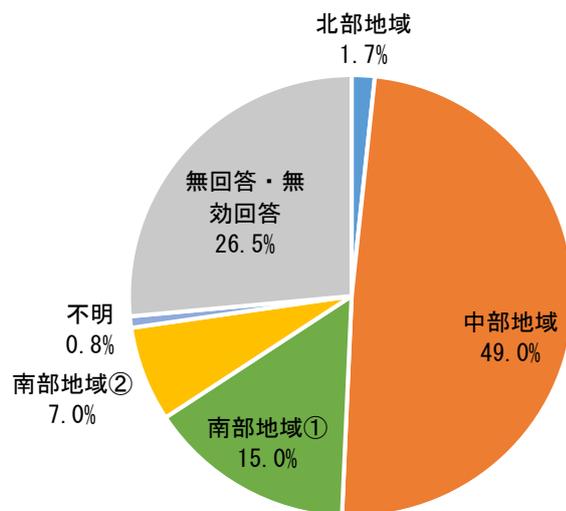
〈市民〉

あなたのお住まいについて、町丁名を記入し、川西市内での居住年数をご記入ください。

【地域】

居住地域については、記入いただいた町丁名を北部地域、中部地域、南部地域①、南部地域②に分類した。「中部地域」(49.0%)が最も多く、次いで、「南部地域①」(15.0%)と続いている。

	回答数 (件)	割合 (%)
北部地域	6	1.7
中部地域	176	49.0
南部地域①	54	15.0
南部地域②	25	7.0
不明	3	0.8
無回答・無効回答	95	26.5
合計	359	100.0



〈参考〉

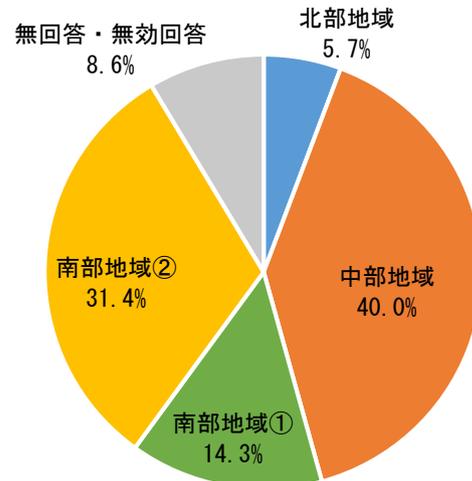
北部地域：山下、一庫、国崎、黒川、横路
 中部地域：萩原、萩原台東、萩原台西、新田、平野、多田桜木、東多田、西多田、多田院、多田院多田所町、多田院西、鼓が滝、矢間、矢間東、緑台、向陽台、水明台、清和台東、清流台、清流台西、湯山台、鶯台、けやき坂、南野坂、見野、東畦野、東畦野山手、西畦野、笹部、下財、大和東、大和西、美山台、丸山台、長尾町、緑が丘、鶯が丘、錦松台、石道、虫生、赤松、柳谷、芋生、若宮、山原
 南部地域①：中央町、小花、小戸、美園町、出在家町、丸の内町、火打、松が丘町、霞ヶ丘、日高町、栄町、花屋敷、花屋敷山手町、寺畑、満願寺町、絹延町、滝山町、鶯の森町
 南部地域②：南花屋敷、加茂、下加茂、久代、東久代、栄根

〈事業者〉

貴社のある町、丁名（または字）をご記入ください。

所在地域については、記入いただいた町丁名を北部地域、中部地域、南部地域①、南部地域②に分類した。「中部地域」(40.0%)が最も多く、次いで、「南部地域②」(31.4%)と続いている。

	回答数 (件)	割合 (%)
北部地域	2	5.7
中部地域	14	40.0
南部地域①	5	14.3
南部地域②	11	31.4
無回答・無効回答	3	8.6
合計	35	100.0



〈参考〉

北部地域：山下、一庫、国崎、黒川、横路

中部地域：萩原、萩原台東、萩原台西、新田、平野、多田桜木、東多田、西多田、多田院、多田院多田所町、多田院西、鼓が滝、矢間、矢間東、緑台、向陽台、水明台、清和台東、清流台、清流台西、湯山台、鶯台、けやき坂、南野坂、見野、東畦野、東畦野山手、西畦野、笹部、下財、大和東、大和西、美山台、丸山台、長尾町、緑が丘、鶯が丘、錦松台、石道、虫生、赤松、柳谷、芋生、若宮、山原

南部地域①：中央町、小花、小戸、美園町、出在家町、丸の内町、火打、松が丘町、霞ヶ丘、日高町、栄町、花屋敷、花屋敷山手町、寺畑、満願寺町、絹延町、滝山町、鶯の森町

南部地域②：南花屋敷、加茂、下加茂、久代、東久代、栄根

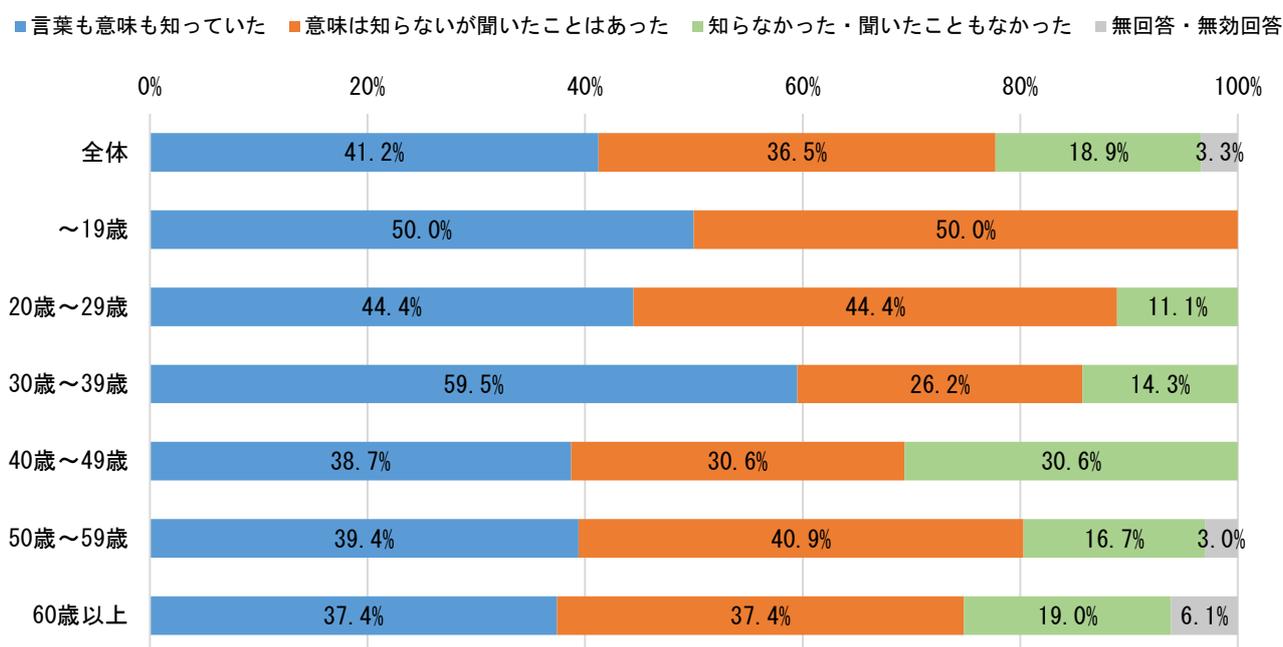
2. 生物多様性に関する知識

生物多様性という言葉をご存じでしたか。(〇は1つ)

〈市民〉

生物多様性という言葉の認知度について、全体では、「言葉も意味も知っていた」、「言葉は知らないが聞いたことはあった」を合わせて 77.7%であり、「知らなかった・聞いたこともなかった」の 18.9%を 58.8%上回っている。

年代別の認知度については、「40～49 歳」、「60 歳以上」以外の年代で 80%を超えている。

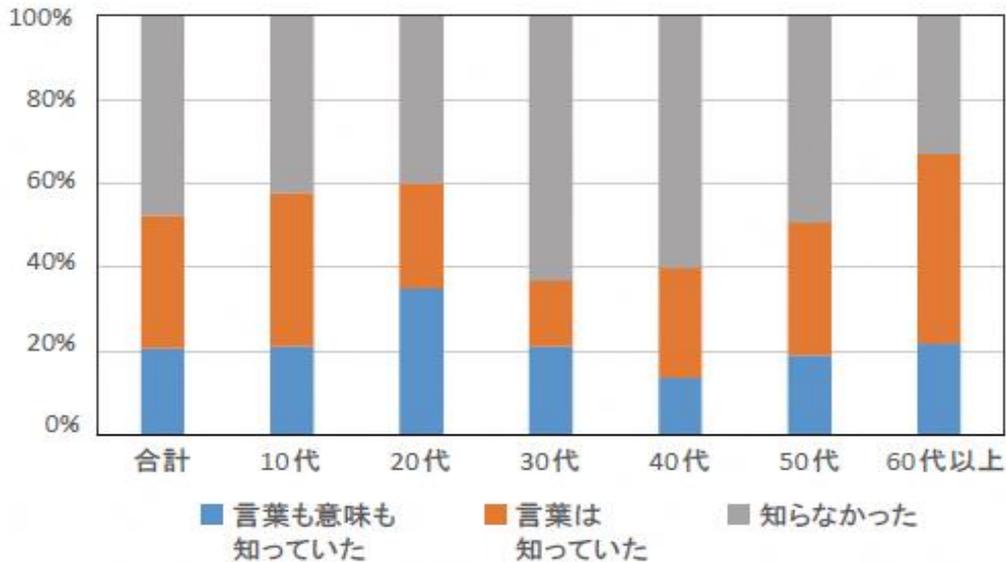


〈凡例〉 ①言葉も意味も知っていた ②言葉は知らないが聞いたことはあった ③知らなかった・聞いたこともなかった ④無回答・無効回答						
		①	②	③	④	合計
全体	回答数 (件)	148	131	68	12	359
	割合 (%)	41.2	36.5	18.9	3.3	100.0
~19歳	回答数 (件)	5	5	0	0	10
	割合 (%)	50.0	50.0	0.0	0.0	100.0
20歳~29歳	回答数 (件)	12	12	3	0	27
	割合 (%)	44.4	44.4	11.1	0.0	100.0
30歳~39歳	回答数 (件)	25	11	6	0	42
	割合 (%)	59.5	26.2	14.3	0.0	100.0
40歳~49歳	回答数 (件)	24	19	19	0	62
	割合 (%)	38.7	30.6	30.6	0.0	100.0
50歳~59歳	回答数 (件)	26	27	11	2	66
	割合 (%)	39.4	40.9	16.7	3.0	100.0
60歳以上	回答数 (件)	55	55	28	9	147
	割合 (%)	37.4	37.4	19.0	6.1	100.0

【前回アンケートとの比較】

前回アンケート時の全体の認知度は51%であり、今回アンケートでは約27%上がっている。

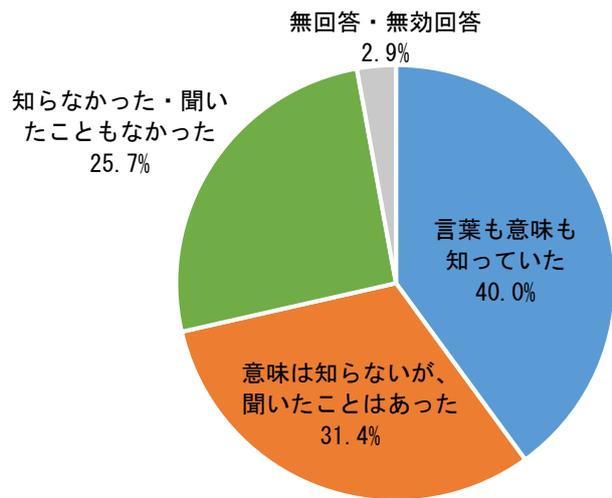
年代別の認知度については、各年代とも大幅に上がっている。特に30代が突出して上がっていることが特徴的である。



〈事業者〉

生物多様性という言葉の認知度については、「言葉も意味も知っていた」、「言葉は知らないが聞いたことはあった」を合わせて71.4%であり、「知らなかった・聞いたこともなかった」の25.7%を45.7%上回っている。

	回答数 (件)	割合 (%)
言葉も意味も知っていた	14	40.0
意味は知らないが、聞いたことはあった	11	31.4
知らなかった・聞いたこともなかった	9	25.7
無回答・無効回答	1	2.9
合計	35	100.0



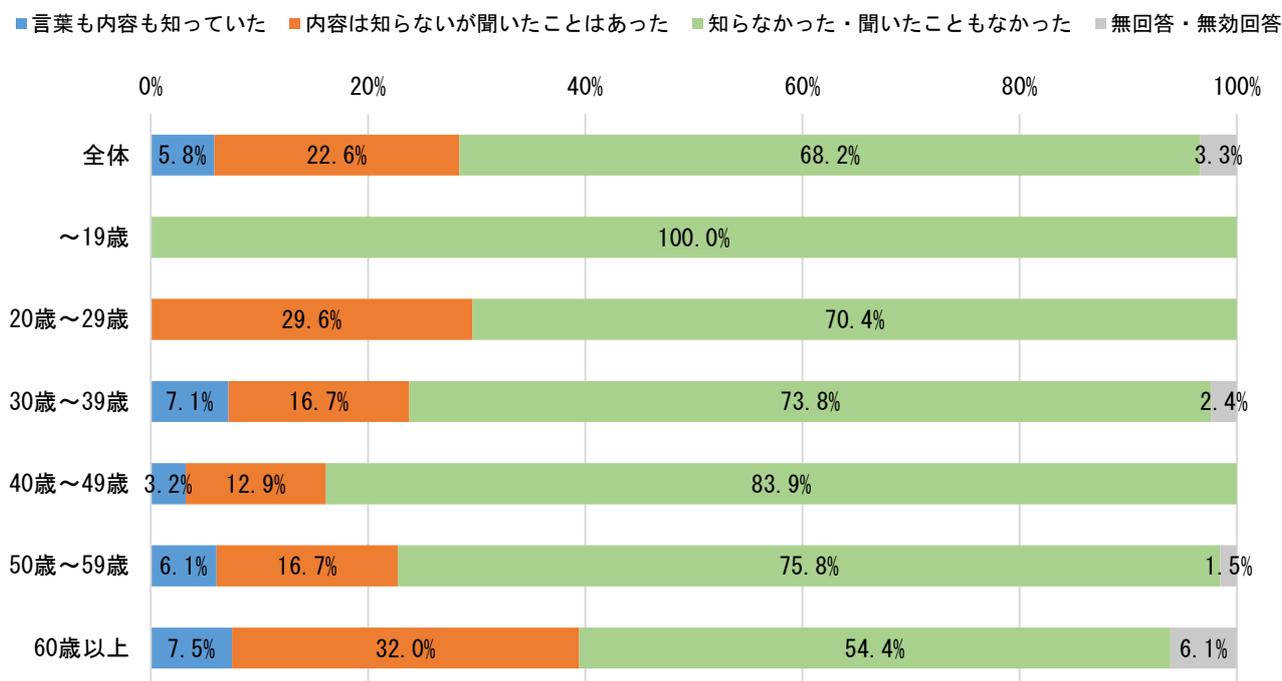
3. 川西市の自然環境などに対する認識

「生物多様性ふるさと川西戦略」をご存じでしたか。(〇は1つ)

〈市民〉

「生物多様性ふるさと川西戦略」の認知度について、全体では、「言葉も内容も知っていた」、「内容は知らないが聞いたことはあった」を合わせて28.4%であり、「知らなかった・聞いたこともなかった」の68.2%を40.2%下回っている。

年代別の認知度については、全ての年代で「知らなかった・聞いたこともなかった」が半数を超えている。

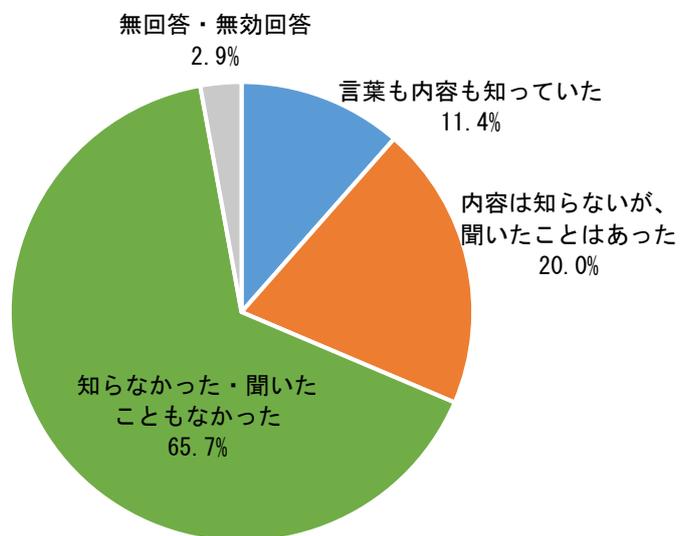


〈凡例〉 ①言葉も内容も知っていた ②内容は知らないが聞いたことはあった ③知らなかった・聞いたこともなかった ④無回答・無効回答						
		①	②	③	④	合計
全体	回答数(件)	21	81	245	12	359
	割合(%)	5.8	22.6	68.2	3.3	100.0
～19歳	回答数(件)	0	0	10	0	10
	割合(%)	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0
20歳～29歳	回答数(件)	0	8	19	0	27
	割合(%)	0.0	29.6	70.4	0.0	100.0
30歳～39歳	回答数(件)	3	7	31	1	42
	割合(%)	7.1	16.7	73.8	2.4	100.0
40歳～49歳	回答数(件)	2	8	52	0	62
	割合(%)	3.2	12.9	83.9	0.0	100.0
50歳～59歳	回答数(件)	4	11	50	1	66
	割合(%)	6.1	16.7	75.8	1.5	100.0
60歳以上	回答数(件)	11	47	80	9	147
	割合(%)	7.5	32.0	54.4	6.1	100.0

〈事業者〉

「生物多様性ふるさと川西戦略」の認知度については、「言葉も内容も知っていた」、「内容は知らないが聞いたことはあった」を合わせて31.4%であり、「知らなかった・聞いたこともなかった」の65.7%を34.3%下回っている。

	回答数 (件)	割合 (%)
言葉も内容も知っていた	4	11.4
内容は知らないが、聞いたことはあった	7	20.0
知らなかった・聞いたこともなかった	23	65.7
無回答・無効回答	1	2.9
合計	35	100.0

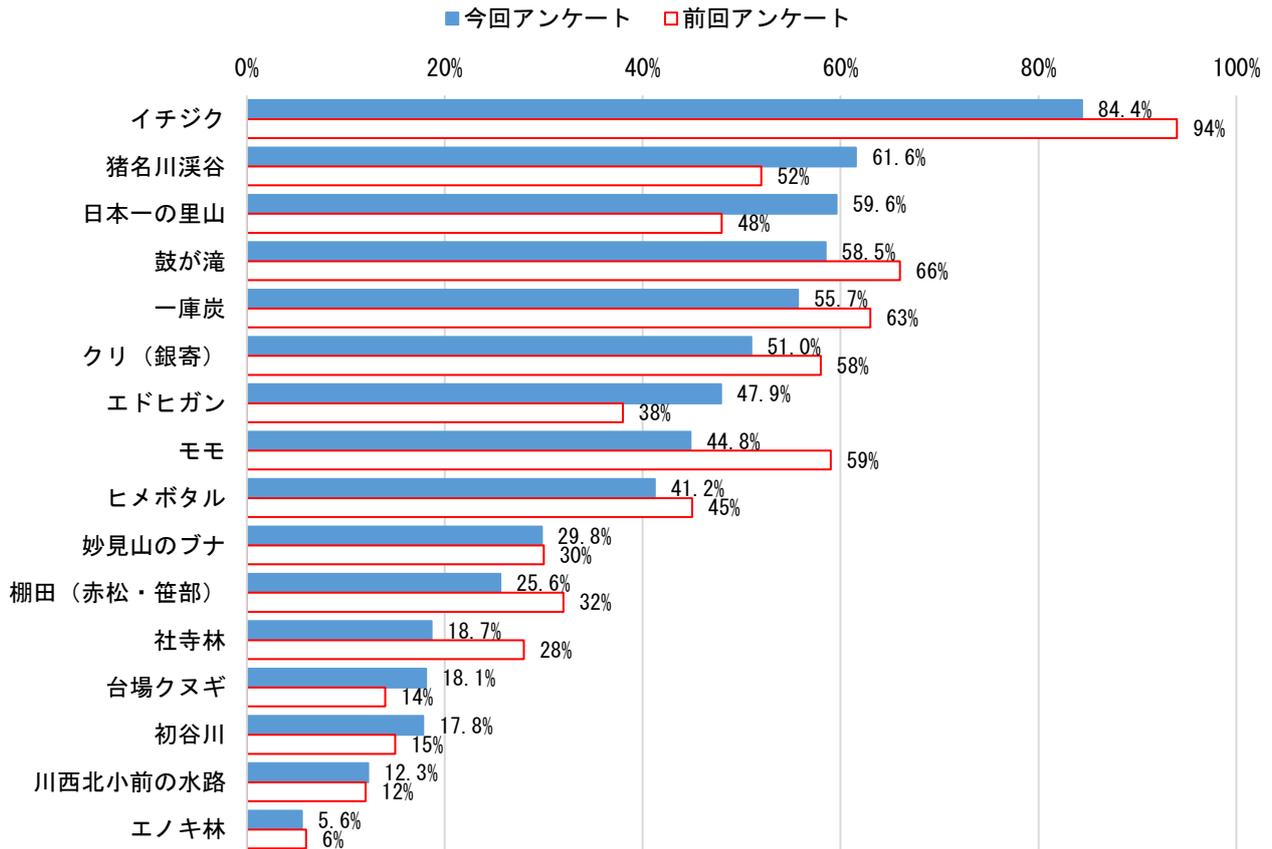


次に、「川西市の生態系を育むすばらしい自然」を示しています。1～16の自然について、知っている、聞いたことがあるものにチェックを入れてください。

〈市民〉

「川西市の生態系を育むすばらしい自然」の認知度については、「イチジク」(84.4%)が最も多く、次いで、「猪名川溪谷」(61.6%)、「日本一の里山」(59.6%)と続いている。

前回アンケートと比較すると、「猪名川溪谷」、「日本一の里山」等の順位が上がり、「鼓が滝」、「一庫炭」等の順位が下がっている。



	回答数 (件)	割合 (%)	前回アンケート (%)
イチジク	303	84.4	94
猪名川溪谷	221	61.6	52
日本一の里山	214	59.6	48
鼓が滝	210	58.5	66
一庫炭	200	55.7	63
クリ (銀寄)	183	51.0	58
エドヒガン	172	47.9	38
モモ	161	44.8	59
ヒメボタル	148	41.2	45
妙見山のブナ	107	29.8	30
棚田 (赤松・笹部)	92	25.6	32
社寺林	67	18.7	28
台場クスギ	65	18.1	14
初谷川	64	17.8	15
川西北小前の水路	44	12.3	12
エノキ林	20	5.6	6
合計	2,271	-	-

【年代別の認知度】

年代別の認知度については、前回アンケート同様、各年代とも地域の農産物や里山系の項目が上位となっている。

順位		～19歳	20歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳以上
1	今回	イチジク	イチジク	イチジク	イチジク	イチジク	イチジク
	前回	イチジク	イチジク	イチジク	イチジク	イチジク	イチジク
2	今回	日本一の里山	猪名川渓谷	鼓が滝	日本一の里山	クリ	猪名川渓谷
	前回	一庫炭	鼓が滝	鼓が滝	鼓が滝	一庫炭	モモ
3	今回	一庫炭	日本一の里山	猪名川渓谷	鼓が滝	猪名川渓谷	鼓が滝
	前回	鼓が滝	猪名川	一庫炭	一庫炭	クリ	クリ
4	今回	鼓が滝	一庫炭	日本一の里山	一庫炭	鼓が滝	一庫炭
	前回	日本一の里山	ヒメボタル	モモ	クリ	モモ	鼓が滝
5	今回	ヒメボタル	鼓が滝	ヒメボタル	猪名川渓谷	一庫炭	日本一の里山
	前回	ヒメボタル	モモ	クリ	日本一の里山	鼓が滝	一庫炭
6	今回	猪名川渓谷	クリ	一庫炭	ヒメボタル	日本一の里山	クリ
	前回	クリ	一庫炭	猪名川	猪名川	猪名川	猪名川
7	今回	エドヒガン	モモ	エドヒガン	エドヒガン	エドヒガン	モモ
	前回	モモ	クリ	ヒメボタル	モモ	日本一の里山	日本一の里山
8	今回	台場クヌギ	エドヒガン	妙見山のブナ	クリ	ヒメボタル	エドヒガン
	前回	猪名川	日本一の里山	日本一の里山	ヒメボタル	ヒメボタル	エドヒガン
9	今回	モモ	ヒメボタル	クリ	モモ	モモ	ヒメボタル
	前回	エドヒガン	棚田	エドヒガン	エドヒガン	エドヒガン	社寺林
10	今回	妙見山のブナ	棚田	モモ	妙見山のブナ	棚田	妙見山のブナ
	前回	妙見山のブナ	妙見山のブナ	棚田	棚田	棚田	ヒメボタル
11	今回	クリ	妙見山のブナ	台場クヌギ	棚田	妙見山のブナ	棚田
	前回	市街地の水路	エドヒガン	妙見山のブナ	妙見山のブナ	社寺林	棚田
12	今回	初谷川	初谷川	棚田	初谷川	社寺林	社寺林
	前回	台場クヌギ	社寺林	社寺林	社寺林	妙見山のブナ	妙見山のブナ
13	今回	棚田	台場クヌギ	初谷川	台場クヌギ	川西北小前の水路	初谷川
	前回	棚田	初谷川	初谷川	初谷川	初谷川	初谷川
14	今回	川西北小前の水路	社寺林	川西北小前の水路	社寺林	台場クヌギ	台場クヌギ
	前回	社寺林	台場クヌギ	台場クヌギ	台場クヌギ	台場クヌギ	台場クヌギ
15	今回	エノキ林	エノキ林	社寺林	エノキ林	初谷川	川西北小前の水路
	前回	エノキ林	市街地の水路	市街地の水路	市街地の水路	市街地の水路	市街地の水路
16	今回	社寺林	川西北小前の水路	エノキ林	川西北小前の水路	エノキ林	エノキ林
	前回	初谷川	エノキ林	エノキ林	エノキ林	エノキ林	エノキ林

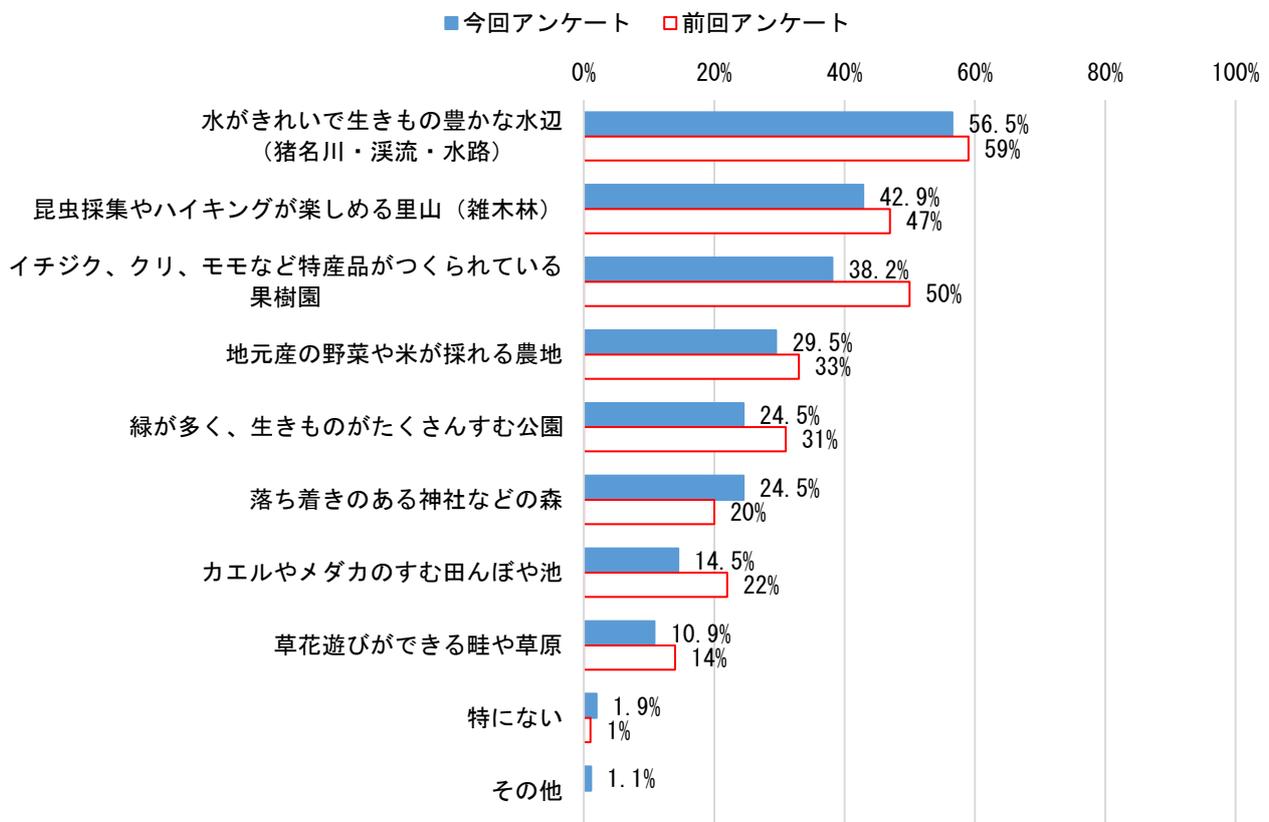
凡例：	地域の農産物	里山系	台場クヌギ	エドヒガン	ヒメボタル
-----	--------	-----	-------	-------	-------

今後、川西市で残したいと思う自然はどのようなものですか。(〇は3つまで)

〈市民〉

川西市で残したいと思う自然については、「水がきれいで生きもの豊かな水辺（猪名川・溪流・水路）」（56.5%）が最も多く、次いで、「昆虫採集やハイキングが楽しめる里山（雑木林）」（42.9%）、「イチジク、クリ、モモなど特産品がつくられている果樹園」（38.2%）と続いている。

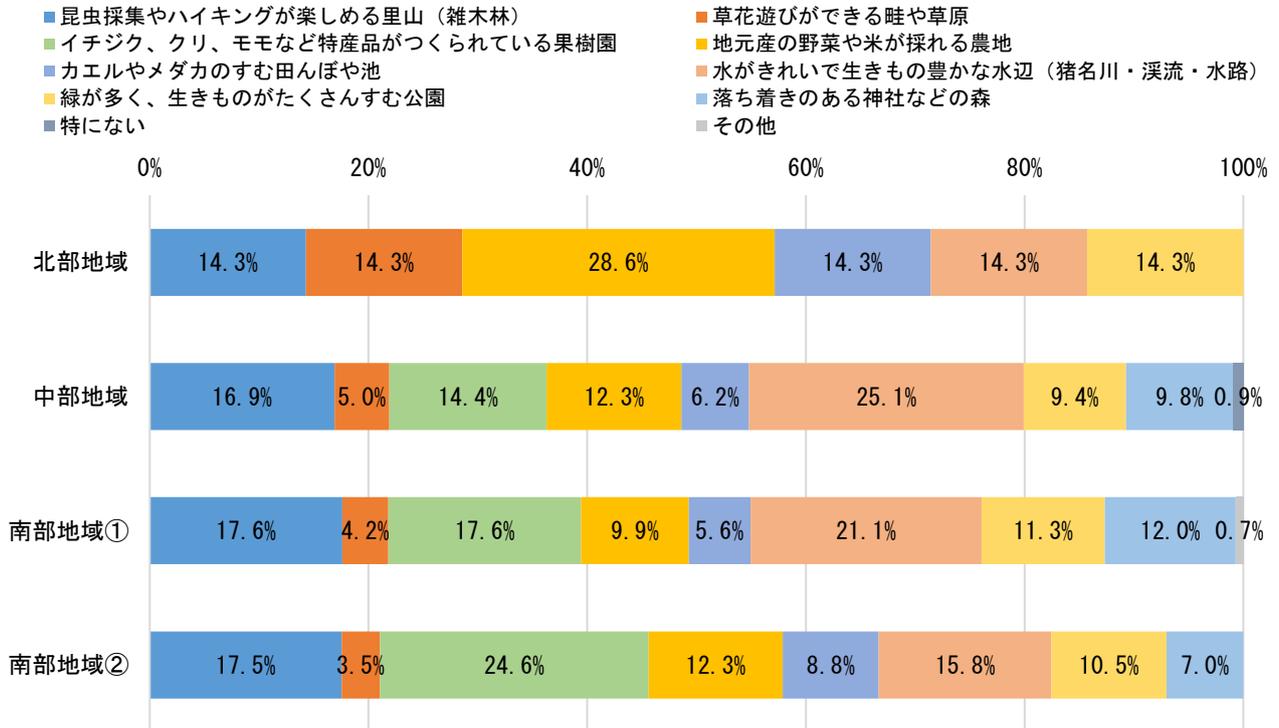
前回アンケートと比較すると、「昆虫採集やハイキングが楽しめる里山（雑木林）」、「落ち着いたきのある神社などの森」の順位が上がり、「イチジク、クリ、モモなど特産品がつくられている果樹園」、「カエルやメダカのすむ田んぼや池」の順位が下がっている。



	回答数 (件)	割合 (%)	前回アンケート (%)
水がきれいで生きもの豊かな水辺 (猪名川・溪流・水路)	203	56.5	59
昆虫採集やハイキングが楽しめる里山 (雑木林)	154	42.9	47
イチジク、クリ、モモなど特産品がつくられている果樹園	137	38.2	50
地元産の野菜や米が採れる農地	106	29.5	33
落ち着いたきのある神社などの森	88	24.5	31
緑が多く、生きものがたくさんすむ公園	88	24.5	20
カエルやメダカのすむ田んぼや池	52	14.5	22
草花遊びができる畦や草原	39	10.9	14
特にない	7	1.9	1
その他	4	1.1	-
合計	878	-	-

【居住地域別】

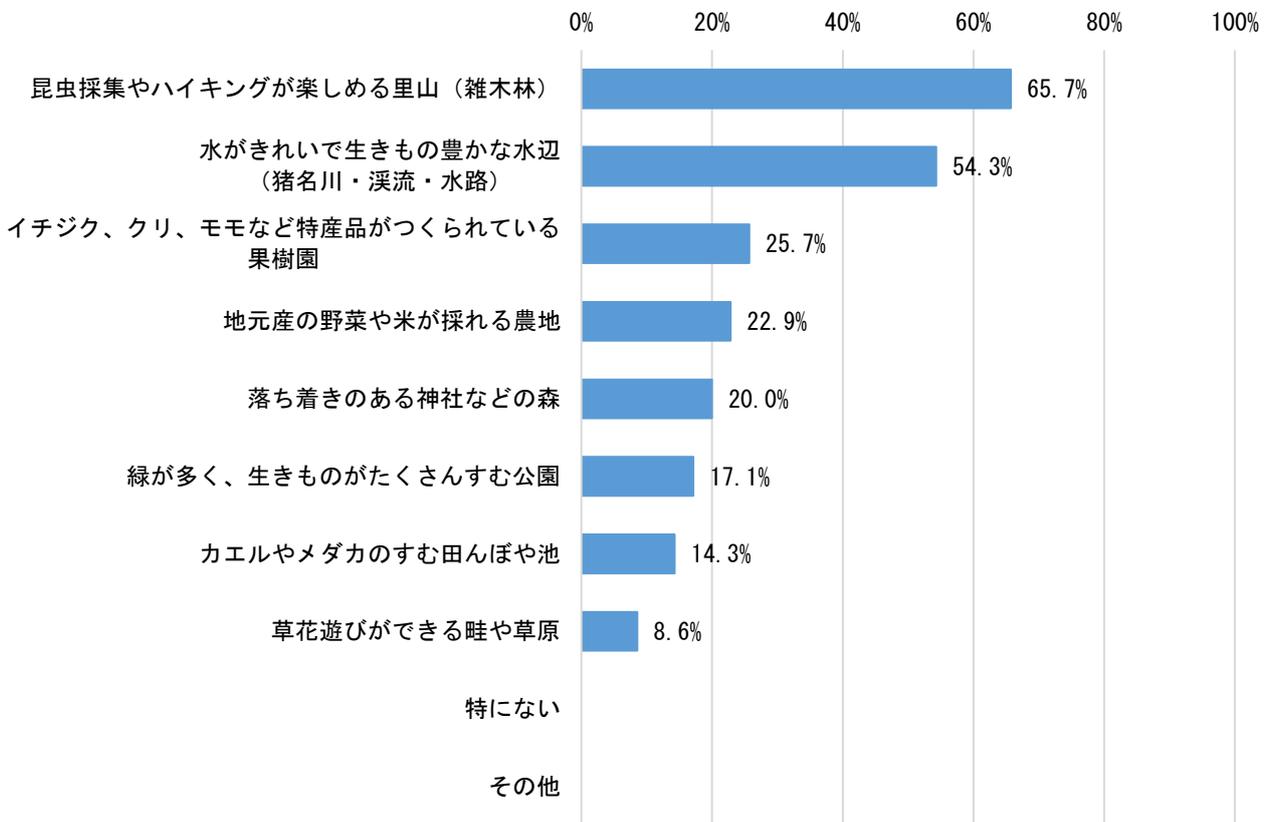
居住地域別の川西市で残したいと思う自然について、北部地域は「草花遊びができる畦や草原」、「地元産の野菜や米が採れる農地」、中部地域は「水がきれいで生きもの豊かな水辺（猪名川・溪流・水路）」、南部地域①は「落ち着いたきのある神社などの森」、南部地域②は「イチジク、クリ、モモなど特産品がつくられている果樹園」が、他の地域に比べて多くなっている。



		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	合計
北部地域	回答数 (件)	1	1	0	2	1	1	1	0	0	0	7
	割合 (%)	14.3	14.3	0.0	28.6	14.3	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	100.0
中部地域	回答数 (件)	74	22	63	54	27	110	41	43	4	0	438
	割合 (%)	16.9	5.0	14.4	12.3	6.2	25.1	9.4	9.8	0.9	0.0	100.0
南部地域①	回答数 (件)	25	6	25	14	8	30	16	17	0	1	142
	割合 (%)	17.6	4.2	17.6	9.9	5.6	21.1	11.3	12.0	0.0	0.7	100.0
南部地域②	回答数 (件)	10	2	14	7	5	9	6	4	0	0	57
	割合 (%)	17.5	3.5	24.6	12.3	8.8	15.8	10.5	7.0	0.0	0.0	100.0

〈事業者〉

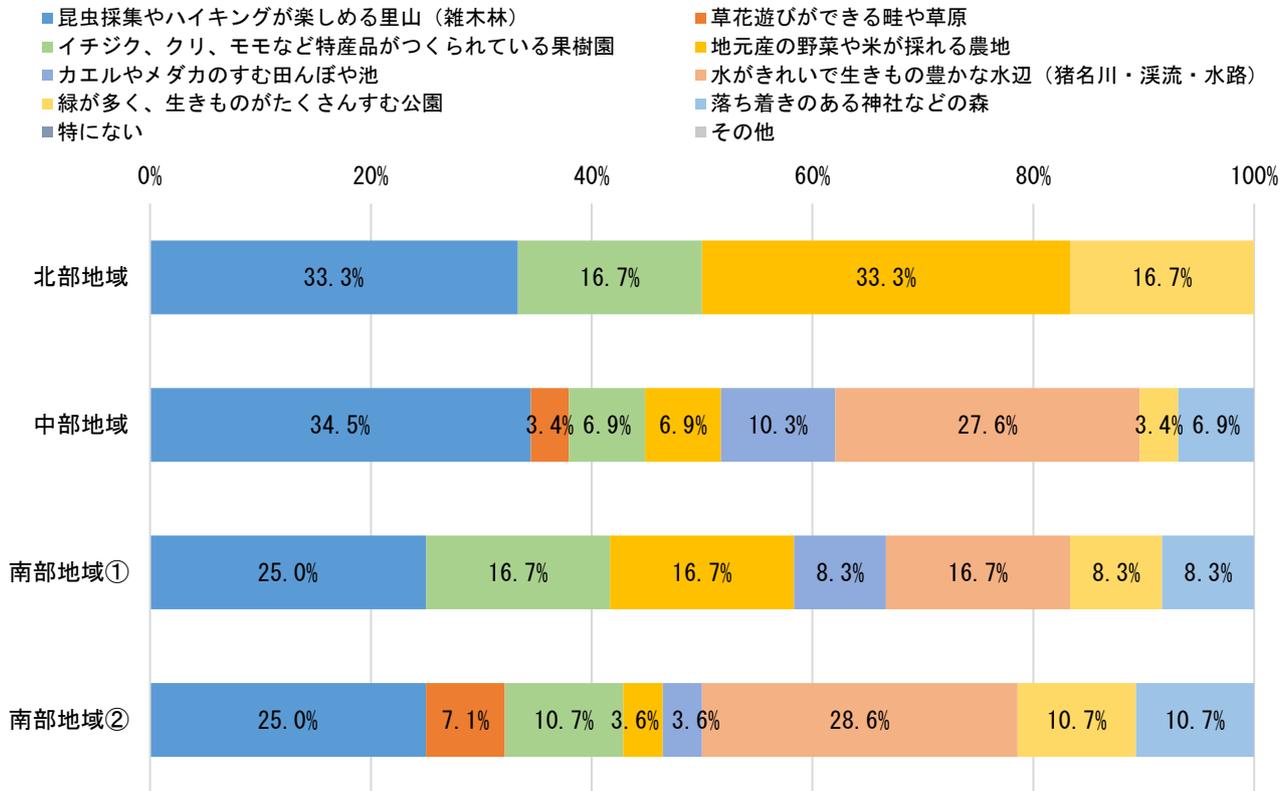
川西市で残したいと思う自然については、「昆虫採集が楽しめる里山（雑木林）」（65.7%）が最も多く、次いで、「水がきれいで生きもの豊かな水辺（猪名川・溪流・水路）」（54.3%）、「イチジク、クリ、モモなど特産品がつくられている果樹園」（25.7%）と続いている。



	回答数 (件)	割合 (%)
昆虫採集やハイキングが楽しめる里山（雑木林）	23	65.7
水がきれいで生きもの豊かな水辺（猪名川・溪流・水路）	19	54.3
イチジク、クリ、モモなど特産品がつくられている果樹園	9	25.7
地元産の野菜や米が採れる農地	8	22.9
落ち着いたきのある神社などの森	7	20.0
緑が多く、生きものがたくさんすむ公園	6	17.1
カエルやメダカのすむ田んぼや池	5	14.3
草花遊びができる畦や草原	3	8.6
特にない	0	0.0
その他	0	0.0
合計	80	-

【事業所所在地域別】

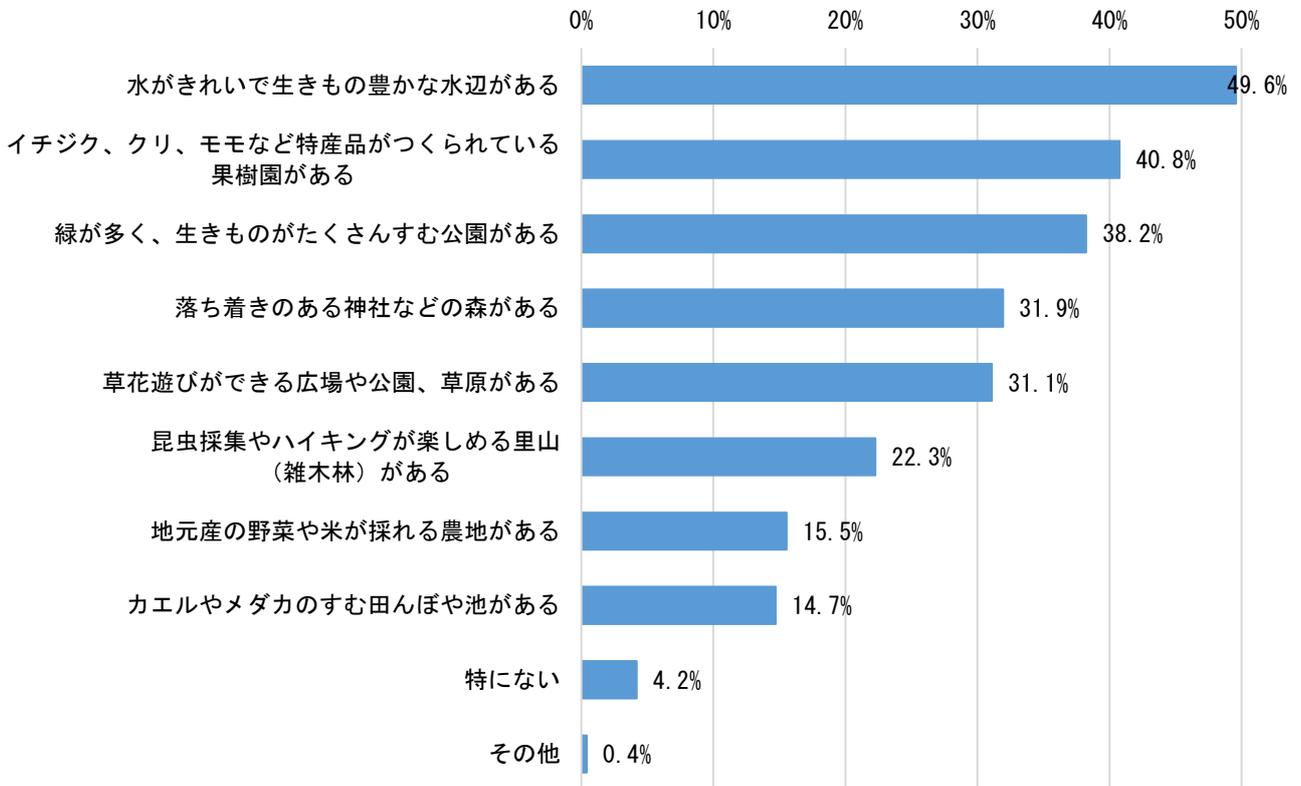
事業所所在地域別の川西市で残したいと思う自然について、北部地域は「地元産の野菜や米が採れる農地」、「緑が多く、生きものがたくさんすむ公園」、中部地域は「カエルやメダカのすむ田んぼや池」、南部地域②は「落ち着いたきのある神社などの森」が、他の地域に比べて多くなっている。



		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	合計
北部地域	回答数 (件)	2	0	1	2	0	0	1	0	0	0	6
	割合 (%)	33.3	0.0	16.7	33.3	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	100.0
中部地域	回答数 (件)	10	1	2	2	3	8	1	2	0	0	29
	割合 (%)	34.5	3.4	6.9	6.9	10.3	27.6	3.4	6.9	0.0	0.0	100.0
南部地域①	回答数 (件)	3	0	2	2	1	2	1	1	0	0	12
	割合 (%)	25.0	0.0	16.7	16.7	8.3	16.7	8.3	8.3	0.0	0.0	100.0
南部地域②	回答数 (件)	7	2	3	1	1	8	3	3	0	0	28
	割合 (%)	25.0	7.1	10.7	3.6	3.6	28.6	10.7	10.7	0.0	0.0	100.0

〈小学生〉

川西市で残したいと思う自然については、「水がきれいで生きもの豊かな水辺がある」(49.6%)が最も多く、次いで、「イチジク、クリ、モモなど特産品がつくられている果樹園がある」(40.8%)、「緑が多く、生きものがたくさんすむ公園がある」(38.2%)、と続いている。



	回答数 (件)	割合 (%)
水がきれいで生きもの豊かな水辺がある	118	49.6
イチジク、クリ、モモなど特産品がつくられている果樹園がある	97	40.8
緑が多く、生きものがたくさんすむ公園がある	91	38.2
落ち着いたきのある神社などの森がある	76	31.9
草花遊びができる広場や公園、草原がある	74	31.1
昆虫採集やハイキングが楽しめる里山(雑木林)がある	53	22.3
地元産の野菜や米が採れる農地がある	37	15.5
カエルやメダカのすむ田んぼや池がある	35	14.7
特にない	10	4.2
その他	1	0.4
合計	592	-

逆に過去よりも悪くなり、元に戻すべき自然や場所があればお書きください。（自由記述）

〈市民〉

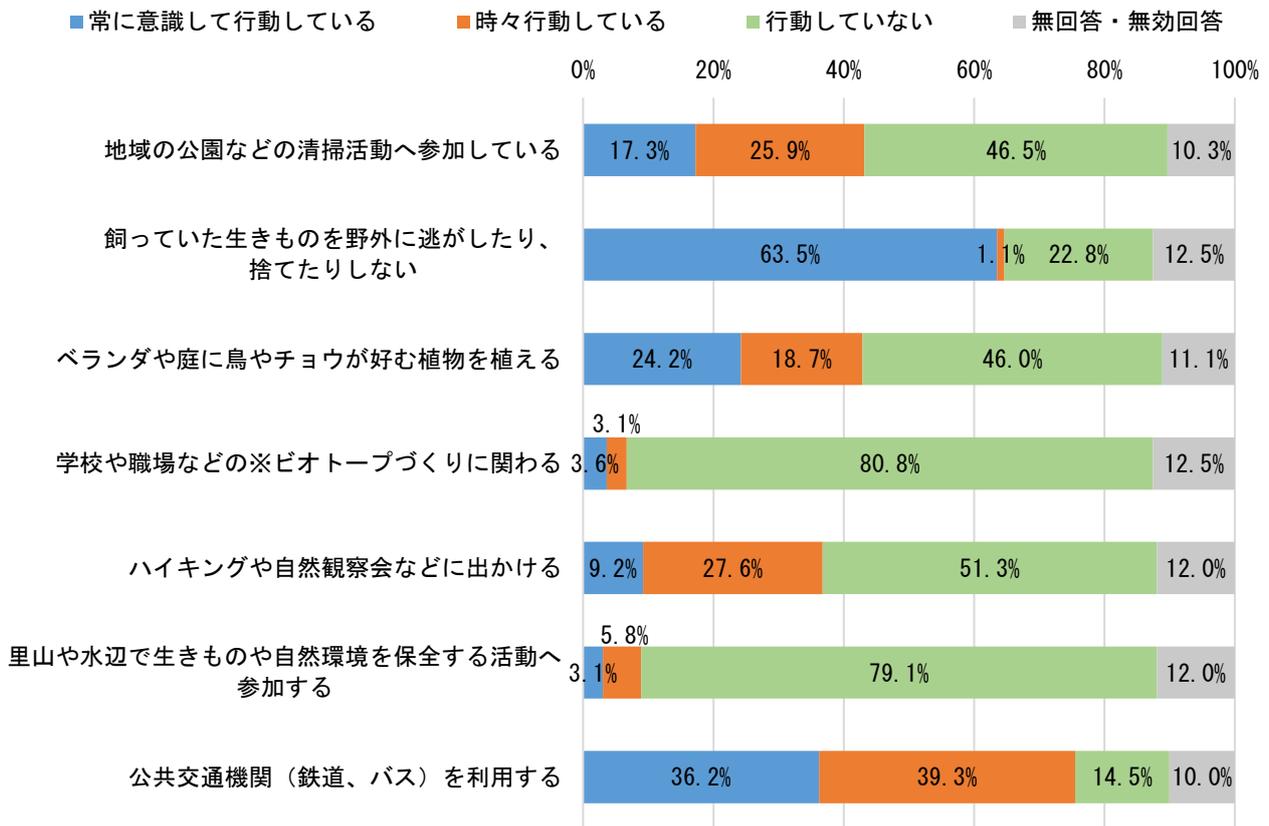
過去よりも悪くなった自然や場所についての意見は、以下のとおりである。河川環境悪化や田畑の減少、住宅の増加、緑の適切な管理に関する意見が多くなっている。

カテゴリー	件数	内容（抜粋）
河川	22件	<ul style="list-style-type: none"> ・川（猪名川、最明寺川等）沿いや池の生きものが減った ・川（猪名川、最明寺川等）沿いや池のごみのポイ捨てが多い ・川や池、水路（の水）が少なくなった ・川（猪名川）や池の水が汚い ・水辺の整備（草刈りや樹木の剪定）がされていない ・初谷川に外来生物が増えてきた
森林	7件	<ul style="list-style-type: none"> ・森林や生きものが減った ・畦野駅近くの森が再開発で削られている ・舎羅林山の景観が悪くなった ・山が切り開かれている ・クマが発見されている
田畑	15件	<ul style="list-style-type: none"> ・田畑（東畦野の田、赤松・笹部の棚田、イチジク園、モモ園等）が減り、代わりに住宅が建っている ・森林からおりてきた野生動物（イノシシ、シカ、アライグマ等）が田畑を荒らしている ・田んぼの水路の生きもの（カエル等）が減った
住宅地内	18件	<ul style="list-style-type: none"> ・路面が整備されていない ・道路整備が進み、環境破壊が進んでいる ・住宅が増え、緑が減った ・空き家が増えた ・街路樹が手入れされていない（ナラ枯れ、高齢化による腐敗、剪定がされていない等） ・公園が整備されていない ・川西市立北稜小学校前の低木（キンモクセイ等）が伐られてしまった
環境全般	3件	<ul style="list-style-type: none"> ・昆虫（ホタル等）や魚（アユ等）が減った ・サクラなど樹木の管理が行き届いておらず、枯れそうになっている
工事に対する不満	6件	<ul style="list-style-type: none"> ・騒音、振動、道路を汚すなど、業者の態度が悪い ・川西 IC に流通施設が建設中であり、新名神とともにトラック等の排気汚染が気になる ・猪名川溪谷ラインの道路整備がされていない
その他	8件	<ul style="list-style-type: none"> ・日本一の里山とは知っているが、市民の何人が訪ねたのか、ブナも棚田も、どれほど川西の観光を牽引しているか ・開発後、老朽化しているインフラをどうリニューアルするかが重要課題

日常生活の中で生きものや自然環境に配慮した行動を心がけていますか。(〇は1つずつ)

〈市民〉

生きものや自然環境に配慮した行動の取り組み状況について、「常に意識して行動している」、「時々行動している」の回答が特に多い上位3項目は、「公共交通機関（鉄道、バス）を利用する」（75.5%）、「飼っていた生きものを野外に逃がしたり、捨てたりしない」（64.6%）、「地域の公園などの清掃活動へ参加している」（43.2%）であった。



〈凡例〉 ①常に意識して行動している ②時々行動している ③行動していない ④無回答・無効回答		①	②	③	④	合計
地域の公園などの清掃活動へ参加している	回答数 (件)	62	93	167	37	359
	割合 (%)	17.3	25.9	46.5	10.3	100.0
飼っていた生きものを野外に逃がしたり、捨てたりしない	回答数 (件)	228	4	82	45	359
	割合 (%)	63.5	1.1	22.8	12.5	100.0
ベランダや庭に鳥やチョウが好む植物を植える	回答数 (件)	87	67	165	40	359
	割合 (%)	24.2	18.7	46.0	11.1	100.0
学校や職場などの※ビオトープづくりに関わる	回答数 (件)	13	11	290	45	359
	割合 (%)	3.6	3.1	80.8	12.5	100.0
ハイキングや自然観察会などに出かける	回答数 (件)	33	99	184	43	359
	割合 (%)	9.2	27.6	51.3	12.0	100.0
里山や水辺で生きものや自然環境を保全する活動へ参加する	回答数 (件)	11	21	284	43	359
	割合 (%)	3.1	5.8	79.1	12.0	100.0
公共交通機関（鉄道、バス）を利用する	回答数 (件)	130	141	52	36	359
	割合 (%)	36.2	39.3	14.5	10.0	100.0

※ビオトープ (Biotope) : 「生きもの (Bio)」が生息する「環境・空間 (Tope)」という意味。具体的には、ため池、湿地、草原、里山などの場所であり、生きものを呼び込むために人工的に作り出したものこと。

生きものや自然環境を対象にした保全活動・学習会などに参加した経験や意思についてお尋ねします。

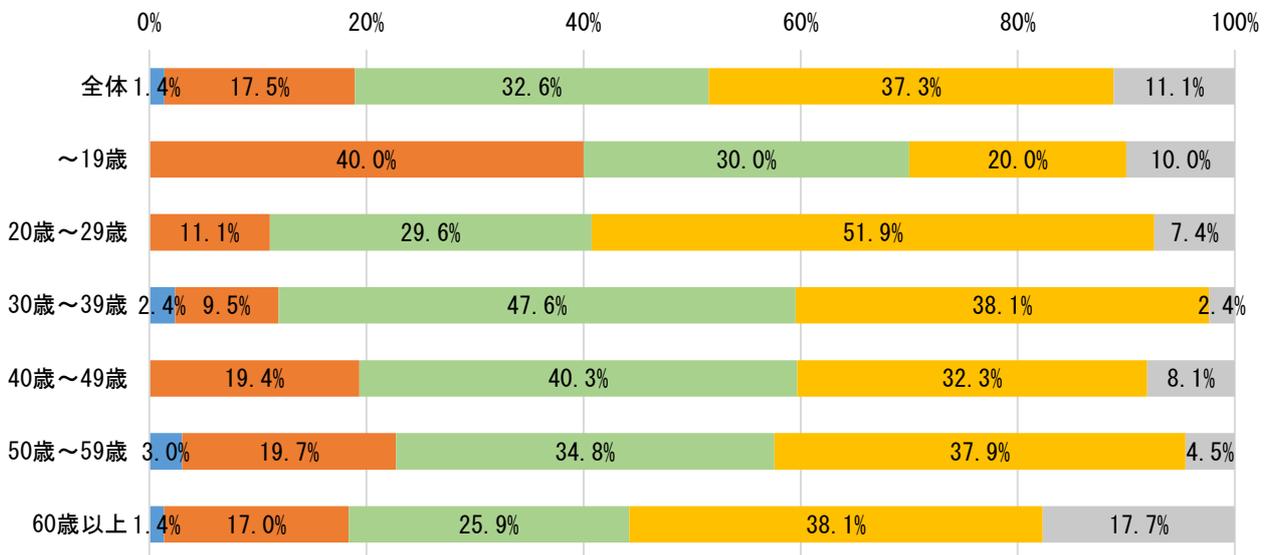
<① 参加経験や意思について、あてはまる内容1つに○をつけてください。>

〈市民〉

生きものや自然環境を対象にした保全活動・学習会への参加経験や意思について、全体では、「特に興味はない」(37.3%)が最も多く、次いで、「参加したことはないが、今後は、参加してみたいと思っている」(32.6%)と続いている。「よく参加している」、「参加したことがある」は合わせて18.9%となっている。

今回アンケートの年代別の参加率については、「～19歳」、「50～59歳」で20%を超えている。

- よく参加している
- 参加したことがある
- 参加したことはないが、今後は、参加してみたいと思っている
- 特に興味はない
- 無回答・無効回答

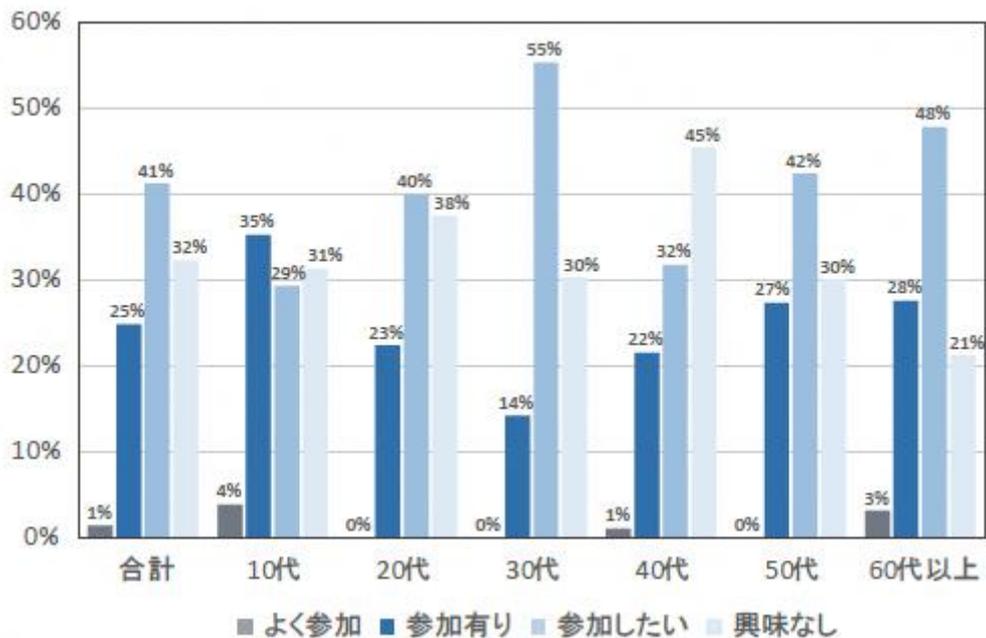


〈凡例〉		①よく参加している	②参加したことがある	③参加したことはないが、今後は、参加してみたいと思っている	④特に興味はない	⑤無回答・無効回答	合計
全体	回答数(件)	5	63	117	134	40	359
	割合(%)	1.4	17.5	32.6	37.3	11.1	100.0
～19歳	回答数(件)	0	4	3	2	1	10
	割合(%)	0.0	40.0	30.0	20.0	10.0	100.0
20歳～29歳	回答数(件)	0	3	8	14	2	27
	割合(%)	0.0	11.1	29.6	51.9	7.4	100.0
30歳～39歳	回答数(件)	1	4	20	16	1	42
	割合(%)	2.4	9.5	47.6	38.1	2.4	100.0
40歳～49歳	回答数(件)	0	12	25	20	5	62
	割合(%)	0.0	19.4	40.3	32.3	8.1	100.0
50歳～59歳	回答数(件)	2	13	23	25	3	66
	割合(%)	3.0	19.7	34.8	37.9	4.5	100.0
60歳以上	回答数(件)	2	25	38	56	26	147
	割合(%)	1.4	17.0	25.9	38.1	17.7	100.0

【前回アンケートとの比較】

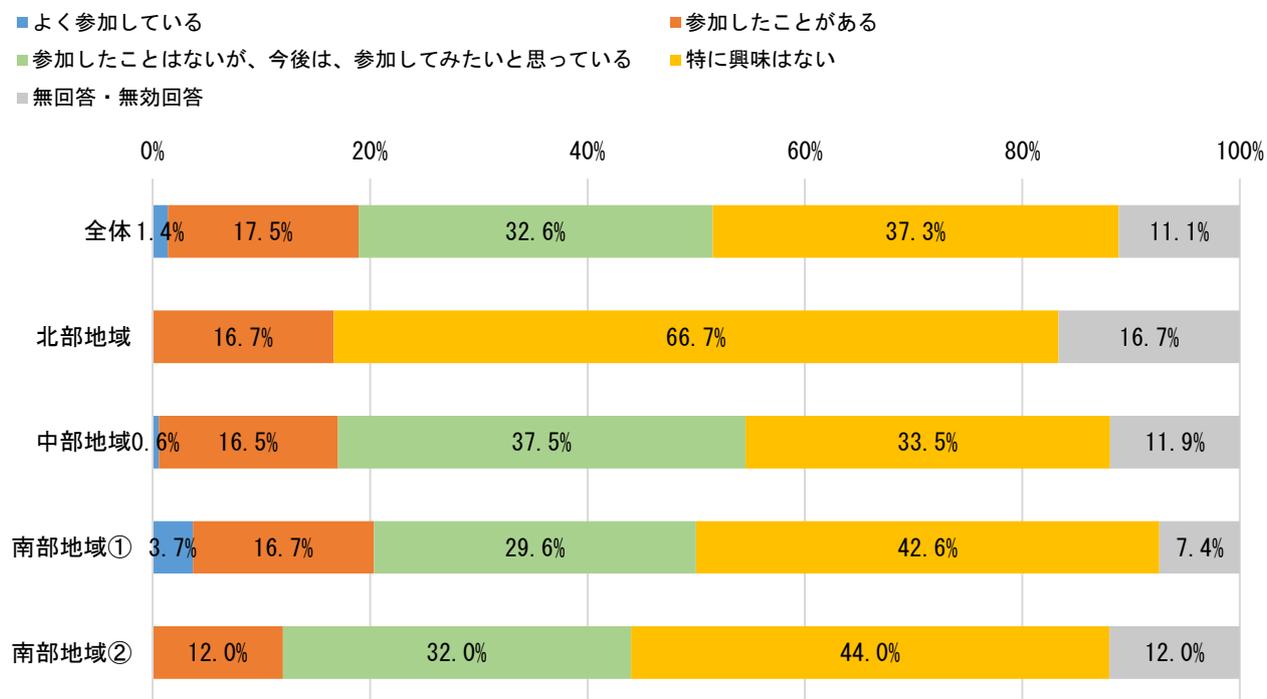
前回アンケート時の全体では、「よく参加している」、「参加したことがある」を合わせて約26%であり、今回アンケートでは、参加率が約7%下がっている。

年代別の参加率についても、「よく参加している」、「参加したことがある」、「参加したことはないが、今後は、参加してみたいと思っている」が各年代とも下がっており、「特に興味はない」が上がっている。



【居住地域別】

今回アンケートの居住地域別の参加率については、「南部地域①」で20%を超えている一方で、「南部地域②」では12.0%と他の地域に比べてやや低くなっている。

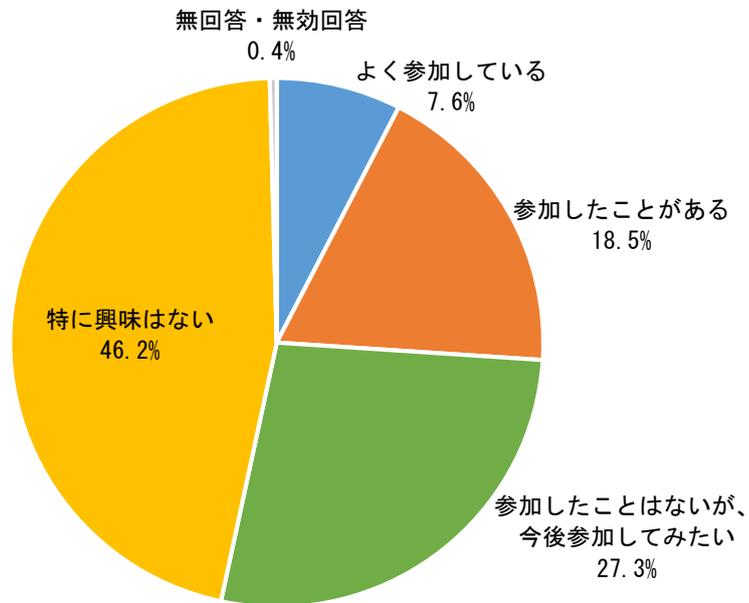


〈凡例〉		①よく参加している	②参加したことがある	③参加したことはないが、今後は、参加してみたいと思っている	④特に興味はない	⑤無回答・無効回答	合計
全体	回答数 (件)	5	63	117	134	40	359
	割合 (%)	1.4	17.5	32.6	37.3	11.1	100.0
北部地域	回答数 (件)	0	1	0	4	1	6
	割合 (%)	0.0	16.7	0.0	66.7	16.7	100.0
中部地域	回答数 (件)	1	29	66	59	21	176
	割合 (%)	0.6	16.5	37.5	33.5	11.9	100.0
市街地地域①	回答数 (件)	2	9	16	23	4	54
	割合 (%)	3.7	16.7	29.6	42.6	7.4	100.0
市街地地域②	回答数 (件)	0	3	8	11	3	25
	割合 (%)	0.0	12.0	32.0	44.0	12.0	100.0

〈小学生〉

生きものや自然環境を対象にした学校以外での活動への参加経験や意思については、「特に興味はない」(46.2%) が最も多く、次いで、「参加したことはないが、今後参加してみたい」(27.3%) と続いている。

「よく参加している」、「参加したことがある」は合わせて26.1%となっている。



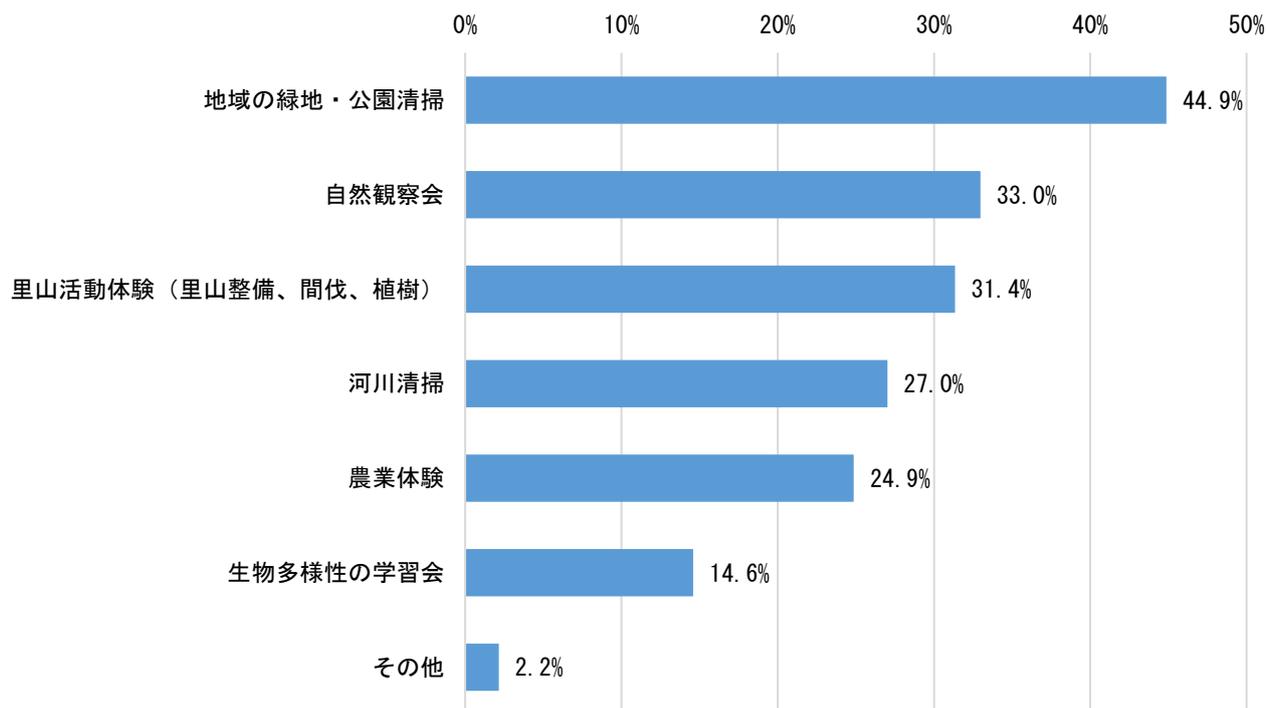
	回答数 (件)	割合 (%)
よく参加している	18	7.6
参加したことがある	44	18.5
参加したことはないが、今後参加してみたい	65	27.3
特に興味はない	110	46.2
無回答・無効回答	1	0.4
合計	238	100.0

<② 参加している・参加したい活動などについて、あてはまる項目すべてに○をつけてください>

※①で「よく参加している」、「参加したことがある」、「参加したことはないが、今後は、参加してみたいと思っている」を選択した人を対象。

〈市民〉

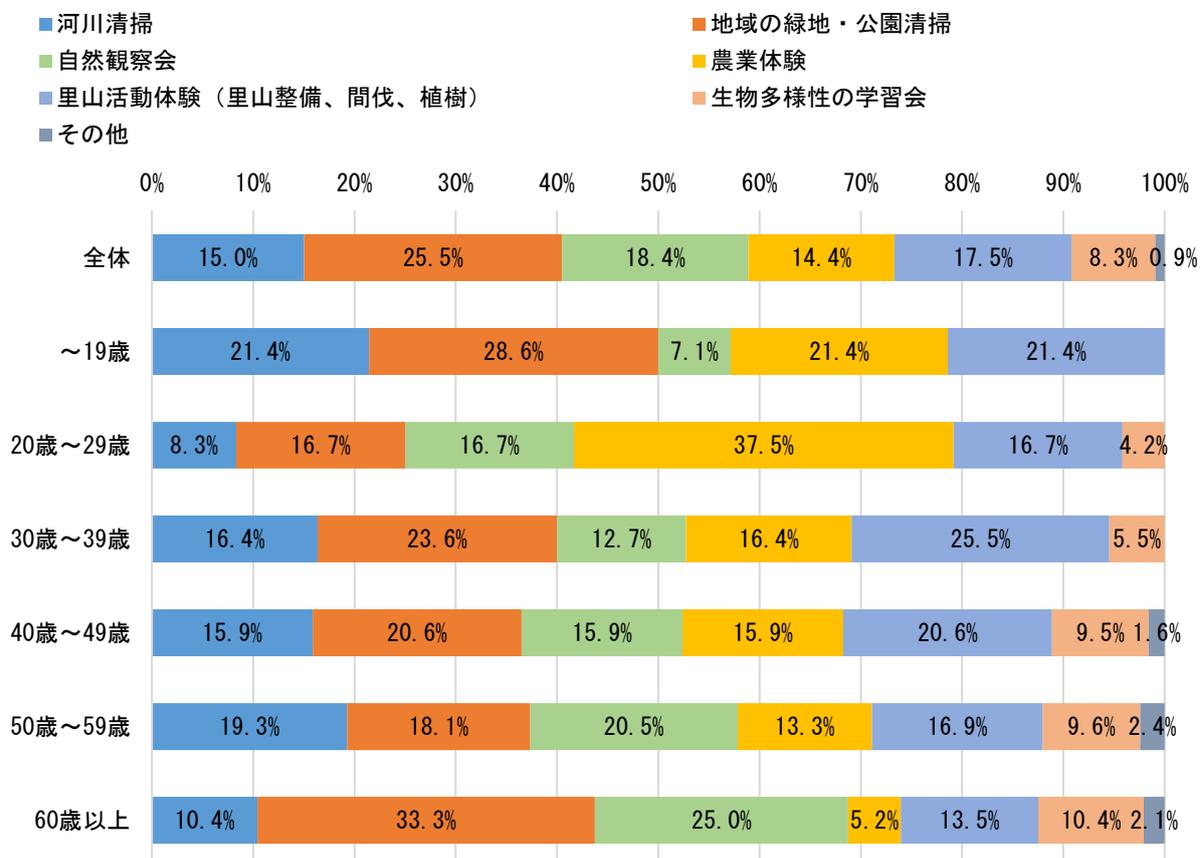
参加している、参加したい活動については、「地域の緑地・公園清掃」(44.9%)が最も多く、次いで、「自然観察会」(33.0%)、「里山活動体験(里山整備、間伐、植樹)」(31.4%)と続いている。



	回答数 (件)	割合 (%)
地域の緑地・公園清掃	83	44.9
自然観察会	61	33.0
里山活動体験 (里山整備、間伐、植樹)	58	31.4
河川清掃	50	27.0
農業体験	46	24.9
生物多様性の学習会	27	14.6
その他	4	2.2
合計	329	-

【年代別】

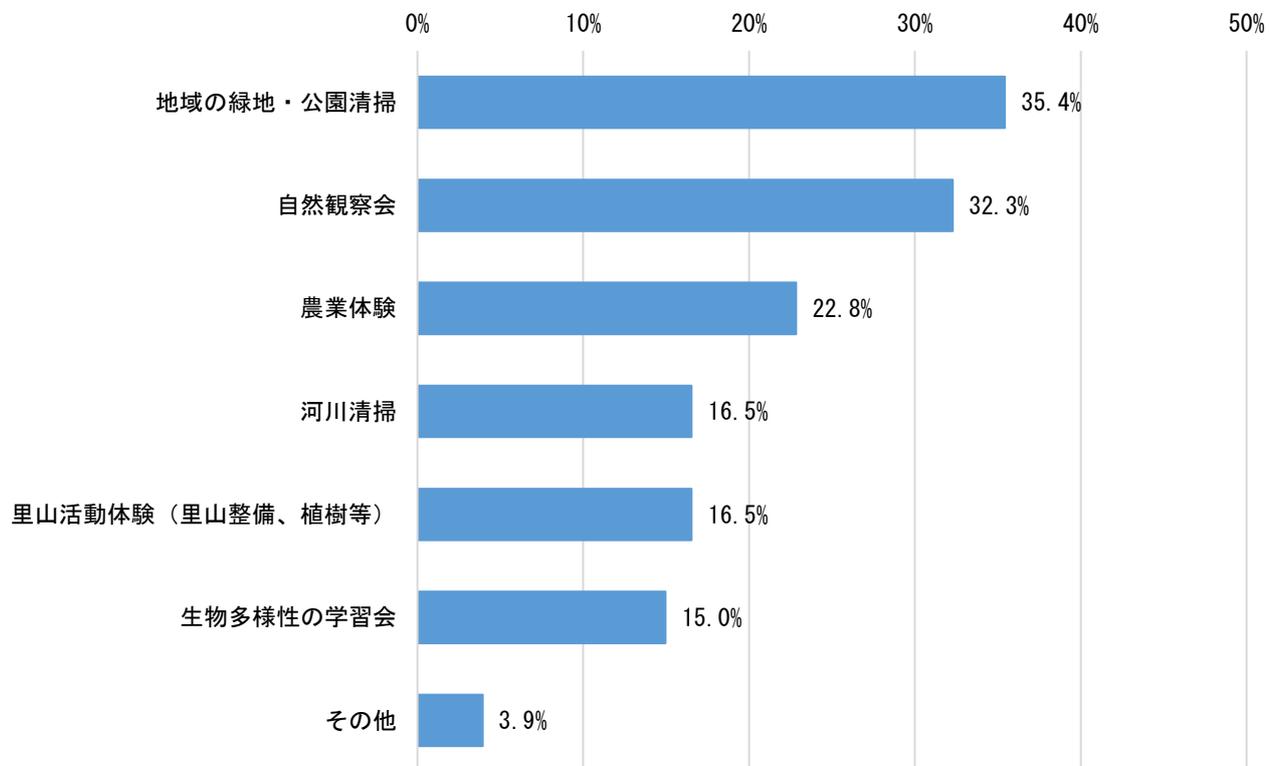
年代別の参加している・参加したい活動については、20歳～29歳の「農業体験」、30歳～39歳の「里山活動体験（里山整備、間伐、植樹）」、60歳以上の「地域の緑地・公園清掃」等が特に多くなっている。



〈凡例〉		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	合計
全体	回答数 (件)	49	83	60	47	57	27	3	326
	割合 (%)	15.0	25.5	18.4	14.4	17.5	8.3	0.9	100.0
～19歳	回答数 (件)	3	4	1	3	3	0	0	14
	割合 (%)	21.4	28.6	7.1	21.4	21.4	0.0	0.0	100.0
20歳～29歳	回答数 (件)	2	4	4	9	4	1	0	24
	割合 (%)	8.3	16.7	16.7	37.5	16.7	4.2	0.0	100.0
30歳～39歳	回答数 (件)	9	13	7	9	14	3	0	55
	割合 (%)	16.4	23.6	12.7	16.4	25.5	5.5	0.0	100.0
40歳～49歳	回答数 (件)	10	13	10	10	13	6	1	63
	割合 (%)	15.9	20.6	15.9	15.9	20.6	9.5	1.6	100.0
50歳～59歳	回答数 (件)	16	15	17	11	14	8	2	83
	割合 (%)	19.3	18.1	20.5	13.3	16.9	9.6	2.4	100.0
60歳以上	回答数 (件)	10	32	24	5	13	10	2	96
	割合 (%)	10.4	33.3	25.0	5.2	13.5	10.4	2.1	100.0

〈小学生〉

参加している、参加したい活動については、「地域の緑地・公園清掃」(35.4%)が最も多く、次いで、「自然観察会」(32.3%)、「農業体験」(22.8%)と続いている。



	回答数 (件)	割合 (%)
地域の緑地・公園清掃	45	35.4
自然観察会	41	32.3
農業体験	29	22.8
河川清掃	21	16.5
里山活動体験 (里山整備、植樹等)	21	16.5
生物多様性の学習会	19	15.0
その他	5	3.9
合計	181	-

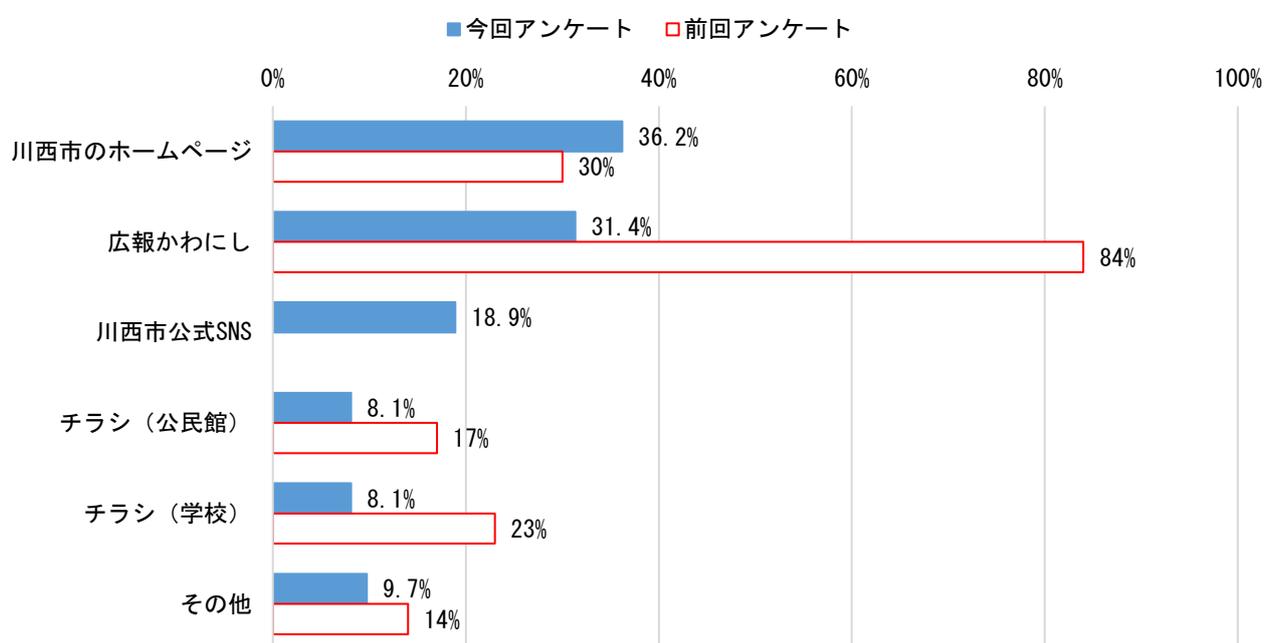
＜③ 情報はどこで知りましたか、また、どこから発信するとよいと思いますか。あてはまる項目すべてに○をつけてください＞

※①で「よく参加している」、「参加したことがある」、「参加したことはないが、今後は、参加してみたいと思っている」を選択した人を対象。

〈市民〉

情報の入手方法や発信元については、「川西市のホームページ」(36.2%)が最も多く、次いで、「広報かわにし」(31.4%)、「川西市公式 SNS」(18.9%)と続いている。

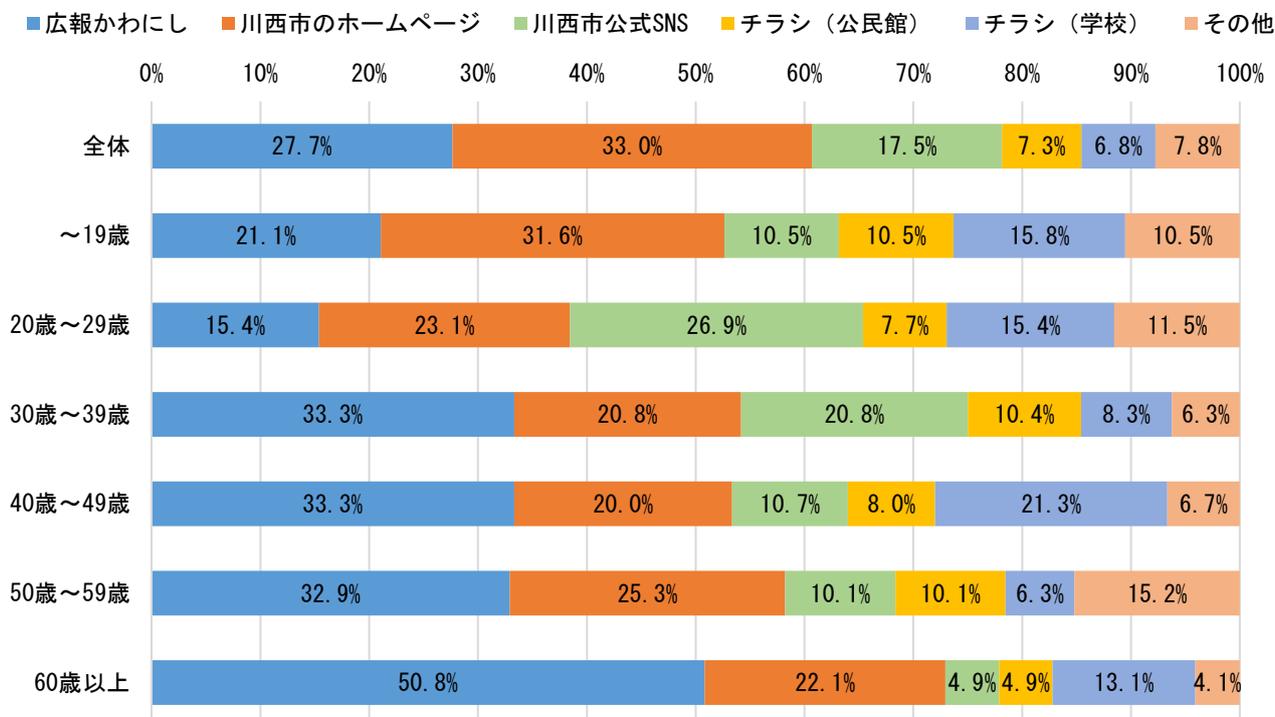
前回アンケートと比較すると、「川西市のホームページ」の順位が上がり、「広報かわにし」の順位が下がっている。また、「広報かわにし」の割合が大きく下がっている。



	回答数 (件)	割合 (%)	前回アンケート (%)
川西市のホームページ	67	36.2	30
広報かわにし	58	31.4	84
川西市公式 SNS	35	18.9	-
チラシ (公民館)	15	8.1	17
チラシ (学校)	15	8.1	23
その他	18	9.7	14
合計	208	-	-

【年代別】

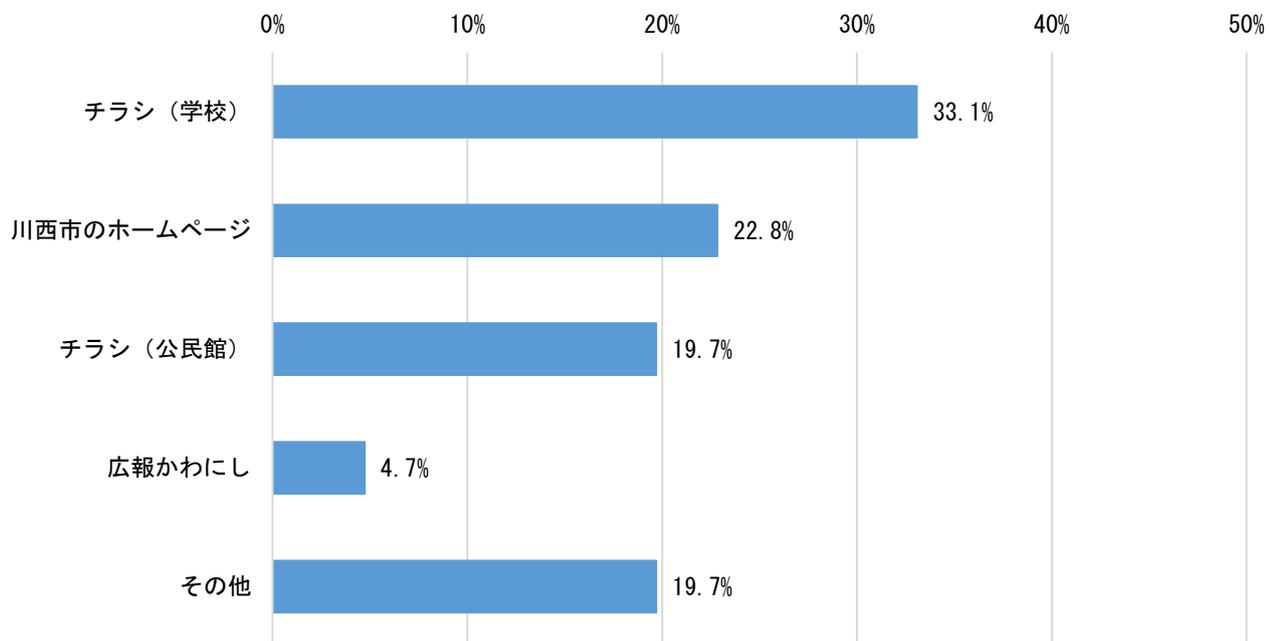
年代別の情報の入手、発信については、20歳～29歳の「川西市公式 SNS」、40歳～49歳の「チラシ（学校）」、60歳以上の「広報かわにし」等が特に多くなっている。



		〈凡例〉 ①広報かわにし ②川西市のホームページ ③川西市公式 SNS ④チラシ（公民館） ⑤チラシ（学校） ⑥その他						
		①	②	③	④	⑤	⑥	合計
全体	回答数（件）	57	68	36	15	14	16	206
	割合（%）	27.7	33.0	17.5	7.3	6.8	7.8	100.0
～19歳	回答数（件）	4	6	2	2	3	2	19
	割合（%）	21.1	31.6	10.5	10.5	15.8	10.5	100.0
20歳～29歳	回答数（件）	4	6	7	2	4	3	26
	割合（%）	15.4	23.1	26.9	7.7	15.4	11.5	100.0
30歳～39歳	回答数（件）	16	10	10	5	4	3	48
	割合（%）	33.3	20.8	20.8	10.4	8.3	6.3	100.0
40歳～49歳	回答数（件）	25	15	8	6	16	5	75
	割合（%）	33.3	20.0	10.7	8.0	21.3	6.7	100.0
50歳～59歳	回答数（件）	26	20	8	8	5	12	79
	割合（%）	32.9	25.3	10.1	10.1	6.3	15.2	100.0
60歳以上	回答数（件）	62	27	6	6	16	5	122
	割合（%）	50.8	22.1	4.9	4.9	13.1	4.1	100.0

〈小学生〉

情報の入手方法については、「チラシ（学校）」（33.1%）が最も多く、次いで、「川西市のホームページ」（22.8%）、「チラシ（公民館）」（19.7%）と続いている。



	回答数（件）	割合（%）
チラシ（学校）	42	33.1
川西市のホームページ	29	22.8
チラシ（公民館）	25	19.7
広報かわにし	6	4.7
その他	25	19.7
合計	127	-

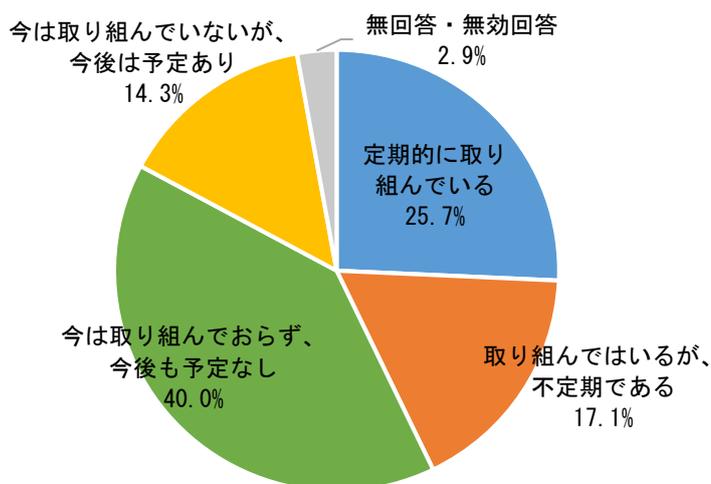
4. 事業者で行っている環境教育・環境学習

貴社での環境教育・環境学習の取り組み状況を教えてください。(〇は1つ)

環境教育・環境学習の取り組み状況については、「定期的に取り組んでいる」、「取り組んではいるが、不定期である」を合わせて42.8%となっている。

一方で、「今は取り組んでおらず、今後も予定なし」(40.0%)が最も多くなっている。

	回答数(件)	割合(%)
定期的に取り組んでいる	9	25.7
取り組んではいるが、不定期である	6	17.1
今は取り組んでおらず、今後も予定なし	14	40.0
今は取り組んでいないが、今後は予定あり	5	14.3
無回答・無効回答	1	2.9
合計	35	100.0

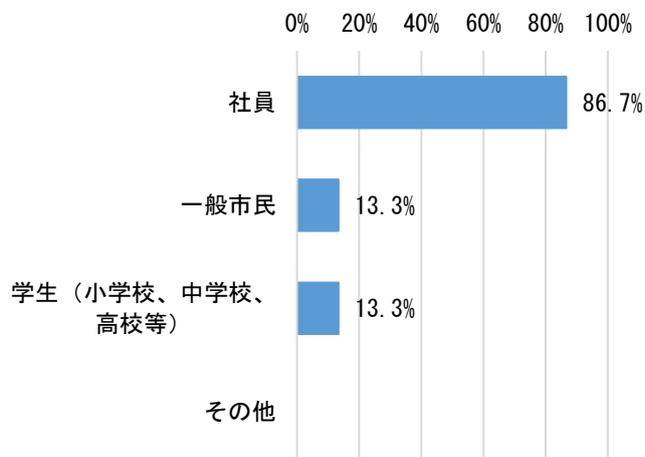


どのような方を対象に実施していますか。(〇はいくつでも)

※前問で「定期的に取り組んでいる」、「取り組んではいるが、不定期である」を選択した事業者を対象。

実施対象については、「社員」(86.7%)が最も多く、次いで、「一般市民」(13.3%)、「学生(小学校、中学校、高校等)」(13.3%)と続いている。

	回答数(件)	割合(%)
社員	13	86.7
一般市民	2	13.3
学生(小学校、中学校、高校等)	2	13.3
その他	0	0.0
合計	17	-

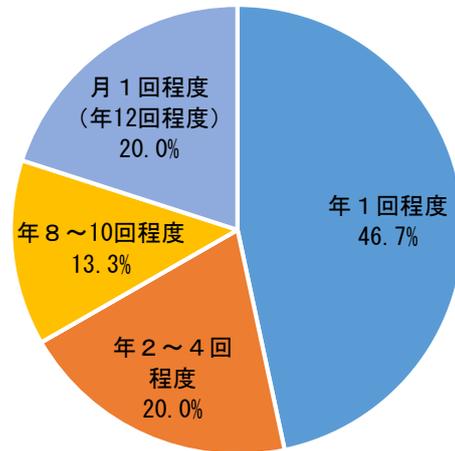


取り組み頻度を教えてください。(〇は1つ)

※前問で「定期的に取り組んでいる」、「取り組んではいるが、不定期である」を選択した事業者を対象。

取り組み頻度については、「年1回程度」(46.7%)が最も多く、次いで、「年2～4回程度」(20.0%)、「月1回程度(年12回程度)」(20.0%)と続いている。

	回答数(件)	割合(%)
年1回程度	7	46.7
年2～4回程度	3	20.0
年5～7回程度	0	0.0
年8～10回程度	2	13.3
月1回程度(年12回程度)	3	20.0
月1回以上(年12回以上)	0	0.0
無回答・無効回答	0	0.0
合計	15	100.0

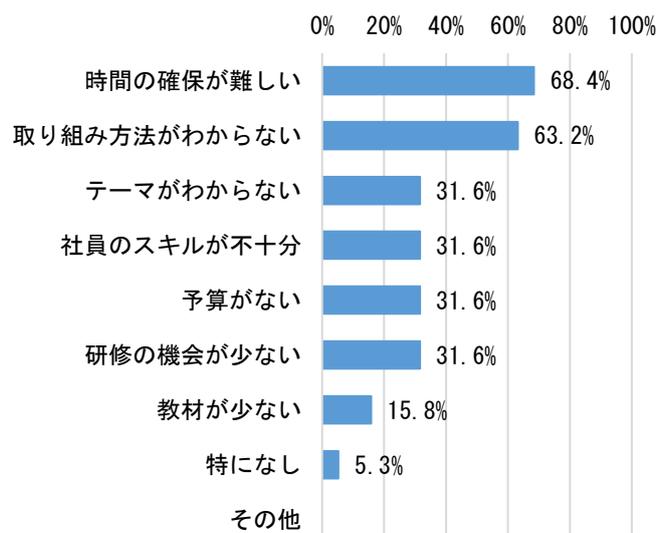


現在は取り組んでいない理由を教えてください。(〇はいくつでも)

※前問で「今は取り組んでおらず、今後も予定なし」、「今は取り組んでいないが、今後は予定あり」を選択した事業者を対象。

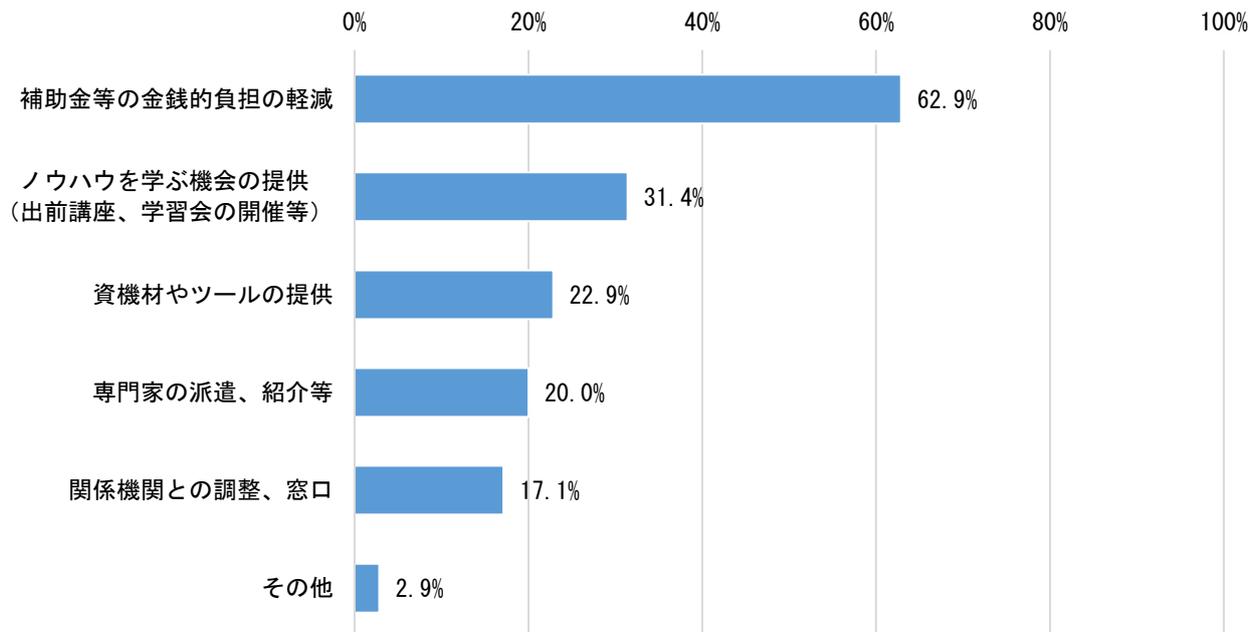
現在は取り組んでいない理由については、「時間の確保が難しい」(68.4%)が最も多く、次いで、「取り組み方法がわからない」(63.2%)と続いている。

	回答数(件)	割合(%)
時間の確保が難しい	13	68.4
取り組み方法がわからない	12	63.2
テーマがわからない	6	31.6
社員のスキルが不十分	6	31.6
予算がない	6	31.6
研修の機会が少ない	6	31.6
教材が少ない	3	15.8
特になし	1	5.3
その他	0	0.0
合計	53	-



貴社が環境問題への取り組みや環境教育を実施する上で市に手伝ってほしいことはありますか。(〇はいくつでも)

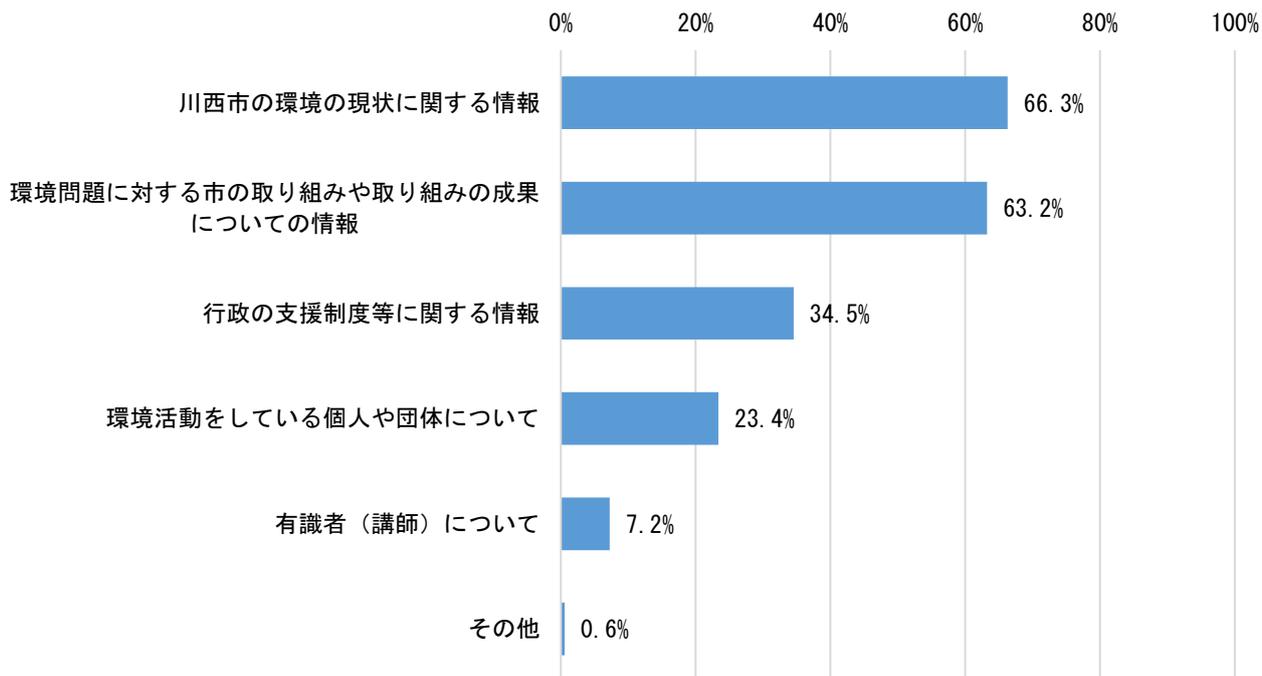
環境問題への取り組みや環境教育を実施する上で市に手伝ってほしいことについては、「補助金等の金銭的負担の軽減」(62.9%)が最も多く、次いで、「ノウハウを学ぶ機会の提供(出前講座、学習会の開催等)」(31.4%)、「資機材やツールの提供」(22.9%)と続いている。



	回答数 (件)	比率 (%)
補助金等の金銭的負担の軽減	22	62.9
ノウハウを学ぶ機会の提供 (出前講座、学習会の開催等)	11	31.4
資機材やツールの提供	8	22.9
専門家の派遣、紹介等	7	20.0
関係機関との調整、窓口	6	17.1
その他	1	2.9
合計	55	-

問 18 市から発信される環境の情報について、どのような内容を知りたいと思いますか。
 (〇はいくつでも)

市から発信される環境の情報に求める内容については、「川西市の環境の現状に関する情報」(66.3%)が最も多く、次いで、「環境問題に対する市の取り組みや取り組みの成果についての情報」(63.2%)、「行政の支援制度等に関する情報」(34.5%)と続いている。



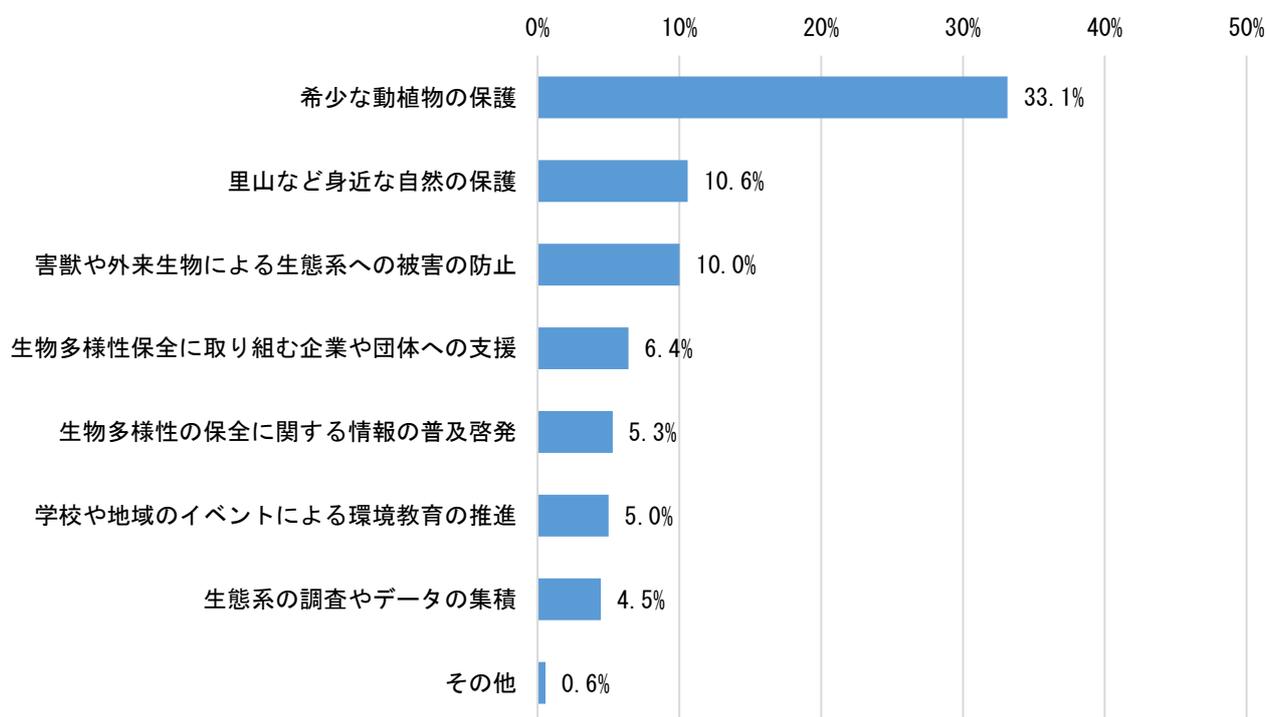
	回答数 (件)	割合 (%)
川西市の環境の現状に関する情報	238	66.3
環境問題に対する市の取り組みや取り組みの成果についての情報	227	63.2
行政の支援制度等に関する情報	124	34.5
環境活動をしている個人や団体について	84	23.4
有識者（講師）について	26	7.2
その他	2	0.6
合計	701	-

5. 川西市が行った方がよいと思う「生物多様性」保全の取り組み

「生物多様性」の保全にあたり、川西市はどのような取り組みを行うとよいと思いますか。
(〇は3つまで)

〈市民〉

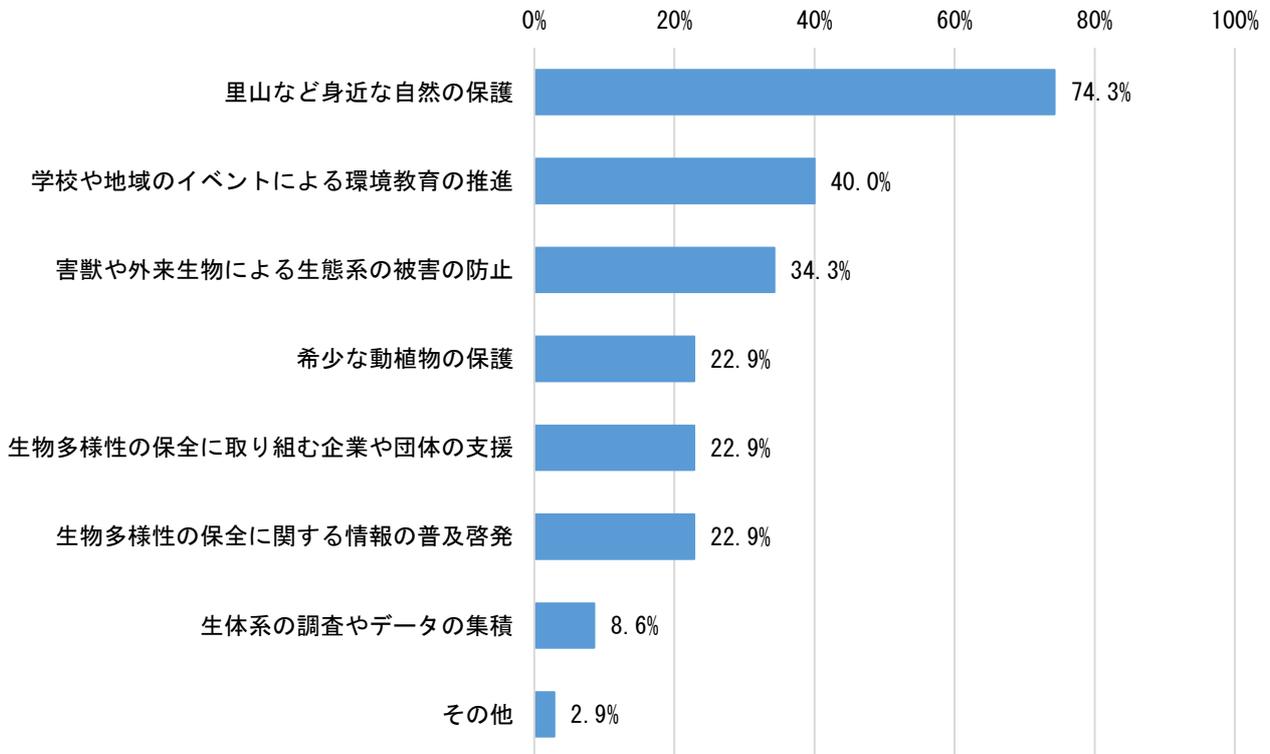
「生物多様性」の保全にあたり、川西市に望む取り組みとしては、「希少な動植物の保護」(33.1%)が最も多く、次いで、「里山など身近な自然の保護」(10.6%)、「害獣や外来生物による生態系への被害の防止」(10.0%)と続いている。



	回答数 (件)	割合 (%)
希少な動植物の保護	119	33.1
里山など身近な自然の保護	38	10.6
害獣や外来生物による生態系への被害の防止	36	10.0
生物多様性保全に取り組む企業や団体への支援	23	6.4
生物多様性の保全に関する情報の普及啓発	19	5.3
学校や地域のイベントによる環境教育の推進	18	5.0
生態系の調査やデータの集積	16	4.5
その他	2	0.6
合計	271	-

〈事業者〉

「生物多様性」の保全にあたり、川西市に望む取り組みとしては、「里山など身近な自然の保護」(74.3%)が最も多く、次いで、「学校や地域のイベントによる環境教育の推進」(40.0%)、「害獣や外来生物による生態系への被害の防止」(34.3%)と続いている。



	回答数 (件)	割合 (%)
里山など身近な自然の保護	26	74.3
学校や地域のイベントによる環境教育の推進	14	40.0
害獣や外来生物による生態系の被害の防止	12	34.3
希少な動植物の保護	8	22.9
生物多様性の保全に取り組む企業や団体の支援	8	22.9
生物多様性の保全に関する情報の普及啓発	8	22.9
生体系の調査やデータの集積	3	8.6
その他	1	2.9
合計	80	-

Ⅲ. まとめ

(1) 生物多様性に関する知識

生物多様性という言葉の認知度 (P. 5-6) について、市民全体では、「言葉も意味も知っていた」、「言葉は知らないが聞いたことはあった」を合わせて 80%程度であり、年代別でも全ての年代で 60%を超えている。前回アンケートと比較しても大幅に認知度が増加していることから言葉や内容が市民に浸透していることがうかがえる。事業者全体では、「言葉も意味も知っていた」、「言葉は知らないが聞いたことはあった」を合わせて 70%程度と高くなっている。このことから、10代、20代の若い世代に対する継続的な情報の提供や、他の年代に比べて認知度の低い 40代、60代以上の世代に対する啓発を行うなど、引き続き生物多様性の認知度を高めていく必要があると考えられる。

(2) 川西市の自然環境などに対する認識

一方で、「生物多様性ふるさと川西戦略」の認知度 (P. 7-8) について、市民全体では、「言葉も内容も知っていた」、「内容は知らないが聞いたことはあった」を合わせて 30%程度であり、年代別でも全ての年代で 40%を下回っている。事業者全体では、「言葉も内容も知っていた」、「内容は知らないが聞いたことはあった」を合わせて 30%程度と低くなっている。このことから、本戦略が川西市の生物多様性保全の指針であることをアピールするなど、認知度を高める必要があると考えられる。

また、「川西市の生態系を育むすばらしい自然」の認知度 (P. 9-10) については、全体、年代別ともに「イチジク」が最も多く、地域の農産物や里山系の項目が上位となっている。これらの傾向は、前回アンケートと同様である。また、猪名川渓谷や日本一の里山の認知度が上がっていた一方で、台場クヌギや初谷川、水路、エノキ林などの認知度が依然として低い傾向にあった。このことから、認知度の低い内容については、日本一の里山や一庫炭と関連付けて台場クヌギの情報を広めていくなど、認知度の高いものと組み合わせる必要があると考えられる。

川西市で残したいと思う自然 (P. 11-15) については、市民全体では、「水がきれいで生きもの豊かな水辺 (猪名川・溪流・水路)」が最も多く、北部地域では、「草花遊びができる畦や草原」、「地元産の野菜や米が採れる農地」、中部地域では、「水がきれいで生きもの豊かな水辺 (猪名川・溪流・水路)」、南部地域①では「落ち着いた森のある神社などの森」、南部地域②では、「イチジク、クリ、モモなど特産品がつけられている果樹園」が、他の地域に比べて多くなっている。北部地域の豊かな自然、中部地域の水辺、南部地域①の社寺林、南部地域②の農産物の生産が盛んといった地域特性が反映された結果と考えられる。

事業者全体では、「昆虫採集が楽しめる里山 (雑木林)」が最も多く、北部地域では、「地元産の野菜や米が採れる農地」、「緑が多く、生きものがたくさんすむ公園」、中部地域では、「カエルやメダカのすむ田んぼや池」、南部地域②では、「落ち着いた森のある神社などの森」が、他の地域に比べて多くなっている。北部地域の豊かな自然、中部地域の棚田、南部地域②の社寺林といった地域特性が反映された結果と考えられる。小学生全体では、「水がきれいで生きもの豊かな水辺がある」が最も多くなっている。このことから、田んぼや池、草原、公園、社寺林などポイントの低かった要素の生態系上の重要性、他の環境や人とのつながり、生物多様性の面白さ (構成種など) の情報を伝えていく必要があると考えられる。

過去よりも悪くなった環境(P. 16)としては、河川の環境悪化や田畑の減少に関する意見が多く挙げられており、特に、水質の悪化やごみの散乱に関する意見が多くみられ、市民の理想とする環境と乖離が生じている。環境の悪化は、生物多様性を脅かす一因であることから、意見を寄せられた場所や環境での対策を検討していく必要があると考えられる。

生きものや自然環境に配慮した行動の取り組み状況(P. 17)については、「公共交通機関（鉄道、バス）を利用する」の取り組み率が最も高くなっている。一方で、「学校や職場などのビオトープづくりに関わる」、「里山や水辺で生きものや自然環境を保全する活動へ参加する」の取り組み率が特に低くなっているため、参加機会の創出や、情報提供が求められる。

保全活動・学習会への参加経験や意思(P. 18-21)について、市民全体、小学生とも、「参加したことはないが、今後は、参加してみたいと思っている」が30%程度となっており、施策の推進等により取り組み率の向上が期待できると考えられる。一方で、前回アンケートと比較して参加経験や意思がある人の割合が下がっている。

年代別の参加率については、50～59歳が最も高くなっているが、若者の参加率は低くなっており、今後も参加者の高齢化や担い手不足が課題として挙げ続けられると考えられる。居住地域別の参加率については、おおむね同程度であるが、南部地域②の参加率が他の地域と比べやや低くなっている。

参加している、参加したい活動(P. 22-24)について、市民全体、小学生とも、「地域の緑地・公園清掃」が最も多く、20歳～29歳では、「農業体験」、30歳～39歳では、「里山活動体験（里山整備、間伐、植樹）」、60歳以上では、「地域の緑地・公園清掃」等が特に多くなっている。このことから、前述の参加者の高齢化や担い手不足は特に「地域の緑地・公園清掃」で懸念される。

情報の入手方法や発信元(P. 25-27)について、市民全体では、「川西市のホームページ」、「広報かわにし」、20歳～29歳では、「川西市公式 SNS」、40歳～49歳では、「チラシ（学校）」、60歳以上では、「広報かわにし」等が特に多く活用されている。前回アンケートと比較すると、「広報かわにし」の割合が大きく下がっているが、「川西市公式 SNS」の普及が理由の1つとして考えられる。小学生では、「チラシ（学校）」が多くなっており、学校を通じた情報提供が効果的と考えられる。

（3）事業者で行っている環境教育・環境学習

事業者の環境教育・環境学習の取り組み状況(P. 28-31)については、「定期的に取り組んでいる」、「取り組んではいるが、不定期である」を合わせて40%程度となっており、対象は「社員」、頻度は「年1回程度」が最も多くなっている。一方で、「今は取り組んでおらず、今後も予定なし」も40%を占めている。環境教育・環境学習に取り組んでいる事業者、取り組んでいない事業者ともに、時間の確保や取り組み方法がわからないことを課題として挙げており、環境教育等を実施する上で市に手伝ってほしいこととして、金銭的負担の軽減、ノウハウを学ぶ機会や資機材・ツールの提供を挙げている。このことから、環境教育や環境学習に取り組んでいる事業者の事例を紹介するなど、情報提供が必要と考えられる。

(4) 川西市が行った方がよいと思う「生物多様性」保全の取り組み

「生物多様性」の保全にあたり、川西市に望む取り組み(P. 32-33)としては、市民全体では、「希少な動植物の保護」が最も多くなっている。事業者全体では、里山など身近な自然の保護の他、環境教育の推進、害獣や外来生物による被害の防止が挙げられている。このことから、希少な動植物や身近な自然の保護を行うとともに、害獣や外来生物への適切な対策を行う必要があると考えられる。また、これらの情報を市民へ提供し、生物多様性の保全に関する普及啓発につなげていくことが望まれる。

※改訂理由 赤：変更点（見え消し）、紫：前回委員会指摘事項 緑：委員会審議依頼事項、黄：市担当課確認依頼事項、青：アジア航測修正予定箇所

【資料2-1】

生物多様性ふるさと川西戦略 改訂箇所一覧表

章・項	タイトル	改訂理由	改訂点（朱書き箇所は委員への確認・相談事項）	該当頁	
				変更履歴付き	変更履歴なし
表紙		時点修正	・「改訂版」と記載した。		
第1章	「生物多様性ふるさと川西戦略」策定の目的と位置づけ				
1.	「生物多様性ふるさと川西戦略」策定の目的				
(1)	「生物多様性ふるさと川西戦略」策定の目的	体裁修正	・改訂の趣旨の追加に伴い項目建てを(1)に変更した。	P2	P2
(2)	「生物多様性ふるさと川西戦略」改訂の趣旨	体裁修正	・(2)と項目建てし、改訂の趣旨についての説明を追加した。	P2	P2
2.	生物多様性とは				
(2)	失われつつある生物多様性～生物多様性を脅かす4つの危機～				
1)	人間活動などの直接的な要因（第1の危機）	時点修正 体裁修正	・新名神の開通に伴い、「建設が進められている」を変更した。 ・石道地区の流通センター、舎羅林山の開発を追記した。	P5	P5
2)	人の働きかけが減少することによる間接的な要因(第2の危機)	体裁修正	・一部表現を変更した。	P5	P5
3)	地域外から持ち込まれた外来種の野生化による要因（第3の危機）	時点修正	・タイトルを「外国から持ち込まれた」から「地域外から持ち込まれた」に変更した。 ・国内由来の外来種についての内容を追加した。	P5	P5
(3)	生物多様性の大切さ～生物多様性を守る4つの意味～	時点修正 体裁修正	・生物多様性国家戦略2023-2030にも考えが受け継がれている旨を追記した。	P8	P7
(4)	「生物多様性国家戦略2023-2030」について	時点修正	・新たな国家戦略の策定に伴い内容を追加した。	P10	P9
3.	策定の背景と位置づけ				
(1)	生物多様性戦略に関する関係法令や国、県などの動向	時点修正 委員会指摘	・文章、表を最新（2023年3月）の動向に更新した。 ・SDGsについての記載を追加した。（SDGs、30by30、OECMについて前回委員会にて指摘あり）	P11	P10
(3)	計画の範囲と計画期間	時点修正 体裁修正	・計画期間の文章「その後の10年間」を「2023年度から2032年度まで」に変更した。 ・図を最新の状況に更新した。	P14	P12
第2章	「川西市の生物多様性の現状と課題」				
1.	川西市の概況				
(1)	位置・地勢・交通	時点修正	・文末の「新名神」の内容を変更した。	P16	P14
(2)	気候	時点修正 体裁修正	・直近の情報に修正した。 ・一部表現を変更した。	P17	P15
(3)	川西市の自然の特性	時点修正	・追加した。	P18	P16
2.	川西市が誇る豊かな自然				
(1)	川西市の植生・地質				
1)	植生	時点修正 体裁修正 委員会確認	・図の差し替え（2009年環境省作成植生図に差し替え予定） （審議事項（3）でお伺いいたします。）	P20	P17
	植生図	時点修正 委員会確認	・植生図は2002年に整備された「兵庫県植生誌研究会の植生図（縮尺不明）」から、より新しい「環境省植生図（1/25,000,2009年整備）」に更新したい。凡例がより細くなるが問題ないか確認させていただきたい。（審議事項（3）でお伺いいたします。）	P20	P17
2)	表層地質				

目次ベースの変更点一覧

章・項	タイトル	改訂理由	改訂点（朱書き箇所は委員への確認・相談事項）	該当頁	
				変更履歴付き	変更履歴なし
	地質図について	時点修正 委員会確認	・地質図については、1996年整備の「兵庫県の地質」を用いているが、それ以降、新しいデータが公開されていないため、過年度と同じ図とさせていただきます。最新の地質図に関する情報をお持ちであればご教示いただきたい。（審議事項（3）でお伺いいたします。）	P21	P18
(2)	川西市の多様な環境・生態系				
1)	日本一の里山	時点修正 体裁修正	・生物多様性の現況部分「多くの生きものが生育」を「多くの生きものが生育・生息」に変更した。 ・一部表現を変更した。	P22	P19
2)	棚田	時点修正 委員会確認	・一部表現を変更した。	P22	p19
		時点修正 委員会確認	・生物多様性の状況に昆虫等の情報を追加すべきか、ご教授いただきたい。 （委員会での意見のみで昆虫等の情報を特定できない場合(別途、調査等が必要な場合)は見送る)	P22	p19
3)	ニュータウンのまち山	時点修正 委員会確認	・生物多様性の状況に昆虫等の情報を追加すべきか、ご教授いただきたい。（委員会での意見のみ昆虫等の情報を特定できない場合は見送る）	P23	P20
4)	段丘崖のエノキ林	時点修正	・生物多様性の状況に「ヘイケボタル」を追加した。	P24	P21
6)	社寺林	時点修正 委員会確認	・生物多様性の状況の「満願寺で行った調査」部分は改訂が必要なのか、改訂するのであればどのような調査結果をもとに改訂するかご意見いただきたい。	P26	P23
(3)	川西市の生物相				
1)	概要	時点修正	・文献や資料に更新があったため、確認生物数を更新した。 ・神戸市、伊丹市を比較自治体として追加し、加西市、宝塚市、西宮市の生物数を更新した。	P27	P24
4)	鳥類	時点修正 体裁修正	・国、県レッドリスト更新に伴い「カッコウ」の太字を細字に更新した。	P31	P26
5)	両生類	時点修正 体裁修正	・カスミサンショウウオを削除した。 ・写真をシュレーゲルアオガエルに差し替えた。	P31	P26
7)	昆虫類	時点修正 体裁修正	・昆虫類の項目であるため台場クヌギの写真を削除した。	P32	P27
8)	魚類	時点修正	・「メダカ」を「ミナメダカ」に変更した。	P32	P27
10)	問題を起こす生物				
①	外来生物	委員会指摘	・市域で確認されている外来生物にセアカゴケグモ、ヒアリ、クビアカツヤカミキリを追加した。 ・アカミミガメ、アメリカザリガニが特定外来生物に追加された旨を追記した。 ・クビアカツヤカミキリの被害への懸念を追記した。	P33	P28
		委員会確認	・市域で確認されている外来生物について、記載に変更がないかご意見をいただきたい。	P33	P28

目次ベースの変更点一覧

章・項	タイトル	改訂理由	改訂点（朱書き箇所は委員への確認・相談事項）	該当頁	
				変更履歴付き	変更履歴なし
②	在来生物	時点修正	・県内のホンドリカガの数を更新した。	P33	P28
(4)	川西市の特産品・文化				
1)	農産物（イチジク、クリ、モモ）	体裁修正	・図の丸の色を種類ごとに分け、円の範囲を修正する。（予定）	P35	P29
		体裁修正	・図にモモの写真を追加した。	P35	P29
2)	茶道文化と菊炭・台場クヌギ	体裁修正	・図の黄色の点線部分に「黒川地区」を追加した。	P36	P30
3.	自然環境保全における取り組み				
(1)	行政の代表的な取り組み				
1)	基本計画の作成	委員会指摘	・本文1行目「2002年の緑の基本計画」を「2002年にみどりの基本計画」に変更した。 ・本文5行目を第3次環境基本計画の内容に変更した。	P37	P31
2)	具体的な取り組み				
②	林業振興事業	時点修正	・タイトル「森林振興事業」を「林業振興事業」に変更した。 ・助成金の交付成果を令和4年度の状況に更新する。（予定） ・黒川里山センターの稼働について追記した。	P37	P31
(2)	市民団体の取り組み	時点修正 体裁修正	・市で把握しているすべての団体について記載されるよう、追記した。 ・川西市の自然関係市民団体の特性を追記した。	P39	P32
		時点修正 体裁修正	・図に各団体の活動地を示す。（予定）	P39	P32
(3)	事業者の取り組み				
1)	猪名川河川事務所の取り組み	時点修正	・タイトルを「外来植物対策」から「取り組み」に変更した。 ・猪名川河川事務所に実施内容を確認し、内容を更新した。	P43	P34
2)	一庫ダムの外来魚対策	時点修正	・一庫ダム管理所へ事業内容を確認し、「2010年」を「2022年」に変更した。	P43	P34
3)	兵庫県一庫公園の取り組み	時点修正	・兵庫県一庫公園に事業内容を確認し、記載内容を変更した。	P43	P34
4)	国崎クリーンセンターの活動	時点修正	・一庫パーク戦略の写真を削除した。 ・地域ボランティアとの事業連携について追記した。 ・国崎クリーンセンターへ事業内容を確認し、記載内容を変更した。	P45	P35
5)	企業				
	■能勢電鉄株式会社	時点修正	・2013年度の「林業遺産」選定を「日本森林学会 林業遺産」に変更した。 ・台場クヌギ林、エドヒガンが市天然記念物に指定された旨を追記した。 ・能勢電鉄株式会社へ事業内容を確認し、記載内容を変更した。	P46	P36
	■ダイハツ工業株式会社（多田エンジニアリングセンター）	時点修正	・新たに企業を追加した。	P46	P36
	■株式会社竹中工務店（研修センター）	時点修正	・新たに企業を追加した。	P47	P37
	■黒田電気株式会社・株式会社チュチュアンナ	時点修正	・黒田電気株式会社、株式会社チュチュアンナの事業終了に伴い、内容を変更した。 ・アサヒビール株式会社を削除した。 ・各企業へ事業内容を確認し、記載内容を変更した。	P47	P37
4.	市民の意識～アンケート調査より～				
(1)	アンケート調査の実施概要				
2)	実施時期、方法	時点修正	・今回実施のアンケート実績に変更した。	P48	P38

目次ベースの変更点一覧

章・項	タイトル	改訂理由	改訂点（朱書き箇所は委員への確認・相談事項）	該当頁	
				変更履歴付き	変更履歴なし
3)	回収結果	時点修正	・今回実施のアンケート実績に変更した。	P49	P38
(2)	アンケート調査結果	時点修正	・今回実施のアンケート実績に変更した。 ・適宜前回アンケートとの比較を行った。	P50	P39
5.	川西市の地域区分とその特徴・課題				
(1)	川西市の地域区分	時点修正 委員会確認	・第3次環境基本計画と同様の4地域（里山地域、ニュータウン地域、市街地1地域、市街地2地域）に変更した。ご意見があればおうかがいしたい。	P74	P53
	地域区分について	時点修正 委員会確認	・川西市を4つの区分（里山・ニュータウン・市街地1・市街地2）に分け、地域特性を整理するが、ご意見があればおうかがいしたい。	P74	P53
(2)	地域の特徴の分析				
	各地域共通部分				
	①基礎情報	時点修正	・土地利用の割合の記載を更新する。（予定） ・傾斜区分の記載を更新する。（予定）	P76	P56
		時点修正	・公園数の記載を更新する。（予定）	P76	P56
	②重要な生態系・特徴的な自然	時点修正 体裁修正	・自然環境、産業の体裁を統一した。	P76	P56
	④市民の意識	時点修正 体裁修正	・今回実施のアンケート実績に合わせて内容を変更した。	P76	P56
	⑤生物多様性に向けた課題	時点修正 体裁修正	・タイトルから「整理」を削除した。 ・箇条書き部分「連携」を「自然活動団体との連携」に変更した。	P76	P56
	図面の凡例（里山林の区分）について	時点修正 委員会確認	・過年度の各種図面の凡例は植生図の凡例を「里山林」「その他植生」「水田・畑」「ゴルフ場」「住宅街」「無植生（水域・裸地）」の6区分に集約している。環境省植生図の凡例を6区分に分類する際の素案を提示するのでご確認いただきたい。特に里山林の区分が妥当であるかご意見をいただきたい。（審議事項（3）でお伺いいたします。）	P75	P54
1)	里山地域	時点修正	・図中①黒川の山林部分の「大槌」を「大土」に変更した。	P76	P56

目次ベースの変更点一覧

章・項	タイトル	改訂理由	改訂点（朱書き箇所は委員への確認・相談事項）	該当頁	
				変更履歴付き	変更履歴なし
	③活動団体など	時点修正	・ひとくらクラブ、ひとくら森のクラブ、ゆめほたるクラブ、能勢妙見山ブナ守の会、NPO法人 北摂里山文化保存会を追加した。 ・アサヒビール、黒田電気、チュチュアンナを削除した。	P76	P56
2)	ニュータウン地域	時点修正 体裁修正	・ニュータウン地域1～3の内容を統合した。	P79	P58
	②重要な生態系・特徴的な自然	時点修正	・虫生の森が市の天然記念物指定を受けたことを追記した。	P79	P58
	③活動団体など	時点修正	・大和フォレストクラブ、東多田里山の会を追加した。 ・多太神社の森を守る会を削除した。 ・虫生川周辺の自然を守る会の（）部分に「昆虫」を追記した。	P79	P58
3)	市街地1地域	委員会指摘	・戦略中の「神社林」を「社寺林」に統一した。（その他該当箇所は同様に修正した。）	P83	P61
	②重要な生態系・特徴的な自然	時点修正	・「早生のモモヤ」を削除した。	P83	P61
	③活動団体など	時点修正	・川西自然教室、流域ネット猪名川、NPO法人 野生生物を調査研究する会を追加した。	P83	P61
4)	市街地2地域				
	②重要な生態系・特徴的な自然	体裁修正	・自然環境中、河川本来の植生が「発達するとともに」を「発達するとともに」に修正した。	P87	P63
	③活動団体など	時点修正	・身近な自然とまちを考える会、NPO法人 野生生物を調査研究する会を追加した。	P87	P63
(3)	課題のまとめ				
1)	川西市における4つの生物多様性の危機に関する課題				
	①第一の危機に関連する課題（直接的な影響）	時点修正 体裁修正	・新名神高速道路が開通したため、文章を変更した。	P90	P65
	③第三の危機に関連する課題（外来種などの影響）	委員会指摘	・クビヤカツヤカミキリによるサクラへの被害など、川西市の生態系を変えうる脅威が迫っている分に変更した。	P90	P65
2)	川西市の生物多様性に関する認識と情報の不足	アンケートによる修正	・今回のアンケート実績を反映した文章に変更した。	P90	P65
第3章	「生物多様性ふるさと川西戦略」が目指すもの				
1.	生物多様性保全の基本理念と目指すべき川西市の将来像	時点修正	・国家戦略の策定に伴い本文と理念を変更した。	P94	P68
2.	目標の設定	時点修正	・国家戦略の策定に伴い本文前半を変更した。	P95	P69
3.	「生物多様性ふるさと川西戦略」の設定ーふるさと川西市民戦略と4つの基本戦略ー				
(2)	4つの基本戦略	時点修正	・SDGsマークを追加した。	P97	P70
第4章	行動計画				
2.	基本戦略の基づく行動計画				
(1)	環境教育の充実による「ふるさと川西」意識の熟成および生物多様性教育（基本戦略1）				
1)	児童・生徒を対象とした環境教育の実施				
	①施策名称【就学前園児の環境教育方針】・担当部署【教育推進部】	時点修正 体裁修正	・担当部署に施策内容を確認し、タイトル、内容をを変更した。	P103	P76
	④施策名称【小学校体験活動（自然学校）】・担当部署【教育推進部】	時点修正	・担当部署に施策内容を確認し、新たに内容を追加した。	P103	P76
	⑤施策名称【中学校教育支援】・担当部署【教育推進部】	時点修正	・上記④の新設に伴い番号を⑤に変更した。	P103	P76
2)	教職員や市民を対象とした研修の実施	時点修正	・評価指標に「環境に関する公民館講座を受けた人数」を追加した。	P105	P77

章・項	タイトル	改訂理由	改訂点（朱書き箇所は委員への確認・相談事項）	該当頁	
				変更履歴付き	変更履歴なし
	②施策名称【環境学習の充実】・担当部署【市民環境部】	時点修正	・タイトル「生涯学習」を「環境学習」に変更した。担当部署名を変更した。 ・担当部署に施策内容を確認し、レフネック、りんどう学園を削除した。	P105	P77
(2)	自然に関する情報発信による生物多様性保全の普及・啓発（基本戦略2）				
1)	広報やHPによる情報発信				
	①施策名称【自然環境情報の発信】・担当部署【市民環境部】	時点修正	・担当部署名を変更した。	P105	P77
	②施策名称【国や兵庫県が作成する上位計画などの広報、普及・啓発】・担当部署【市民環境部】	時点修正	・担当部署名を変更した。	P105	P77
	③施策名称【観光の推進】・担当部署【市民環境部】	時点修正	・担当部署名を変更した。 ・担当部署に施策内容を確認し、歩っと川西めぐり、川西学検定を削除した。	P105	P77
	④施策名称【地産地消の推進】・担当部署【市民環境部】	時点修正	・担当部署名を変更した。	P105	P77
	⑤施策名称【市街地における里山のPR】・担当部署【土木部】	時点修正 委員会指摘	・担当部署名を変更した。 ・台場クヌギやエドヒガンの移植を削除した。	P106	P78
2)	川西市によるモデル整備や景観計画による情報発信				
	①施策名称【キセラ川西整備地区における低炭素まちづくり】・担当部署【キセラ川西整備部】	時点修正	・事業終了に伴い、削除した。	P107	P78
	①施策名称【再生可能エネルギーの普及啓発】・担当部署【市民環境部】	時点修正 体裁修正	・元①の内容の削除に伴い、項目番号を繰り上げた。 ・担当部署名を変更した。	P107	P78
	②施策名称【川西市景観計画の改訂】・担当部署【都市政策部】	時点修正 体裁修正	・項目番号を繰り上げた。 ・川西市都市景観形成条例の改正を削除した。 ・担当部署名を変更した。	P107	P78
(3)	生物多様性保全の取り組みの強化（基本戦略3）				
1)	市民生活での生物多様性保全の活動の支援				
	①施策名称【市民や事業者との連携による生物多様性向上（エコアップ）の推進】・担当部署【美化環境部】	時点修正	・事業終了に伴い、削除した。	P106	P78
	①施策名称【外来種対策の推進】・担当部署【市民環境部】	時点修正 体裁修正	・元①の内容の削除に伴い、項目番号を繰り上げた。 ・担当部署名を変更した。	P107	P78
2)	川西市による文化財の保全および生物多様性向上の事業の実施				
	①施策名称【文化財保存啓発】担当部署【市民環境部】	時点修正	・担当部署名を変更した。 ・天然記念物一覧を削除した。（資料編に移動した。）	P108	P79
	③施策名称【生物多様性に配慮した公園・緑地管理の推進】・担当部署【土木部】	時点修正	・担当部署名を変更した。	P108	P79
3)	川西市による生物多様性に被害を与える獣害対策などの実施				
	①施策名称【ナラ枯れ対策】・担当部署【市民環境部】	時点修正	・担当部署名を変更した。 ・被害最先端地の指定がされていることを削除した。	P110	P80
	②施策名称【有害鳥獣対策】・担当部署【市民環境部】	時点修正 委員会指摘	・担当部署名を変更した。 ・シカの食害防止対策を追記した。	P110	P80
	③施策名称【外来生物対策】・担当部署【市民環境部】	時点修正 委員会指摘	・担当部署名を変更した。 ・元③「外来動物対策」、④「外来植物対策」を統合し、「外来生物対策」に変更した。 ・セアカゴケグモ、ヒアリ、クビアカツヤカミキリへの対策を追記した。	P110	P80

目次ベースの変更点一覧

章・項	タイトル	改訂理由	改訂点（朱書き箇所は委員への確認・相談事項）	該当頁	
				変更履歴付き	変更履歴なし
(4)	各主体の連携による生物多様性保全活動の継続と拡大（基本戦略4）				
1)	市民、団体、企業などとの連携の構築	時点修正	・指標から「1年間に企業、学校などが作成した個別の生物多様性戦略の数」を削除した。	P110	P80
	①事業名【生物多様性に関する情報交換の場の提供】・担当部署【市民環境部】	時点修正	・担当部署名を変更した。	P110	P80
	②事業名【森林ボランティアの支援】・担当部署【市民環境部】	時点修正	・担当部署名を変更した。	P111	P81
	③事業名【まち山の再評価】・担当部署【都市政策部】	時点修正	・担当部署名を変更した。	P111	P81
	④事業名【事業者との連携および生物多様性戦略作成の応援】・担当部署【市民環境部】	時点修正	・担当部署名を変更した。 ・団体の、生物多様性戦略作成の応援を削除した。	P111	P81
2)	兵庫県や市民団体との既存事業の継続				
	①事業名【北摂里山博物館構想】・担当部署【市民環境部】	時点修正	・担当部署名を変更した。	P111	P81
	②事業名【NPOなどと連携した河川美化の実施】・担当部署【都市政策部・美化衛生部】	時点修正	・担当部署名を変更した。	P111	P81
第5章	推進体制と進行管理				
1.	推進体制				
(1)	庁内担当部署との連携強化	時点修正	・担当部署名を変更した。 ・庁内体制の変更に伴い、役割の振り分けを変更した。	P114	P84
(2)	「生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会」の設置	時点修正	・「（仮称）」を削除した。 ・担当部署名を変更した。	P116	P86
(3)	体制、連携の強化などの検討				
3)	企業の森づくりの誘致、推進	時点修正	・文頭に「（公社）」を追記した。	P116	P86
5)	生物多様性に関する拠点「川西市黒川里山センター」の整備	時点修正	・タイトル、内容を変更した。	P116	P86
2.	進行管理				
(1)	進行管理計画	時点修正	・記載内容に2032年までの管理計画を追記した。	P119	P87
(2)	進行の管理システム	時点修正 体裁修正	・本文の委員会名から「（仮称）」を削除した。 ・推進体制イメージ図の担当部署名を削除した。委員会名から「（仮称）」を削除した。	P119	P87
		時点修正	・表の管理指標を一部変更する。（予定）	P119	P87
	資料編				
	参考文献	時点修正	・改訂にあたり使用した資料を追記した。	P122	P89
	川西市の重要種一覧（植物・動物・生態系や自然景観など）	時点修正	・国、県レッドリスト更新に伴い、ランクや確認状況を更新した。 ・一部動植物を追加した。 ・水辺の国勢調査更新に伴い確認状況を更新した。 ・自然景観一覧表の「大槌」を「大土」に変更した。	P126	P92
	市内の天然記念物	時点修正	・項目を追加した。	P133	P97
	川西市の外来種一覧（植物・動物）	時点修正	・国、県外来種一覧更新に伴い、確認状況を更新した。 ・水辺の国勢調査更新に伴い、確認状況を更新した。	P134	P98
	川西市の重要な生態系・特徴的な自然環境	時点修正 体裁修正	・4「大槌」を「大土」に変更した。	P140	P103
		時点修正 体裁修正	・地域割り変更に伴い、地図を改訂する。（予定）	P141	P102
	生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会における審議経過	時点修正	・委員会設置に伴い追記した。	P167	P141
	生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会委員名簿	時点修正	・委員会設置に伴い追記した。	P168	P142

【資料2-2】

生物多様性

ふるさと川西戦略

川西市

(改訂版)



目次

第1章 「生物多様性ふるさと川西戦略」策定の目的と位置づけ	1
1. 「生物多様性ふるさと川西戦略」策定の目的	2
(1) 「生物多様性ふるさと川西戦略」策定の目的	2
(2) 「生物多様性ふるさと川西戦略」改訂の趣旨	2
2. 生物多様性とは	3
(1) 生物多様性の概説	3
(2) 失われつつある生物多様性～生物多様性を脅かす4つの危機～	5
(3) 生物多様性の大切さ～生物多様性を守る4つの意味～	8
(4) 「生物多様性国家戦略 2023-2030」について	10
3. 策定の背景と位置づけ	11
(1) 生物多様性戦略に関する関係法令や国、県などの動向	11
(2) 「生物多様性ふるさと川西戦略」の位置づけ	13
(3) 計画の範囲と計画期間	14
第2章 川西市の生物多様性の現状と課題	15
1. 川西市の概況	16
(1) 位置・地勢・交通	16
(2) 気候	17
(3) 川西市の自然の特性	18
2. 川西市が誇る豊かな自然	20
(1) 川西市の植生・地質	20
(2) 川西市の多様な環境・生態系	22
(3) 川西市の生物相	27
(4) 川西市の特産品・文化	28
3. 自然環境保全における取り組み	30
(1) 行政の代表的な取り組み	30
(2) 市民団体の取り組み	32
(3) 事業者の取り組み	35
4. 市民の意識～アンケート調査より～	40
(1) アンケート調査の実施概要	40
(2) アンケート調査結果	42
5. 川西市の地域区分とその特徴・課題	66
(1) 川西市の地域区分	66
(2) 地域の特徴の分析	68
(3) 課題のまとめ	82
第3章 「生物多様性ふるさと川西戦略」が目指すもの	55
1. 生物多様性保全の基本理念と目指すべき川西市の将来像	56
2. 目標の設定	57
3. 「生物多様性ふるさと川西戦略」の設定～ふるさと川西市民戦略と4つの基本戦略～	59
(1) 「ふるさと川西市民戦略」	59
(2) 4つの基本戦略	59

書式変更： フォント： (英) BIZ UDPゴシック, (日) BIZ UDPゴシック, フォントの色： テキスト i

第4章 行動計画	62
1. 「ふるさと川西市民戦略」－ライフスタイルを見つめ直してできることから行動を－	63
(1) 川西市の自然・文化に触れる	63
(2) 日常にできる行動	63
2. 基本戦略に基づく行動計画	65
(1) 環境教育の充実による「ふるさと川西」意識の熟成および生物多様性教育	65
(2) 自然に関する情報発信による生物多様性保全の普及・啓発	67
(3) 生物多様性保全の取り組みの強化	69
(4) 各主体の連携による生物多様性保全活動の継続と拡大	72
第5章 推進体制と進行管理	75
1. 推進体制	72
(1) 庁内担当部署との連携強化	72
(2) 「生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会」の設置	74
(3) 体制、連携の強化などの検討	74
2. 進行管理	77
(1) 進行管理計画	77
(2) 進行の管理システム	77
参考文献	80
資料編	83
◇川西市の重要種一覧(植物・動物・生態系や自然景観など)	839
◇市内の天然記念物	84
◇川西市の外来種一覧(植物・動物)	8385
◇川西市の重要な生態系・特徴的な自然環境	8389
生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会における審議経過	127
生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会委員名簿	128

第1章 「生物多様性ふるさと川西戦略」策定の目的と位置づけ	1
1. 「生物多様性ふるさと川西戦略」策定の目的	2
2. 生物多様性とは	3
(1) 生物多様性の概説	3
(2) 失われつつある生物多様性～生物多様性を脅かす4つの危機～	5
(3) 生物多様性の大切さ～生物多様性を守る4つの意味～	7
3. 策定の背景と位置づけ	9
(1) 生物多様性戦略に関する関係法令や国、県などの動向	9
(2) 「生物多様性ふるさと川西戦略」の位置づけ	10
(3) 計画の範囲と計画期間	10
第2章 川西市の生物多様性の現状と課題	11
1. 川西市の概況	12
(1) 位置・地勢・交通	12
(2) 気候	13
2. 川西市が誇る豊かな自然	14
(1) 川西市の植生・地質	14
(2) 川西市の多様な環境・生態系	16
(3) 川西市の生物相	21
(4) 川西市の特産品・文化	26
3. 自然環境保全における取り組み	28
(1) 行政の代表的な取り組み	28
(2) 市民団体の取り組み	29
(3) 事業者の取り組み	30
4. 市民の意識～アンケート調査より～	32
(1) アンケート調査の実施概要	32
(2) アンケート調査結果	32
5. 川西市の地域区分とその特徴・課題	40
(1) 川西市の地域区分	40
(2) 地域の特徴の分析	42
(3) 課題のまとめ	54
第3章 「生物多様性ふるさと川西戦略」が目指すもの	55
1. 生物多様性保全の基本理念と目指すべき川西市の将来像	56
2. 目標の設定	57
3. 「生物多様性ふるさと川西戦略」の設定～ふるさと川西市民戦略と4つの基本戦略～	58

(1) ふるさと川西市民戦略	58
(2) 4つの基本戦略	58
第4章 行動計画	61
1. ふるさと川西市民戦略～ライフスタイルを見つめ直してできることから行動を～	62
(1) 川西市の自然・文化に触れる	62
(2) 日常にできる行動	62
2. 基本戦略に基づく行動計画	64
(1) 環境教育の充実による「ふるさと川西」意識の醸成および生物多様性教育	64
(2) 自然に関する情報発信による生物多様性保全の普及・啓発	65
(3) 生物多様性保全の取り組みの強化	66
(4) 各主体の連携による生物多様性保全活動の継続と拡大	68
第5章 推進体制と進行管理	71
1. 推進体制	72
(1) 庁内担当部署との連携強化	72
(2) 「(仮称)生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会」の設置	73
(3) 体制、連携の強化などの検討	73
2. 進行管理	74
(1) 進行管理計画	74
(2) 進行の管理システム	74
参考文献	77
資料編	79
→川西市の重要種一覧(植物・動物・生態系や自然景観など)	80
→川西市の外来種一覧(植物・動物)	84
→川西市の重要な生態系・特徴的な自然環境	89

第1章

「生物多様性ふるさと川西戦略」策定の目的と位置づけ

1. 「生物多様性ふるさと川西戦略」策定の目的

(1) 「生物多様性ふるさと川西戦略」策定の目的

川西市には、茶道用道具炭である菊炭（一庫炭や池田炭とも呼ばれています）の生産が今も続く日本一の里山、ニュータウンや市街地を流れる猪名川渓谷と周囲を彩るエドヒガン、笹部や赤松にある農村風景を残す棚田、そして特産品であるイチジク、クリ、モモなど、全国に誇れるすばらしい自然があります。これらの自然は、昆虫や鳥類などたくさんの生きものを育むだけでなく、私たちにも食べ物や製品の原材料、そして心の安らぎなど、さまざまな恩恵を与えています。

近年、これらのすばらしい自然が、開発や外来種の繁茂による直接的な影響、人と自然のつながりが薄れてきたことによる間接的な影響など、さまざまな要因により失われつつあります。川西市内でも身近にいたメダカが全国的には絶滅が心配されるようになり、ドジョウも川西市でも見られる場所に限られるようになってしまいました。今、私たちに豊かな恵みをもたらしてくれるこの自然は、未来の子どもたちから預かったものです。私たちの時代で、これらの自然や生きものたちをなくすわけにはいきません。私たちには、川西市の自然や生きものだけでなく、そこから得られる恵みを次世代に引き渡していく責務があります。

そこで「生物多様性ふるさと川西戦略」では、川西市のすばらしい自然と文化のもとになる生物多様性を次世代に引き継ぎ、持続的に利用することを目的に、私たちのふるさとである川西に誇りと愛着を持って、自然や文化、生物多様性の理解を深め、川西総動員で生物多様性を守り、育み、共生するまちづくりを進めていくために取るべき行動について提言しました。

(2) 「生物多様性ふるさと川西戦略」改訂の趣旨

2015年に「生物多様性ふるさと川西戦略」を策定して以降、私たちは川西市の生物多様性への理解を深め、川西総動員で生物多様性を守り、育み、共生するまちづくりのために、さまざまな取り組みを行ってきました。

しかし、世界ではSDGsやOne Health（ワンヘルス）^{※1}が広まる、ネイチャーポジティブ^{※2}に向けた30by30^{※3}といった新たな目標が設定されるなど生物多様性を巡る情勢は変わりつつあります。国でも「生物多様性国家戦略」の次期戦略案の策定が進められています。兵庫県では2019年2月に「生物多様性ひょうご戦略」及び「第5次兵庫県環境基本計画」が策定されました。

また、本戦略では2032年度までの計画期間のうち、2022年度までを第1期とし、その後の10年間を第2期としています。

これらの理由から、本戦略を国内外の新たな動向に対応したものとするために改訂しました。

※1 One Health：動物から人へ、人から動物へ伝播可能な感染症（人獣共通感染症）は、全ての感染症のうち約半数を占めており、医師及び獣医師は活動現場で人獣共通感染症に接触するリスクを有しています。こうした分野横断的な課題に対し、人、動物、環境の衛生に関わるものが連携して取り組む考えです。新型コロナウイルス流行をきっかけに広く知られることとなりました。

※2 ネイチャーポジティブ：生物多様性の損失を食い止め、回復させることです。

※3 30by30：2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標です。2021年のG7サミットでG7各国が約束し、2022年の生物多様性条約第15回締約国会議（COP15）で採択された「昆明・モントリオール生物多様性枠組」でターゲットとして位置づけられました。

2. 生物多様性とは

(1) 生物多様性の概説

生きものは長い地球上の歴史の中でさまざまな環境に適応して進化し、私たち人間を含む多種多様な生きものが生まれてきました。そしてそれらの生きものには、一つひとつに個性があり、すべてが直接的または間接的に支えあって生きています。このようにいろいろな環境の中で、たくさんの生きものが存在している概念を生物多様性と言います。

しかしながら、生物多様性と言っても目に見えるものではないため、私たちにとって理解しにくいところもあります。そこで、生物多様性を「種の豊かさ」、「つながり」、「個性」という視点から捉えることで理解しやすくなります。生物多様性条約によると生物多様性には、「種の多様性」、「生態系の多様性」、「遺伝子の多様性」の3つの多様性が含まれています。

■種の多様性～生きものの種類が豊かなこと～

種の多様性とは、すなわち「種の豊かさ」のことです。例えばため池という環境の中に、よりたくさんの生きものがすんでいる方が、種が豊かであり種の多様性が高いと言えます。そしてこれら種の間では、いわゆる食う、食われるという食物連鎖や、酸素を出す種と使う種など、生きもの同士の「つながり」があってため池の生態系を作り出してすべての種が生きているのです。もし、何かの生きものが絶滅してしまうと、それを食べていた生きものとのつながりが無くなってしまい、いずれはその種も消えて種の多様性が低下するかもしれません。

■生態系の多様性～生きもののすむ環境の種類が豊かなこと～

川西市には、川、ため池、田んぼ、畦の草原、里山や鎮守の森などいろいろな環境、すなわち生態系があります。各環境の中では、それぞれの環境に適応した生きものが暮らしています。そのため、環境の種類（生態系の多様性）が多いほど、たくさんの種を育てることができるのです。さらに、生きものには一つの環境の中で過ごすものもいれば、川西市にも生息している珍しいモリアオガエルのように、子どもの時は水辺、大人になると山で過ごすというように複数の環境を使う生きものがあります。そのため、モリアオガエルが生きていくためには水辺と山の2つの生態系と、それらの生態系の「つながり」が必要なのです。

■遺伝子の多様性～同じ生きものにおける個性の違いのこと～

上記の説明では、モリアオガエルという「種」を例に述べています。しかし、種が同じだからと言って、すべての個体が同じであるとは限りません。モリアオガエルは体の色が緑色の個体、斑紋が入る個体などの違いがあります。このように、同じ種の中でも色や大きさ、性質などの違い、すなわち遺伝子の違いによる「個性」があります（遺伝子の多様性）。個性の違いとは、例えばある病気に強い個体、寒さや暑さなどの厳しい環境にも耐えられる個体がいることです。それにより、もし何かの病気が広がったとしても、生き残る能力を持つ個体・個体群が現れ、絶滅することなく種が維持されているのです。また、個性には、日本と外国、関西と北海道などの地域間での違いや、さらには川西市内の同じ場所においても、それぞれの個体が違うことがあります。それらの違いは、それぞれの地域特有の自然や文化と結びつき、長年の営みの中、各地域で獲得した地域固有の大切な個性なのです。

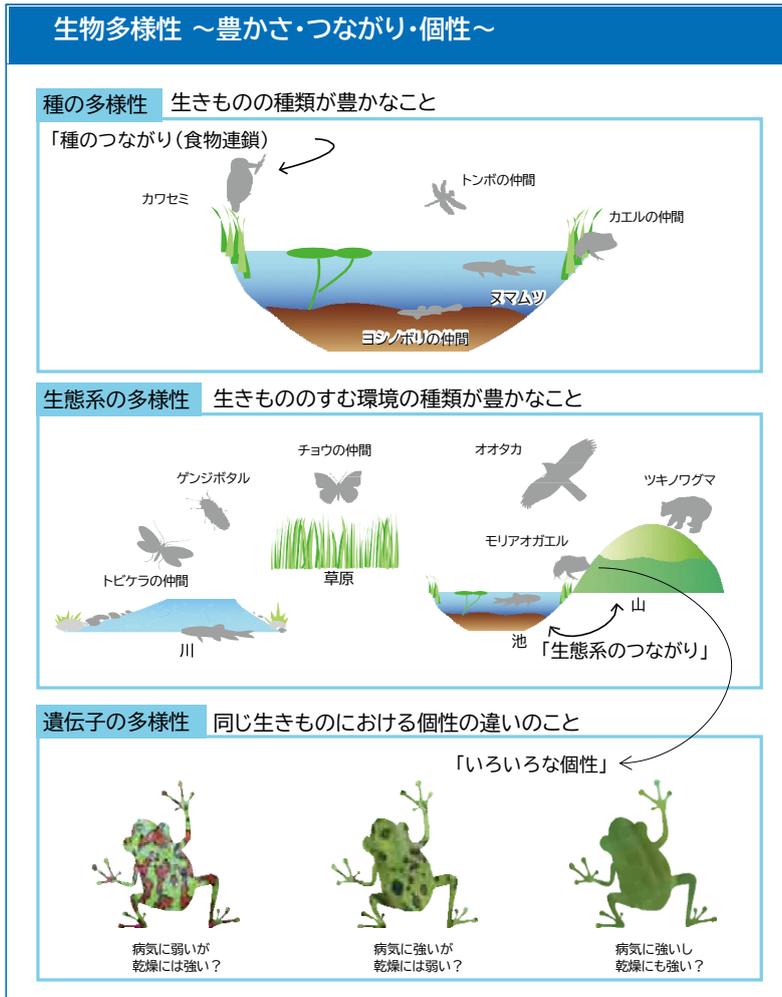


図1 生物多様性の概念図

(2)失われつつある生物多様性～生物多様性を脅かす4つの危機～

生物多様性の重要性が認識される一方、世界的、全国的に生物多様性が失われつつあります。その要因はさまざまな理由がありますが、大きくは次の4つにまとめられます。

1)人間活動などの直接的な要因(第1の危機)

山に生える美しいササユリやエビネの掘り取りや乱獲、住宅地などの開発による山林の消失などといった直接的な影響です。種そのものや生息地が無くなってしまふことで、種の豊かさは顕著に減少してしまいます。また、道路整備などにより森林が孤立し環境の分断化がおこり、生態系のつながりが切れてしまいます。川西市では、かつては住宅地を確保するために農地や里山が開発されました。近年では、新名神高速道路の建設が進められている区域について、開通、石道地区の流通センターや舎羅林山の開発によって森林などへの影響が懸念されます。このような直接的な要因から、川西市ではかつてはたくさん見られたメダカが、生息地の改変や生態系のつながりが切れてしまい絶滅危惧種に指定されたほか、ドジョウもごく限られた場所で見られなくなりました。

2)人の働きかけが減少することによる間接的な要因(第2の危機)

かつては、川西の北部では広大な面積で菊炭*（一庫炭・池田炭とも呼ばれています）の生産が行われてきました。それ以外の山林でも日々の暮らしの燃料を得るために山から木を切り出していました。しかしながら数十年前に、石炭や石油が入ってきたことにより、山から燃料をとる必要がなくなり、人は山に入って木を切る必要がなくなりました。そして、人の山への働きかけ、つまり山での伐採や利用が少なくなり、ヒサカキやヤブツバキなど限られた常緑樹や、フジなどのつる植物が繁茂するようになりました。そのため、林内が暗くなまったり、荒れたりするため、多くの種類の植物が消失しつつあります。また里山での人の活動が無くなることで、シカやイノシシが山麓、農地にまで現れるようになり、シカの採食による林床植物の消失、イノシシによる農作物への被害が深刻になっています。近年の生活スタイルの変化による間接的な要因であり、人と自然、種と種のつながりが切れてしまうことによる生態系の悪化が進んでいます。

3)地域外国から持ち込まれた外来種の野生化による要因(第3の危機)

もともとその地域にいなかったのに、人間の意図活動によって他の有無に関わらず、外国地域から持ち込まれて日本で野生化した種入ってきた生物のことを外来種と言います。外来種には、時に日本の気候条件に適應し、大繁殖、大繁茂する種があります。近年特に問題となっているのは、湖やため池にすむオオクチバスやブルーギル、河川敷や畑を覆い尽くしてしまうつる植物であるアレチウリやオオキンケイギクなどです。といった外国から持ち込まれて日本で野生化した種があります。近年では、日本国内のある地域からもともといなかった地域に入ってきて外来種となる、「国内由来の外来種」も問題となっています。これらの種は、日本本来のその地域にいる生きものを食べ尽くす、他種の生活の空間を奪い取るなどでつながりを切ってしまう、種の豊かさの減少をもたらしています。

このほか、外来種による種の個性（遺伝子の多様性）のかく乱も危惧されています。例えば、川西市では在来種であるカンサイタンポポが、外来種であるセイヨウタンポポとの交雑が進み、日本の気候の中で、長年にわたり作られ維持されてきたカンサイタンポポ本来の地域の個性が徐々に奪われつつあります。

※菊炭：炭の断面に、美しい放射状の模様が入ることから菊炭と呼ばれています。

4)地球温暖化による要因(第4の危機)

人の活動により二酸化炭素などの温室効果ガスを大量に排出され、地球が温暖化することによる要因です。例えば、妙見山頂付近で見つかった貴重な樹木であるブナは冷涼な環境で生育しますが、温暖化が進むと十分な成長ができずに、消失するかもしれません。また、近年の局地的な豪雨も地球温暖化の影響とも言われており、土砂崩れなどによる生きものの生育、生息場所の破壊や、さらには私たちの生活への直接的な危機も危惧されます。

コラム

生物多様性を保全する上で、望ましくない生きもの

本戦略では、種の豊かさや個性が多様なほど良いとしています。しかし、在来種や地域の生態系に甚大な影響を及ぼし、川西市の生物多様性を悪化させる生きものについては、駆除する立場をとっています。具体的には侵略的な外来種とシカ（ホンジカ）です。

侵略的な外来種

侵略的な外来種とは、日本の気候などに適応し、異常に繁殖するなどして在来種や生態系、人の生活へ大きな悪影響を及ぼす種です。特に侵略性が強い種は、2005年に施行された特定外来生物法により「特定外来生物」として、飼養、栽培、保管、運搬、輸入について厳しく規制されています。川西市では、植物ではアレチウリ、オオカワジシャ、動物ではヌートリア、アライグマ（以上、哺乳類）、ソウシチョウ（鳥類）、ウシガエル（両生類）、オオクチバス、ブルーギル、カダヤシ（以上、魚類）などが確認されています。例えば、アレチウリは河川敷などで一気に生長し、周辺のほかの植物におおい被さり、光を奪って駆逐してしまいます。また、オオクチバスやブルーギルは湖沼において、在来の魚類を捕食し尽くすことで、在来種の減少や生態系の悪化が起きています。人間の都合で、外国から連れてこられた外来種自体には罪はないのですが、このように地域本来の種や生態系に悪影響を及ぼす外来種は駆除の対象とします。

シカ（ホンジカ）

シカはもともと日本にいた哺乳類ですが、近年、日本各地でシカが増加し、その食害による森林の荒廃が問題となっています。川西市でも北部の里山を中心にシカの頭数が増え、里山の低木や林床植物を食べ尽くしています。これにより里山の林床はシカの食べない特定の種だけが残り、その他の種が無くなってしまい生物多様性が激減しています。また、それにより表層土壌を覆う植物が無くなることで、土砂崩れの影響も懸念されています。このようなことから、川西の生物多様性を保全するために、増えすぎているシカに対しては捕獲する必要があります。

(3)生物多様性の大切さ～生物多様性を守る4つの意味～

なぜ生物多様性を守らなければならないのでしょうか。それは生物多様性そのものが、私たち人間が暮らししていくためには必要不可欠なものであり、生物多様性から受けている恩恵を持続的に利用していかなければならないからです。

生物多様性を守る意味を、「[生物多様性国家戦略 2012-2020](#)」では次の4つに整理しており、これは2023年3月に策定された「[生物多様性国家戦略 2023-2030](#)」にも受け継がれています。

1)すべての生命の基礎となっています

地球上の生物は、地球生態系という一つの環の中で深く関わり合い、つながりあって生きています。生きものやそれらが作る生態系は、酸素を作り、水を循環させるなど、さまざまな働きを通じて、現在および将来のすべての生命にとって欠かすことのできない基礎となっています。

2)人間にとって有用な価値を持っています

私たちの生活は、多様な生物を利用することによって成り立ってきました。食料や食材、薬品や衣服などの加工品など、さまざまな形で生物を直接的、間接的に利用しています。このようなことから、生物多様性は、現在および将来にわたり豊かな暮らしにつながる有用な価値やその可能性を有しており、守っていかなければならないのです。

川西市で生産されているイチジクは「榊井ドーフィン」という品種で、ほかの品種に比べて大きく、収量も多いことが特徴です。これは、榊井光次郎という人がアメリカから持ち帰った苗木を、明治から大正時代にかけて、性質の違うイチジクと掛け合わせて作られたと言われています。つまり、イチジクの持つ多様な個性、遺伝子の多様性があったからできたのです。

3)豊かな文化の根源となります

人は、自然と一体となった自然観を有し、自然を尊重し、自然と共生する暮らしの中で多様な文化を形成してきました。生物多様性は、精神の基盤となり、地域色豊かな固有の財産ともいべき文化の多様性を支えるものであり、その根源となっています。

川西市には全国に誇る日本一の里山があります。日本の茶道の文化が根付いたことから、約500年以上も前にクヌギを原木とする菊炭（一庫炭・池田炭）の生産が始まり、現在も続いています。

4)将来にわたって安全な暮らしを保証します

多様な植物や生きものからなる健全な森林を整備・保全することや、環境保全型の農業では、土砂の流出や崩壊防止、安全な飲み水や食料の確保に寄与しています。生物多様性の観点から、自然と人の利用のバランスを健全に保つことは、長い目で見れば、世代を超えて効率的に暮らしの安全性を保証することにつながります。

コラム

生態系サービス(生物多様性からの恩恵)

生物多様性を守る4つの意味で説明したとおり、私たちは自然の生きものから、直接、あるいは間接的にさまざまな恩恵を受けています。国連によるミレニアム生態系評価では、このことを「生態系サービス」と呼び、4つに整理しています。聞き慣れない言葉ですが、生物多様性と私たちとの関わりがうまく説明されています。

供給サービス

様々なものを供給してくれる恩恵

野菜、魚などの食品
繊維や染料医薬品
エネルギーなど

文化的サービス

多様な文化を作りだす恩恵

伝統文化
レクリエーション
美しい景観など

調整サービス

自然に守られる私たちの暮らし

気候調節
洪水調節
表土流出防止
水の浄化など

基盤サービス

生きものがうみだす大気と水などの恩恵

植物の光合成による酸素供給、水循環、土壌の形成や栄養分の循環など

(4)次期「生物多様性国家戦略 2023-2030」について

「生物多様性国家戦略 2012-2020」の計画期間終了に伴い、国では 2023 年3月に「次期生物多様性国家戦略 2023-2030」(以下、次期国家戦略という。)の策定に向けて検討を進めています。

次期「生物多様性国家戦略 2023-2030」は、「昆明・モンテリオール生物多様性枠組^{※1}」に対応し、地球の持続可能性の土台や人間の安全保障の根幹である生物多様性や自然資本を守り活用するための戦略として位置づけ、5つの基本戦略により「2030 年ネイチャーポジティブ」の実現を目指すこととしています。



出典)環境省 HP 次期生物多様性国家戦略案の概要を基もとに作成

※1 昆明・モンテリオール生物多様性枠組：2022年12月に開催された生物多様性条約第15回締約国会議(COP15)で採択された、愛知目標(2010採択)の後継となる目標です。30by30をはじめ、侵略的外来種の侵入率や定着率の半減、ビジネスにおける影響評価・情報公開の促進など、計23個のターゲットが掲げられています。

※2 NbS(Nature-based Solutions)：社会課題に効果的かつ順応的に対処し、人間の幸福および生物多様性による恩恵を同時にもたらす自然や生態系の保護、持続可能な管理、回復のための行動を指します。「自然を基盤とした解決策」と訳される、国際自然保護連合(IUCN)と欧州委員会が定義を発表した比較的新しい概念です。

※3 OECM(Other effective area-based conservation measures)：保全地域(国立公園などの保護地区)以外の地域で生物多様性を効果的かつ長期的に保存しうる地域のことです。2010年に名古屋で開催された生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)で日本が主催国として提起しました。

3. 策定の背景と位置づけ

(1) 生物多様性戦略に関する関係法令や国、県などの動向

1992年の環境と開発に関する国際連合会議（地球サミット）において、温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨、生物多様性の減少など地球規模の環境問題が国際的に提示されて以降、2015年の国連サミットで持続可能な開発目標（SDGs）が採択され、2022年の生物多様性条約第15回締約国会議（COP15）で、2030年までに生物多様性の損失を食い止め、回復させるために、陸と海の30%以上を健全な生態系として保全する目標（30by30）が設定されました。その後、日本では生物多様性条約の締結、生物多様性国家戦略が作成され、2010年名古屋で開催されたCOP10（生物多様性条約第10回締約国会議）により、この問題を広く国民が知るところとなりました。また、基本法（2008年の生物多様性基本法）により、国だけでなく、県や市町においても生物多様性戦略（地域戦略）の作成が求められるようになりました。2023年3月には、現在、「生物多様性国家戦略 2012-2020」に次ぐ「次期生物多様性国家戦略 2023-2030」の策定に向け検討が行われていまして、

表1 生物多様性に関する動向

年	世界	日本	兵庫県	川西市
1992	環境と開発に関する国際連合会議(地球サミット・於：リオ)			
1993	生物多様性条約を締結			
1995		生物多様性国家戦略	兵庫ビオトープ・プラン 兵庫県版レッドデータブック	
2002		新・生物多様性国家戦略 自然公園法改正 (生物の多様性の保全が追加) 鳥獣保護法(全面改定) 環境教育推進法策定	新兵庫県環境基本計画 新ひょうごの森づくり(H14-23)	川西市緑の基本計画
2003			兵庫県版レッドデータブック 2003	
2004		外来生物法制定		
2005	ミレニアム生態系評価発表			
2006				川西市環境基本条例
2007		第三次生物多様性国家戦略		川西市環境基本計画
2008		生物多様性基本法 →生物多様性地域戦略の必要性	第3次兵庫県環境基本計画	
2009		生物多様性民間参画ガイド 生物多様性地域戦略作成の手引き	生物多様性ひょうご戦略策定	
2010	COP10(名古屋愛知目標)	生物多様性国家戦略 2010 生物多様性地域連携促進法成立	兵庫県版レッドリスト 2010 兵庫県版レッドリスト 2011 (地形・地質・自然景観・生態系)	
2012	国連持続可能な開発会議(リオ+20 於：リオ)	生物多様性国家戦略 2012-2020	兵庫県版レッドリスト 2012 (昆虫類) 新ひょうごの森づくり(H24-R3)	
2013			兵庫県版レッドリスト 2013 (鳥類)	川西市都市計画マスタープラン 第5次川西市総合計画
2014			第4次兵庫県環境基本計画 生物多様性ひょうご戦略改定 兵庫県版レッドリスト 2014 (貝類・その他無脊椎動物)	
2015	国連サミット →持続可能な開発のための2030アジェンダ(SDGs)採択			生物多様性ふるさと川西戦略
2017			兵庫県版レッドリスト 2017 (哺乳類・爬虫類・両生類・魚類・クモ類)	第2次川西市環境基本計画
2019			第5次兵庫県環境基本計画 生物多様性ひょうご戦略改定	
2020		次期生物多様性国家戦略の策定に向けた検討開始	兵庫県版レッドリスト 2020 (植物・植物群落)	
2021	G7サミット →G7各国が30by30の設定			川西市緑の基本計画部分改訂

第1章 「生物多様性ふるさと川西戦略」策定の目的と位置づけ

2022	COP15（昆明・モントリオール生物多様性枠組）→30by30のターゲット化		新ひょうごの森づくり（R4-13）	
2023		生物多様性国家戦略 2023-2030		
1994			緑豊かな地域環境の形成に関する条例	
1994			ひょうごの森づくりプラン（H6-13）	
1996			兵庫県環境基本計画	
1997		河川法の改訂（河川環境整備推進法） 環境基本法		
2001	国連ミレニアム生態系評価開始			

黄緑色：国際的な、または日本での法律に関する動き。
 水色：国、兵庫県レベルでの生物多様性の保全に対する具体的な動き。
 黄色：川西市の環境保全に関わる施策。

◇持続可能な開発目標(SDGs)

平成 27 (2015) 年9月に開催された国連サミットにおいて、「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」が全会一致で採択され、すべての国が 2030 年までに達成する国際社会の共通の目標として、持続可能な開発目標 (SDGs) が設定されました。

SDGs では、世界が直面している社会、経済、環境に課する課題を統合的に解決しながら持続可能なよりよい未来を築いていくための 17 のゴールと 169 のターゲットが設定されています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



(2)「生物多様性ふるさと川西戦略」の位置づけ

川西市においても、生物多様性基本法や生物多様性国家戦略、生物多様性ひょうご戦略の作成を受け、2013 年の第 5 次川西市総合計画において、川西市における生物多様性地域戦略の作成が位置づけられました。

(3)計画の範囲と計画期間

■対象区域：川西市内全域。

必要に応じ隣接市町との連携を取っていくものとします。

■計画期間：2015年度から2032年度までの18年間。

2013年度に策定された「第5次川西市総合計画」との整合を図り、第5次川西市2022年度までを第1期とし、2023年度から2032年度までを第2期とします。

~~総合計画期間である2022年度までを第1期とし、その後の10年間を第2期とします。~~

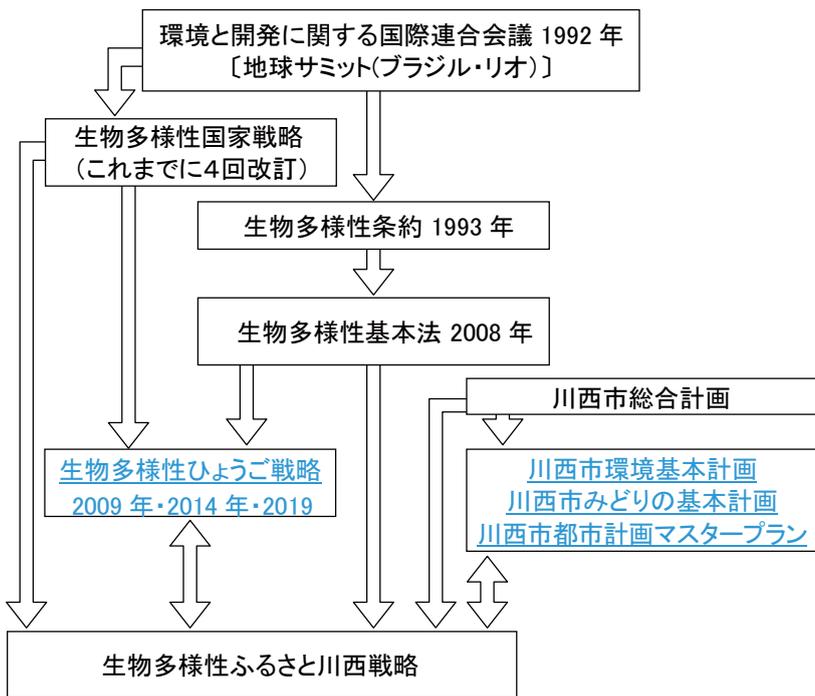


図2 「生物多様性ふるさと川西戦略」の位置づけ

第2章 川西市の生物多様性の現状と課題

1. 川西市の概況

(1)位置・地勢・交通

本市は兵庫県の南東部に位置し、南は兵庫県伊丹市に、西は兵庫県宝塚市と猪名川町に、北は大阪府能勢町と豊能町に、東は大阪府池田市と箕面市に隣接しています。市域は東西 6.5km、南北は猪名川に沿って 15km と東西に狭く南北に細長い「タツノオトシゴ」に似た形をしており、面積は 53.44km²、周囲は約 59 km です。標高は最高が 660m (妙見山山頂)、最低 15m (南部市街地) です。

本市の地勢は、市南部を東西に横断する有馬一高槻構造線より北側には山地が広がり、その一部は猪名川渓谷県立自然公園に指定されています。また、南側の地域には平野が広がっています。

北部の山地は、急峻な地形の箇所は少なく、比較的なだらかな山並みを見せ、豊かな自然環境を作っています。恵まれた自然環境と大阪や阪神臨海方面への交通が至便であるという好条件のもと、大阪経済圏の住宅都市として昭和 40 年代から急激に開発が進み、現在に至っています。

中部には清和源氏発祥の地として有名な多田神社、南部には弥生時代の暮らしを物語る加茂遺跡や栄根遺跡などの史跡も点在しています。市の中心部である川西能勢口駅周辺では、鉄道高架事業や市街地再開発事業が行われ、都市機能と周辺地域の商業機能が高められるなど「生活創造都市」への展開を図っています。

南部の平地はよく知られているイチジク生産農地、住宅、工場が混在する市街地となっています。

交通は、南部を東西に JR 宝塚線、阪急電鉄宝塚線が大阪方面と宝塚・三田方面を結び、南北には能勢電鉄が縦断しています。

高速道路(自動車専用道路)は、市南部に中国縦貫自動車道が東西方向に横断し、市南東部には阪神高速道路大阪池田線が走り、市内に阪神高速道路川西小花出入口が設置されています。市中央部には新名神高速道路が走り、市内に川西インターチェンジが設置されています。また、国道は 176 号が市南部を東西に横断し、大阪方面と宝塚・三田方面を結び、173 号が南北方向に縦断しています。

なお、2016 年度の開通を目標に新名神高速道路の整備が進められています。

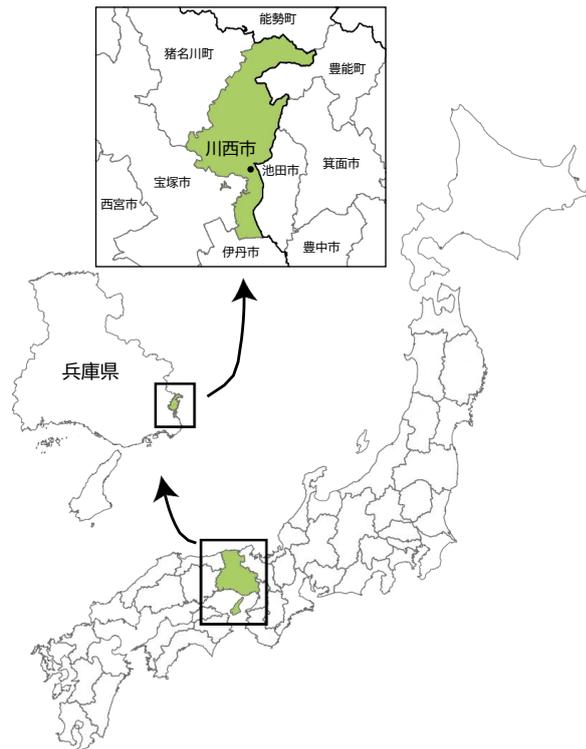
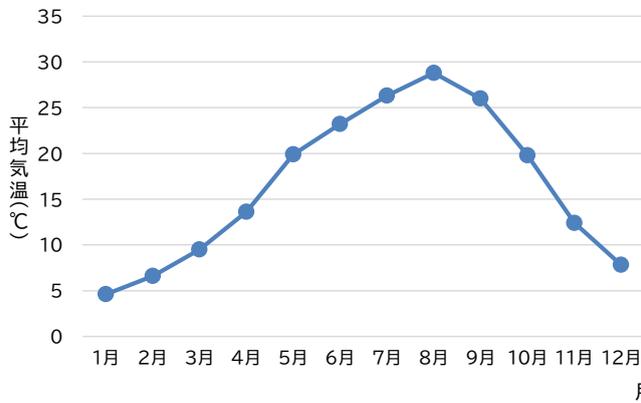


図3 川西市の位置

(2)気候

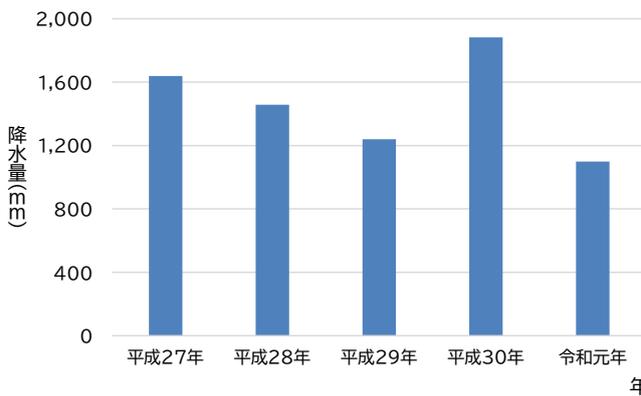
川西市消防本部の調べでは、川西市の年平均気温はおよそ 16.85℃であり、年間の降水量は過去5年間の平均で 4375mm1463.7mm です。これらの値から見ると、川西市は温暖で降水量の少ない瀬戸内海式瀬戸内気候区に属していることがわかります。

このような気候条件の川西市は、全域が森林に覆われるのが本来の自然であり、海拔600mまではシイやカシといった照葉樹林が発達し、それより高海拔域（600～660m）ではブナに代表される夏緑樹林が発達します。しかしながら、大昔からの人々の活動や森林の利用により、森林の様子は大きく変わっています。川西市内では、照葉樹林は神社社寺林に小面積が残されており、また、ブナは妙見山山頂付近に数個体が生育しているのみです。



出典)川西市統計要覧(令和元年度)

図4 令和元(平成 31)年平均気温



出典)川西市統計要覧(令和元年度)

図5 過去5年間の年間降水量

(3)川西市の気候自然の特性

川西市には次のような豊かな自然が残っています。

- 1 里山（日本一の里山）
- 2 豊かな生物多様性
- 3 プナ林（夏緑樹林）
- 4 エドヒガン（さくら）
- 5 里山放置林
- 6 ナラガシワ
- 7 猪名川



川西市・能勢町 妙見山のブナ群落



川西市奥灘谷の台場クヌギ個体群



川西市奥灘谷の台場クヌギ個体群



里山放置林(東多田)



黒川妙見ケーブル横のエドヒガン



里山放置林(東多田)



猪名川



ナラガシワ(川西市笹部)



ナラガシワ(川西市笹部)



猪名川

2. 川西市が誇る豊かな自然

(1)川西市の植生・地質

1)植生

市域の北部、ニュータウンが広がる中央部に山林が見られ、北部はコナラーアベマキ群集やクヌギニシノホンモンジスゲ群落（植生図ではコナラーアベマキ群集で塗られていますが、今もなお菊炭（一庫炭・池田炭）を産する北部はこのクヌギニシノホンモンジスゲ群落が広く見られます）、中央部はアカマツモチツツジ群集が優占する二次林が広がるほか、スギヒノキ群落やモウソウチクマダケ群落などの人工林も集落周辺に見ることができます。

なお、アカマツモチツツジ群集は、かつては松茸も採れるようなアカマツ林でしたが、現在ではマツ枯れの影響により植生遷移が進み、コナラーアベマキ群集に置き換わりつつあります。

水域としては、市域の南北方向を猪名川やその支流が流下しており、ヨシなどの抽水植物が群落をつくっています。

畑および水田は、南部の市街地も含め、市域全体で農耕が営まれおり、畦畔草地などの植物群落も市域には多いことがわかります。その他の草地としては、市域にゴルフ場が比較的広い面積で分布しています。

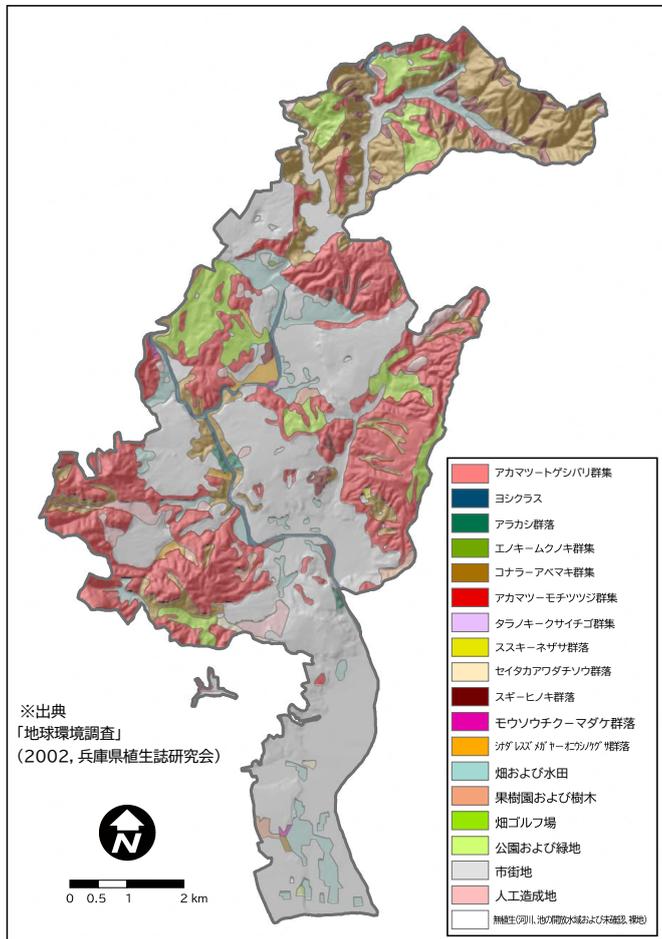


図56 川西市の現存植生

2) 表層地質

市域の中央部より以北は、地質年代の古い超丹波帯地層群が優勢し、以南は丹波層群や沖積層が広く見られます。猪名川周辺には、中・低位段丘層が分布しており、段丘の特徴として久代の春日神社にあるような湧水が見られる場所もあります。また、南部の市街地にはかつて河川の氾濫原に成立していたと考えられるエノキの林などが段丘崖に残っています。

なお、市域の中央部より以北の超丹波帯地層群には、ほかではあまり見ることのできないエドヒガンという珍しいサクラが多数分布しています。エドヒガンは、明るい場所でないとも生きていくことができないことが知られており、古く崩れやすい地質が明るい場所を提供してきたことが、エドヒガンが多い理由の一つの理由ではないかと考えられています。

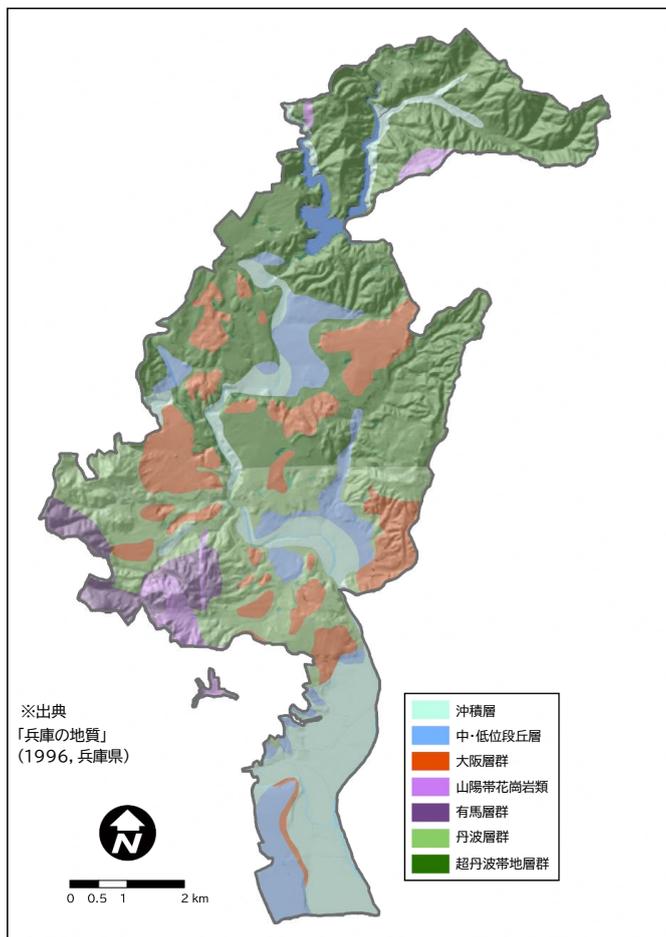


図6 川西市の表層地質

(2)川西市の多様な環境・生態系

1)日本一の里山

◇特徴：川西市北部の黒川周辺に成立するクヌギが優占する里山です。菊炭（一庫炭・池田炭）と呼ばれる茶道用高級道具炭の生産が今なお続けられており、8～10年周期の輪伐により伐採年の異なる植分がパッチワーク状に広がる景観が見られる場所です。茶道という歴史と文化に基づき作られた景観が、全国でも川西市でしか見ることができないことに加え、非常に高い生物多様性を有することから、日本一の里山とされています。そしてこの場所では、多くの市民団体により、保全活動が進められています。

◇生物多様性の状況：台場クヌギ、エドヒガン（植物）、ヒロオビミドリシジミ、オオムラサキ、ギフチョウ、スジボソヤマキチョウ、クロヒカゲモドキ、オオクワガタ、アカマダラハナムグリ、クロカナブン、ヒメボタル、ゲンジボタル（昆虫類）など多くの生きものが生育・生息しています。ただし、近年はシカの食害の影響により、里山の林床の植物は種類数が非常に少なくなり、生物多様性の低下が危惧されます。また、多くの昆虫を育むが故に、心ない人たちにより台場クヌギが傷付けられたり、乱獲による被害も深刻になってきています。

◇生物多様性から見た重要性：当該地のクヌギ林は、生きた里山林として価値があるだけでなく、里山の生物多様性を維持する上で重要であり、また、地域の歴史・文化・自然を学ぶ環境学習・生涯学習の場としても貴重です。



2)棚田

◇特徴：笹部には、四季折々の美しい棚田が広がっています。山麓の緩傾斜地に作られた水田とその間を仕切る畦には、種々の生きものがすんでいます。また、笹部よりは小規模ですが、赤松北谷などにも棚田が残されており、人の営みにより作られた美しい景観を見ることができます。

◇生物多様性の状況：チガヤ、ススキ、ノアザミ、キツネノマゴ、スイバ、ヒガンバナ、ノビル、イヌタデ、ノチドメ、エノキグサ、ヘビイチゴ、ヒメヨツバムグラ（植物）などたくさんの植物が生育しています。

コメントの追加 [菊池1]: 昆虫など動物も分かれば追記
→素案作成後部会に諮る(市)

◇生物多様性から見た重要性：定期的に刈り取り管理が行われる棚田の畦畔には、チガヤの優占する草地が見られ、畦畔特有の植物や昆虫などの貴重な生息環境にもなっています。このような草地環境は、農業の営みにより維持されており、美しい田園風景とともに保全すべき市域の生物多様性です。



3)ニュータウンのまち山

◇特徴：清和台付近の虫生川両岸に見られるニュータウンに残された里山林。北部の日本一の里山同様、コナラやクヌギが優占する林ですが、シカの影響がないこと、市民団体による管理が行われていることなどから、低木層、草本層の植物の種類が非常に多いのが特徴です。

◇生物多様性の状況：現地での確認では、面積 100 m²内に 50 種類（草本層だけでも 38 種）もの植物が生育しています。シロバナウンゼンツツジ、ササユリ、ミヤマウスラ、キンラン、ミヤマヨメナなど、美しい花が咲く植物がたくさん生育しています。

コメントの追加 [菊池2]: 昆虫など動物も分かれば追記活動団体に協力いただく。
→素案作成後部会に諮る（市）

第2章 川西市の生物多様性の現状と課題

◇生物多様性から見た重要性：シロバナウンゼンツツジやササユリなどの植物が多いことに気づいた市民団体が、それらの保全を目的とした森林整備（市有地）を行っています。貴重な植物を含む、非常に多様な植物が生育しており、市域の生物多様性を保全する上で重要な場所です。しかしながら、詳細な調査は行われておらず、生物多様性の実態などがまだわかっていません。



4) 段丘崖のエノキ林

◇特徴：川西市南部の市街地、加茂にある河岸段丘崖に残された森林です。エノキ、ムクノキからなる自然植生や竹林が成立しています。また、竹林を中心にヒメボタルが生息しており、市民団体による保全活動が進められています。

◇生物多様性の状況：エノキ、ムクノキ、クスノキ、モチノキ、タラヨウ、カゴノキ、イヌマキ、ヤブニッケイ、ハカタシダ、ヘニシダ（植物）、ヒメボタル、ハイケボタル（昆虫類）などのほか、トウネズミモチ、シュロなどの外来種や植栽種が確認されています。

◇生物多様性から見た重要性：市街地の中における生物多様性を守るスポットとして非常に貴重な場所となっています。ただし、ヒメボタルが生息する竹林にはゴミの投棄が見られたり、隣接するエノキ、ムクノキの林に竹が侵入しつつあるような課題があります。



5)河川・水辺環境(知明湖、猪名川河川敷、猪名川溪谷、鼓が滝、初谷川、市街地の水路)

◇特徴：川西市の河川や水辺環境は猪名川水系が中心となっています。一庫ダムの知明湖、水明台のエドヒガンが群生する猪名川溪谷や鼓が滝、初谷川があります。南部の市街地を流れる猪名川は国の管理となり、広い河川敷が整備されています。また、川西北小学校近くには、貴重な魚類が生息する水路が流れています。

◇生物多様性の状況：それぞれのスポットに、エドヒガン、サツキ、ユキヤナギや珍しい魚類などの、重要な生物が生息しています。一方、知明湖のブラックバスやブルーギル、猪名川河川敷のアレチウリなど特定外来生物も確認されています。

◇生物多様性から見た重要性：川西市では、山や農地など異なる生態系を有する場所である水辺空間は少ないため、水生生物の多様性の確保、保全の場として重要な空間です。



6)社寺林

◇特徴：社寺にある森林は長年にわたり守られていることから、川西市の気候下に成立する自然林として自然性、景観から貴重な空間となっています。市内には、鴨神社、小戸神社、八坂神社、平野神社、多太神社、満願寺などの社寺が森林を抱えており、そのほとんどがシイ、カシ、クスノキなどが優占する照葉樹林です。ほかには鴨神社に見られる段丘崖のエノキ、ムクノキの森林もあります。

◇生物多様性の状況：外から見た相観としては照葉樹林となっているものの、林内は暗く、低木層や草本層の植物を欠いている場所が多いです。そのため、生物多様性は低く望ましい状態ではありません。満願寺で行った調査では、樹高は22mに達して立派な林冠を作っていますが、100㎡内には9種類の植物しか確認できませんでした。人の散策による踏圧、シカの食害や上層の樹木が茂りすぎるための林内へ日照不足などにより、種の多様性が低くなっていると考えられます。

◇生物多様性から見た重要性：現状の生物多様性は低いものの、照葉樹林を生息の場とする生きものにとっては重要な場所であり、生物多様性の向上を目指した整備などを実施していく必要があります。



コメントの追加 [菊池3]: 現状維持。素案作成後部会に諮る(市)

(3)川西市の生物相

1)概要

生物多様性の基本データとして、既往の文献、資料から川西市で確認されている生物種を整理しました(表2)。これによると、植物が 4,040,967 種、動物が 2,412,378 種、合計 3,422,345 種の生物が確認されており、それらの内 466,230 種(植物 2425 種、動物 442,195 種)が絶滅の危機になる種となっています。一方で、2149 種の外来生物も確認されており、アレチウリなどの 長期的な 特定外来種の生育も確認されています。

書式変更: 蛍光ペン (なし)

表2 川西市の確認生物数

区分	科数	種数					
		絶滅危惧種	外来種				
植物	シダ植物門	21	9772	45	1		
	種子植物門	裸子植物亜門	6	813	0	0	
		被子植物亜門	双子葉植物綱	67	40612	375	622
			合弁花亜綱	30	2565	101113	677
		単子葉植物綱	19	23413	7	4039	
	合計	143	1,010,967	24,2530	1702		
動物	哺乳類	13	231	96	4		
	鳥類	38	12815	3857	5		
	爬虫類	8	15	67	2		
	両生類	7	134	10	1		
	昆虫類	285	1,8389	85106	2023		
	魚類	13	4255	1112	5		
	その他無脊椎動物	55	208315	718	47		
	合計	419	2,412,378	142,195	4147		

表の書式変更

書式変更: 蛍光ペン (なし)

次に、すでに生物多様性地域戦略が作成され、生物の確認情報が記載されている神戸市、伊丹市、加西市、宝塚市、西宮市との比較を表3に整理しました。

整理している分類群が統一されていないので簡単には比較できませんが、植物の確認種数は他市と比べて少ないものの、動物の確認種数は4市6市の中で2番目4番目に多いものとなっています。

表3 他市との確認生物数の比較

分類	川西市	神戸市	伊丹市	加西市	宝塚市	西宮市
維管束植物	4,040,967	2,419		1,138	2,000	1,564
鮮苔類					41	
植物の合計	4,040,967	2,419	1,314	1,138	2,041	1,564
哺乳類	243	33		7	30	31
鳥類	14,528	290		107	202	220
爬虫類	15	19		6	15	13
両生類	134	17		13	17	15
魚類	4,255	73		39	58	76
昆虫類	1,839,98	4,566		432	3,058	1,448
陸産貝類		111			119	78
クモ類						59
海産貝類						51
淡水産貝類		91		76		15
甲殻類						24

書式変更: 蛍光ペン (なし)

第2章 川西市の生物多様性の現状と課題

その他	208315			71		43
動物の合計	2,412,388	5,242	1,782	675	3,499	2,073
総計	3,422,355	7,661	3,096	1,813	5,540	3,637

2)植物

里山、まち山には良質な木炭を生産するための原木となるクヌギのほか、コナラやアベマキが優占しています。また、日本の桜の中では最も長寿で、樹高は20m以上、幹の直径は1mにもなる**エドヒガン**も見られます。兵庫県内では、自生地が限られる**エドヒガン**は、猪名川上流域、特に川西市北部の里山に多く、今なお人の手が入る生きた里山が残っていること、かつて鉱山として利用されズリ（坑道の採掘時に発生する不要な岩石や鉱物）捨て場が多数あったこと、超丹波帯という岩石の風化が進んだ崩れやすい古い地質が分布していることなど、生育に必要な明るい立地が生じやすい環境にあることが多産の要因と考えられています。また、かつて洪水などのかく乱の影響下で成立していた南部市街地の河岸段丘の林にはエノキが、神の宿る森として大事に守られてきた多太神社、満願寺などの社寺林には、シイやアラカシなどの照葉樹が生育し、里山、まち山とは異なる植物を見ることができます。

一方、棚田周辺に見られる草原には、ススキやチガヤ、ノアザミ、ヤブカンゾウ、アキノタムラソウ、リンドウなどの畦畔特有の植物が生育しています。猪名川の支川である初谷川には兵庫県内でも非常に珍しい**サツキ**が自生するほか、本川の鼓が滝にはユキヤナギが大群生しており、露岩地からなる溪谷に特徴的な植物を見ることができます。



エドヒガン



リンドウ



ユキヤナギ

3)哺乳類

里山やまち山、棚田などの農耕地が分布する市域には、ホンドジカ、イノシシ、ホンドタヌキ、キツネ、ニホンザルなどの大型の哺乳類、ヒミズやコウベモグラ、アカネズミ、カヤネズミなどの小型の哺乳類など、多くの種類が生息しています。また、鉱山として利用されていた里山やまち山には、間歩（まぶ）と呼ばれる鉱物を採掘するための坑道がたくさん分布しており、**コウモリ類**の格好のすみかとなっています。ニュータウンや市街地には家屋をすみかとするアブラコウモリ（別名：イエコウモリ）も見られます。

近年、アライグマやヌートリアなどの特定外来生物の目撃が増えていきます。ホンドジカも生息域を拡大していますが、主に里山に生息しておりまち山で見ることはあまりありません。



アカネズミ



コウモリが生息する間歩

※太字：国版レッドリスト、兵庫県版レッドデータブックに掲載される絶滅危惧種を表します。

4)鳥類

里山やまち山、農耕地周辺では、ハチクマ、トビ、サシバ、フクロウ、アカゲラ、オオルリ、ミソサザイ、エナガ、カッコウ、カケスなど、ニュータウンや市街地では、ヒヨドリ、ムクドリ、スズメ、ハシボソガラス、ドバトなどを見ることができます。

一方、猪名川、知明湖やため池などの水辺では、ミサゴ、アオサギ、カワウ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワセミのほか、マガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、オシドリなどの越冬カモが見られます。



カワセミ

5)両生類

カエル類では、ニホンヒキガエル、タゴガエル、モリアオガエル、シュレーゲルアオガエル、カジカガエルが里山の水辺に生息しています。ニホンアマガエルやトノサマガエルは市域の比較的広い範囲に生息しており、特定外来生物であるウシガエルも見られます。

ほかには、カスミサンショウウオ、アカハライモリが里山、まち山に生息しています。また、国指定の特別天然記念物であるオオサンショウウオが一庫大路次川付近の水路（東畦野）などで確認されています。



カスミサンショウウオ
シュレーゲルアオガエル

6)爬虫類

ニホンイシガメ、ニホンスッポンや外来種であるミシシッピアカミミガメ、アカミミガメなどのカメ類が里山や猪名川などの水辺に生息するほか、タカチホヘビ、シマヘビ、アオダイショウ、ヒバカリ、ヤマカガシ、ニホンマムシなどのヘビ類、ニホンヤモリ、ニホンカナヘビ、ニホントカゲなどのトカゲ類も里山を中心に広く生息しています。



アオダイショウ

※太字：国版レッドリスト、兵庫県版レッドデータブックに掲載される絶滅危惧種を表す表します。

書式変更：蛍光ペン（なし）

7)昆虫類

市域の里山は、昆虫類の多産地です。里山の優占木であるクヌギには、カブトムシや国蝶の**オオムラサキ**が樹液を求めて集まり、アカシジミ、**ウラナミアカシジミ**、オオミドリシジミなどのゼフィルスが産卵に訪れます。クヌギは地上1~2mの高さで主幹を残し、その主幹より生じる枝を伐採するという頭木仕立てで育てられると台場状（台場クヌギ）となり、その大きく太った幹の空洞を**オオクワガタ**の幼虫が好んで利用します。

また、猪名川渓谷ではカワトンボ類、オジロサナエ、ダビドサナエのように山間の溪流に見られる種を見ることができます。猪名川とその支川や棚田には水生のホタルとしてゲンジボタルや**ハイケボタル**が生息しています。その他、陸生のホタルとして**ヒメボタル**が生息しており、知明湖周辺の里山や南部市街地の河岸段丘の林内にて観察することができます。



ヒメボタル

8)魚類

猪名川やその支川にはオイカワやカワムツが生息し、妙見山の源流部では**ナガレホトケドジョウ**を見ることができます。また、棚田に沿って流れる小河川には、**ドジョウ**、カワヨシノボリ、ドンコ、**ダカミナミメダカ**が生息しています。

一方、南部市街地の水路では二枚貝に産卵して繁殖するタナゴ類が生息しています。猪名川水系でこのような場所はほとんどなく、タナゴ類の貴重な生息場となっています。



ナガレホトケドジョウ

9)その他無脊椎動物

貝や甲殻類などの無脊椎動物は黒川などの上流域の小川や水田、ため池で多く見られます。貝類については、ゲンジボタルの幼虫の餌になるカワニナのほか、タニシ、**モノアラガイ**が生息しています。また、ウズムシやサワガニ、ヨコエビ、ヌマエビなどの甲殻類、トンボ類のヤゴ（幼虫）なども見ることができます。



サワガニ

※太字：国版レッドリスト、兵庫県版レッドデータブックに掲載される絶滅危惧種を表します。

10)問題をおこす生物

①外来生物

外来生物の侵入は、地域の生物多様性に悪影響を及ぼすばかりか、人間活動にも好ましくない影響を与える可能性があります。このため、地域固有の生物多様性を保全し、人の生命・身体または農林水産業への被害を防止するため、「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」が2005年6月より施行されています。この法律により、「特定外来生物」に指定された生物については、飼養、栽培、運搬、輸入、譲渡などが禁止されるとともに、すでに侵入した「特定外来生物」の防除が進められるようになりました。

市域で確認されている特定外来生物としては、**外来アソラ、ナガエツルノゲイトウ、アレチウリ、オオカワチシャ**などの植物のほか、**ヌートリア、アライグマ、ソウシチョウ、ウシガエル、カダヤシ、ブルーギル、オオクチバス**などの動物があげられます。**セアカゴケグモ、ヒアリ、クビアカツヤカミキリ**などの昆虫があげられます。**2023年6月からはアカミミガメやアメリカザリガニも**が特定外来生物に追加されました。

アライグマ、ヌートリアについては、近年目撃数が増加しており、それに伴い農作物への被害が多数報告されています。**また、クビアカツヤカミキリは兵庫県内でも発見されており、今後サクラやモモへの被害の拡大が懸念されます。**



アレチウリ



オオクチバス

コメントの追加 [菊池4]: 素案作成後部会に諮る(市)

②在来生物

在来生物についても、生物多様性に悪影響を与えているものがあります。里山を利用しなくなったことなどにより増えたホンドリカは、県内に**43万5千頭-15万9千頭**もが生息していると推定されています(2014-2021年4月3日時点)。市域北部の里山においては生息密度が高く、山林の林床に生える植物を食い荒らし、林床植生の衰退、種多様性の低下が問題となっています。また、カシノナガキクイムシによるナラ枯れが妙見山の一角で確認されています。被害量が增大しており、状況を調査しながら対策を講じていくことが重要です。一方、秋の七草であるクズも、その旺盛な繁殖力により純群落をつくり、ほかの在来種を追いやるのが稀ではありません。

これら在来生物の問題は、いずれも人間の自然への働きかけの縮小による生物多様性の危機(第2の危機)に付随して生じている現象と考えられています。



ホンドリカ



クズ

(4)川西市の特産品・文化

1)農産物(イチジク、クリ、モモ)

①イチジク

川西市のイチジクの歴史は、昭和初期、広島県の榊井光次郎氏がアメリカから帰国する際、フランス人の友人からもらった北米原産のドーフィン種を持ち帰り、果樹地帯であった川西市に注目し、萩原に住んでいた友人の前川友吉氏と当地での栽培に成功。榊井ドーフィンという品種を作り出し、神戸、和歌山や愛知へと栽培が広がりました。

現在、榊井ドーフィン種は国内のイチジクの大部分を占めるようになり、韓国など海外へも広がっています。川西市の出荷量は神戸市に次ぎ県内2位で、現在では市内の南部地域の久代、東久代、下加茂、加茂、栄根、小戸、出在家、萩原などで約13ヘクタール、約120戸の農家で栽培され、年間約400トンが出荷されています。

コメントの追加 [菊池5]: 素案作成後関係課に確認 (市)

②クリ

北摂栗は、川西市のほか宝塚市、猪名川町の特産品で、千年の歴史があると言われています。

市内では中・北部の多田、東谷地区、黒川地区などでは有名な銀寄(ぎんよせ)のほか乙宗(おとむね)という川西生まれの品種や筑波などの品種が栽培されており、9月下旬から10月中旬まで大阪などの阪神間に出荷されています。

③モモ

川西市のモモは、市南部の加茂地区などで栽培され、通常7月頃に採れるモモよりも一月早く収穫できる早生(わせ)モモで、兵庫県下でもこれを作っているのは川西市だけとあって、阪神間の市場でも大変人気があります。また、現在では、自家授粉する品種に変わっていますが、以前は、モモの交配は人の手で行われており、4月頃には先端に布を巻き付けた棒を使って花粉をメシベに付ける作業があちこのモモ畑で見られました。



図7 川西市の特産品の生産地

コメントの追加 [菊池6]: 図の差し替え
 ・山地の範囲の囲みの色を種類ごとに分ける
 ・円の範囲の修正→素案作成後関係課に確認

2) 茶道文化と菊炭・台場クヌギ

川西市北部の里山が日本一と言われる理由は、今も炭が作られており利用され、美しいモザイク的な景観が見られるからです。ここで生産される炭は、菊炭（一庫炭・池田炭）と呼ばれる高級な茶道用の道具炭です。この炭の歴史は古く、鎌倉時代にはすでに作られていたという記録が残り、また豊臣秀吉や千利休が愛用したとして全国的に名を馳せたとされています。

今は黒川のみで焼かれています、かつてはあちこちで焼かれていたようです。その名残が台場クヌギです。良質な菊炭の原木となるクヌギは各地で植栽され、何度も伐採、利用が繰り返されるうちに、堂々とそびえる台場クヌギになりました。台場に仕立てる理由は、伐採後に再生してくる新芽をシカに食べられないようにするため、高い位置で伐採するとよく萌芽するなどの理由がありますが、詳しくはわかりません。なお、この台場クヌギが生育する川西市の里山にはクワガタムシやカブトムシをはじめとする多くの昆虫類が生息し、昆虫採集のメッカとしても知られています。

このように、人と文化そして生物多様性がつながっている場所は全国的にも非常に珍しい場所であると言えます。

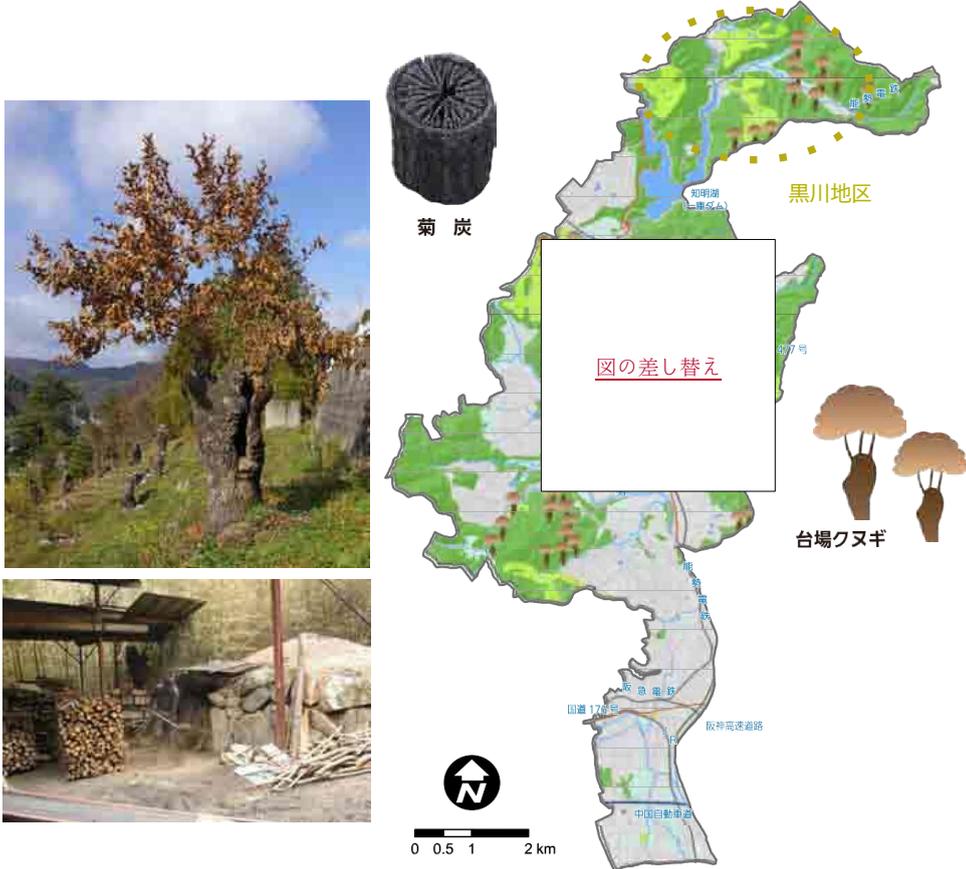


図8 菊炭の生産地と台場クヌギの分布

3. 自然環境保全における取り組み

(1) 行政の代表的な取り組み

1) 基本計画の作成

川西市においては、2002年の緑にみどりの基本計画が作成されています。それにより、川西市内の緑地の質を分類し（環境保全系統、景観構成系統、レクリエーション系統、防災系統）、それらの配置計画について提案しています。そして、緑と水のネットワーク化、緑地の保全と緑化推進のための施策をまとめています。

また、20062024年に施行された川西市環境基本条例に基づき、2007年に第3次川西市環境基本計画がまとめられています。その中では、地球環境、自然環境、都市・生活環境、歴史的・文化的環境、地球環境行動ごとに目標を設定し、環境配慮指針の推進、環境教育の普及、市民活動の支援などの方策がまとめられています。

2) 具体的な取り組み

上位計画などを踏まえ、具体的な事業が進められています。近年の代表的な事業として、下記の事業があります。

① 里山体験学習事業

◇実施概要：兵庫県では、小学校3年次に環境体験学習、5年次に自然学校として環境教育が行われています。川西市内ではこれらに加え、全小学校4年次に「里山体験学習」を独自に行っています。これは北部の日本一の里山をフィールドに、地域での体験学習（下草刈り、木工クラフトなど）や地域住民とのふれあい（講話やしめ縄作りなど）を通して、自然に対する敬意の念・生命のつながり・環境保護の大切さを実感するとともに川西の持つ豊かさ（ひと・歴史・文化・自然など）にふれあうことを目的としています。

◇成果：2008年度から実施していますが、最近では1～3年生の児童から参加を楽しみにする声があるなど、里山体験学習が各校の教育課程・児童の意識に定着してきています。

② 森林林業振興事業

◇実施概要：森林の保全に向けた森林ボランティアの育成支援として、ボランティアグループの活動に対する助成金の交付や、兵庫みどり公社の補助事業を活用した住民参画による里山林整備活動が承認された団体との協定（5年間）と活動に対する補助金などを交付しています。

◇成果：2011、2012年度では、黒川周辺や国崎クリーンセンターで活動する2つの森林ボランティアグループに対し助成金が交付されました。2024年6月からは黒川里山センターの稼働が予定されています。

コメントの追加 [菊池7]: 助成金の交付について令和4年度の状況に更新→素案作成後関係課に確認(市)

③ 知明湖活用推進事業

◇実施概要：知明湖周辺の国崎せせらぎ地区、龍化溪流地区、出合なぎさ地区を対象に、トイレや緑地施設の維持管理を実施しています。

- ◇成果：知明湖周辺の良好な環境を維持し、また施設の適切な管理により、そこを訪問した市民に良い印象を与え、川西市の恵まれた自然環境のPRに役立っています。

(2)市民団体の取り組み

川西市では各地でボランティア団体などが環境保全に取り組んでいます。特に北部の日本一の里山や菊炭（一庫炭・池田炭）を守るための森林ボランティアの活動は活発です。「菊炭友の会」、「川西里山クラブ」、「NPO 法人 ひよご森の倶楽部」、「NPO 法人 北摂里山文化保存会」など多くの団体が下刈り、間伐や炭焼きなどによる里山の維持管理の活動を行っています。また群生するエドヒガンの保全活動も活発であり、特に市の天然記念物である水明台のエドヒガン群生地では「溪のサクラを守る会」が森林整備などを行っています。ほかにも多太神社の神社林の保全（「多太神社の森を守る会」）、清和台のニュータウンにある残存林（まち山）の保全（「虫生川周辺の自然を守る会」）、加茂の段丘崖の森林に生息するヒメボタルの保全（「川西自然教室」）や猪名川流域のクリーン作戦や外来植物対策（「流域ネット猪名川」）などの活動があります。兵庫県立一庫公園内では「ひとくらクラブ」、「ひとくら森のクラブ」が活動を行っており、里山保全活動のほか、菊炭の炭焼き技術などの里山文化技術を伝える活動を行っています。能勢妙見山では、「能勢妙見山ブナ守の会」がブナ林の整備や植樹を行っています。

また、群生するエドヒガンの保全活動も活発であり、特に市の天然記念物である水明台のエドヒガン群生地では「溪のサクラを守る会」が、国崎クリーンセンター敷地内では「ゆめぼたるクラブ」が森林整備などを行っています。

さらに武庫川や猪名川の流域では、「流域ネット猪名川」、「身近な自然とまちを考える会」、「NPO 法人 野生生物を調査研究する会」が河川の清掃や生物の調査・保全、外来植物対策などの活動を行っています。

ほかにも、大和の森の整備（「大和フォレストクラブ」）、東多田の里山の整備・再生（「東多田里山の会」）、清和台のニュータウンにある残存林（まち山）とシロバナウンゼンツツジの保全（「虫生川周辺の自然を守る会」）、加茂の段丘崖の森林に生息するヒメボタルの保全（「川西自然教室」）などの活動があります。

このように、川西市では市民団体による環境保全活動が活発である一方で、各団体とも高齢化や後継者不足が問題となっています。

コメントの追加 [菊池8]: 環境大臣賞 コラム (案)
検討

図の改訂

図9 市民団体の活動状況

コメントの追加 [菊池9]: 図の差し替え
全体の活動地をプロットで示す。
多太神社の森を守る会の削除

第2章 川西市の生物多様性の現状と課題

川西市の自然関係市民団体の特性

1 多数の市民団体・・・17団体

2 地域景観・自然の保全

3 活動の場の広さ

(里山、ブナ林、里山放置林、猪名川)

4 自己の学習から学校教育への支援

5 生物多様性保全（オオムラサキ、ヒメボタル）

6 温暖化、CO₂、SDGs



溪の桜を守る会における環境体験学習(則久氏提供)



東多田里山の会の活動地(逸見氏提供)



虫生川周辺の自然を守る会の活動地(菅原氏提供)



大和フォレストクラブの活動地(井浦氏提供)



一庫炭(池田炭)・菊炭

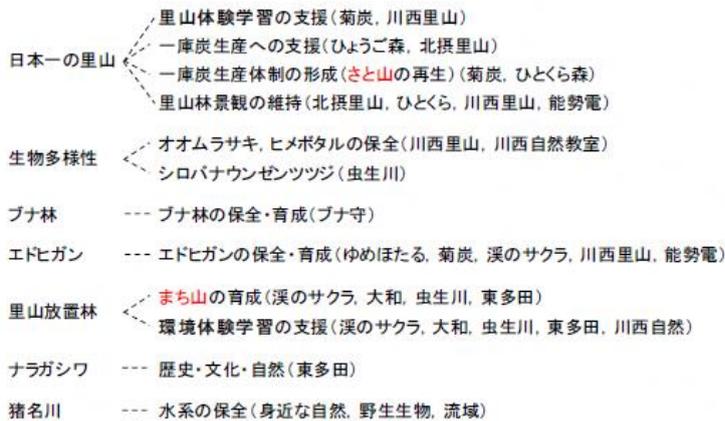


図 川西市の事前自然と市民団体の関係

(3)事業者の取り組み

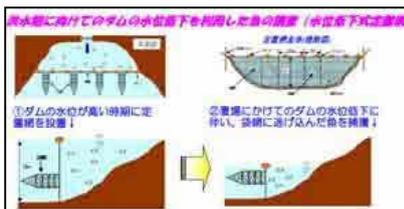
1)猪名川河川事務所の外来植物対策取り組み

国土交通省近畿地方整備局猪名川河川事務所では、2009年より河川敷の外来種対策を市民と共同で実施しています。川西市域では東久代運動公園の河川敷などで、特定外来生物であるアレチウリのほか、アレチハナガサなどを対象に抜き取り対策を実施しています。に「淀川水系猪名川自然再生計画書」を策定し、「かつて猪名川に存在した“多様な生物がすむ身近な”河川環境の回復」を目標として、河原・水陸移行帯の再生、縦断連続性の回復（横断工作物への簡易魚道設置）等の事業を行っています。また、その河川敷は河原を再生させ、在来植物の生育を促すための河川工事も実施されました外来植物対策では、東久代公園付近の河川敷などで市民団体等との共同により特定外来生物アレチウリの駆除活動を実施しています。



2)一庫ダムの外来魚対策

知明湖を管理する独立行政法人水資源機構一庫ダム管理所では、定期的な自然環境調査やダムに生息する特定外来生物のブラックバス、ブルーギルの対策を実施しています。2005年から2022年にかけてダムの水位変動を利用したアイデアで、たくさんのブラックバスとブルーギルを捕獲しました。



3)兵庫県立一庫公園の取り組み

一庫公園では、ボランティアと協働生物多様性ひとくらパーク戦略により公園内に基づき、緑の保全、クヌギ林、ヤエドヒガン、貴重植物など群落の現況調査や保全・再生、間歩跡〔坑道〕の活用、野生動物への対策を実施して、動植物の希少種の保全等に取り組んでいます。また、インストラクターの養成を進め、フィールドを活かした自然学習の場、人と自然の出会い・憩いの場として、住民活動グループや関係機関との協働で、炭焼き体験塾や自然環境教育などを進めて体験学習、さらに展示やビジュア機能の充実など、子育て支援や生涯学習に資する活動や整備に努めています。2011年には、生物多様性ひとくらパーク戦略をとりまとめ、公園として実施すべき生物多様性保全に向けた行動計画を作成しています。





天然記念物のエドヒガンや間歩跡



小学校里山体験活動から

4)国崎クリーンセンターの活動

国崎クリーンセンターでは、稼動する以前から猪名川上流広域ごみ処理施設環境保全委員会を組織し、影響評価を行うとともに、[エドヒガン](#)、ヒメボタルなどの貴重な種や、シカ柵を設置して里山環境の保全対策を進めています。また、[2012年にはエドヒガンが群生する里山を中心とした保全対策を進める生物多様性国崎クリーンセンター戦略が作成されました](#)[川西市天然記念物に指定されているエドヒガン群落の保護やシカの不嗜好植物の試験植栽等を地域のボランティアの方達と一緒に取り組んでいます。](#)



5)企業

■能勢電鉄株式会社

市街地から日本一の里山のある妙見口まで営業運転しており、里山ハイキングなどのイベントを積極的に行っています。また、妙見山麓にある社有地に存在する台場クヌギ林が、2013年度の林業遺産に選定されました「日本森林学会 林業遺産」に選定されました。また、また、2017年5月には市天然記念物に指定されました。なお、それに先がけて2011年9月にエドヒガン(桜)群落が生天然記念物に指定されています。



■ダイハツ工業株式会社(多田エンジニアリングセンター)

私たちは、自然を守り、次世代へ継承するために事業活動全般にわたり環境保全活動に努めています。一例として、敷地内には、ビオトープ(地域の野生生物の生息空間)を整備し、社員の環境マインドの醸成に役立て、地域の環境保全活動への参加促進に繋げています。また、多くの社員が毎年グリーンカーテン活動を通じてゴーヤを育て、食することで自然環境を身近に感じつつ働けることの喜びを共有しています。



■株式会社竹中工務店(研修センター)

2017年から環境方針や生物多様性活動指針を具現化する竹中生物多様性促進プログラムの一として「清和台の森づくり」活動を開始しました。「清和台の森づくり」は、生態系・生物多様性保全のモデルをつくり、実践する活動で、①従業員主導による整備・保全活動、②体験型研修、③研究開発・環境技術発信、④ステークホルダーとの連携・協働という4つの活動を行います。これらの活動を進めるにあたり、外部専門家として「兵庫県立人と自然の博物館」の協力を得て、「清和台の森」を日の光の入らない常緑樹林から、落葉樹を中心とした明るく生物多様性保全の高い里山林への転換を図っています。活動の開始にあたっては、まず、長年手つかずであった森の整備に着手し、侵略的外来種の伐採を行い、森づくり活動の拠点となる「フィールドセンター」や「自然観察路」の整備を行い、2018年からは、②体験型研修を本格的に始動させています。(北摂地域にある竹中研修所内での取り組みとして紹介します。)



フィールドセンター



自然観察路

■黒田電気株式会社・株式会社チュチュアンナ・アサヒビール株式会社

兵庫県の進める企業の森事業に参画し、黒川付近の里山を「黒田電気の森」、「チュチュアンナの森」として整備を進め、社員活動などに利用しています。また、アサヒビール株式会社による等々力川沿いの森づくりにも参画しています。「黒田電気の森」



4. 市民の意識～アンケート調査より～

(1) アンケート調査の実施概要

1) 実施目的

生物多様性や川西市の自然環境についての市民の認識度、意識の情報を収集し、「生物多様性ふるさと川西戦略」の保全対象、目標設置や行動計画に活用する目的で実施しました。

2) 実施時期、方法

① ~~年齢層や居住地の偏りをなくすため、10才代、20才代、30才代、40才代、50才代、60才以上の6階層から男女それぞれ100人(合計1200)対象~~

市民：川西市にお住まいの1,200名を無作為に抽出し、アンケートを送付しました。

事業者：川西市商工会会員を中心に、100社を無作為に抽出し、アンケートを送付しました。

小学生：川西市内の公立小学校に通う6年生277名を対象に、学校を通じてアンケートを配布しました。

② 実施時期

発送：2014年4月30日

・回収：2014年5月31日までに返送を依頼 2023年1月

③回収方法

紙媒体による郵送での回答のほか、URL や2次元コードからの WEB 回答により回答いただきました。

3)回収結果

期限までの回答数は ~~430 通あり、回収率は 35.8~~、市民 359 通、事業者 35 通、小学生 238 通の合計 639 通でした。回収率は、市民 29.9%、事業者 35.0%、小学生 85.9%で、全体では 40.0%となりました。

表4 回収結果

	市民	事業者	小学生	合計
送付数	1,200 通	100 通	277 通	1,577 通
回収数	359 通	35 通	238 通	632 通
回収率	29.9%	35.0%	85.9%	40.0%

(2)アンケート調査結果

1)回答者の属性(市民、事業者)

市民アンケート回答者の性別と年齢構成は表5のとおり、表のとおりです。また、図10に示したように、居住地域としてニュータウン○○ニュータウン地域からの回答が多く60%を超えて、49.00%となっており、次いで市街地○○地域、里山○○地域とできてなっています。事業所所在地としては市街地○○地域が44.7%で最も多く、次いでニュータウン○地域、里山○○地域となっています。小学校所在地としては、68.2%がニュータウン地域、34.8%が市街地地域、里山地域でありましたとなっています。なお、地域区分は後述するように、北部(里山地域)・中部(ニュータウン地域)・南部(市街地地域)の3つに分類しました第3次川西市環境基本計画における地域区分に従いました。

表 市民アンケート回答者の年齢構成

区分	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	無回答・無効	合計
人数	10	27	42	62	66	147	5	359
割合	2.8%	7.5%	11.7%	17.3%	18.4%	40.9%	1.4%	100%

グラフ：地域割合
市民・事業者

- 書式変更：フォント：10 pt
- 書式変更：中央揃え，行間：固定値 12 pt
- 書式変更：フォント：10 pt

2)生物多様性に関する知識

■設問1:「生物多様性」という言葉についての認識の認知度（対象:市民、事業者）

◇選択：「言葉も意味も知っている」、「言葉は聞いた」、「意味は知らないが、聞いたことがあるはあった」、「知らなかった」の三択・聞いたこともなかったから1つを選択。

◇結果（図44）：市民全体での認知度は、言葉のみと意味を合わせて51%と約半数77.7%でした。年齢別では、30～50年代から10代から30代、50代で80%を超えています。前回アンケートと比較すると、全体、年代別ともにおおむね20%程度増加しています。事業者全体での認知度が低く60才以上で認知度は65%の方が知っていました。20才代の言葉のみと意味も知っている方が34%と高いことも特筆できますを合わせて71.4%でした。

◇戦略作成上の留意点：10代、20代の若い世代に対する継続的な情報の提供や、他の年代比べて認知度の低い40代、60代以上の世代に対する啓発を行うなど、引き続き生物多様性の認知度を高めていく必要があります。10才代、20才代への継続的な情報の提供や、30～50才代への啓発を行う必要があります。

グラフ：生物多様性の認知度
市民（全体、年代別）・事業者

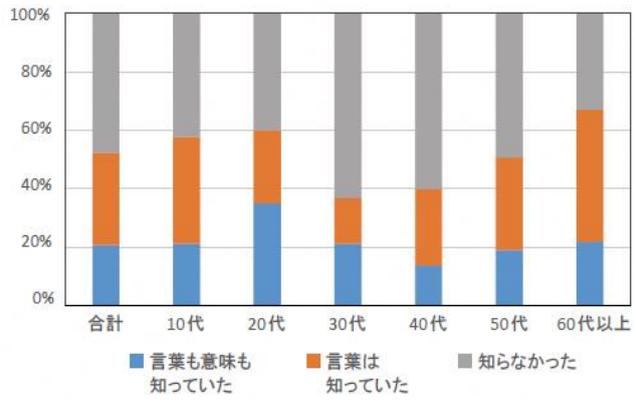


図 前回アンケート

3)川西市の自然環境などに対する認識

■設問2:「生物多様性ふるさと川西戦略」の認知度（対象:市民、事業者）

◇選択：「言葉も内容も知っていた」、「内容は知らないが、聞いたことはあった」、「知らなかった・聞いたこともなかった」から1つを選択。

◇結果：市民全体での認知度は、言葉のみと内容を合わせて 28.4%でした。年齢別では、20代、30代、40代、50代、60代以上で全体の認知度を超えています。事業者全体での認知度は言葉のみと内容を合わせて 31.4%でした。

◇戦略作成上の留意点：全体、年代別ともに認知度が 30%程度と低いため、本戦略が川西市の生物多様性保全の指針であることをアピールするなど、認知度を高める必要があります。

グラフ：戦略の認知度
市民（全体、年代別）・事業者

■設問3:川西市における特徴的な自然などの認識認知度（対象:市民）

◇選択：下記の16の特徴的な自然などについて、知っているものをすべて選択。

- 【里山・里地】日本一の里山、妙見山のブナ、棚田（赤松・笹部）
- 【自然の森林】エノキ林、社寺林
- 【河川・水辺】初谷川、猪名川溪谷、鼓が滝、川西北小学校前の水路
- 【シンボル（自然）】エドヒガン、台場クヌギ、ヒメボタル
- 【シンボル（農産業）】イチジク、クリ（銀寄）、モモ、一庫炭

◇結果：市民全体では、前回アンケート同様、イチジクの認知度が最も高くなっていました。また、猪名川溪谷や日本一の里山の認知度が上がっていました。一方、台場クヌギや初谷川、水路、エノキ林などの認知度が依然として低い傾向にありました。年齢別では、10代から50代でエドヒガンの認知度の順位が上がっていました。また、10代、30代では台場クヌギの認知度の順位も上がっていました。

◇戦略作成上の留意点：認知度の低い内容については、日本一の里山や一庫炭と関連付けて台場クヌギの情報を広めていくなど、認知度の高いものと組み合わせて情報を提供する必要があります。

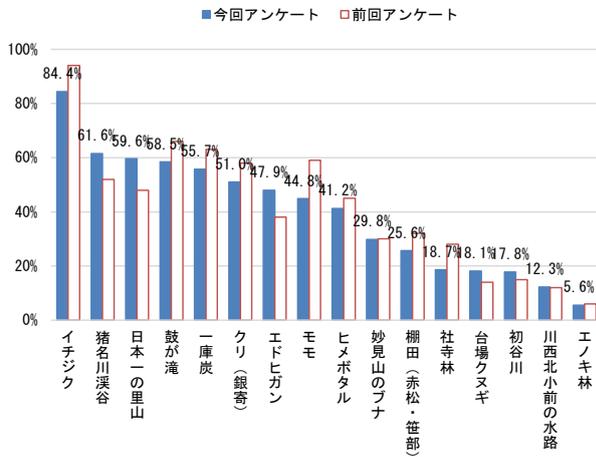


図 川西市の自然環境などに関する認知度

書式変更：フォント：（英）BIZ UDPゴシック、（日）BIZ UDPゴシック
 書式変更：中央揃え
 書式変更：フォント：（英）BIZ UDPゴシック、（日）BIZ UDPゴシック

表 年代別の認知度

順位	世代					
	10代	20代	30代	40代	50代	60代
1.	イチシク	イチシク	イチシク	イチシク	イチシク	イチシク
2.	日本一の里山	猪名川渓谷	鼓が滝	日本一の里山	クリ	猪名川渓谷
3.	一庫炭	日本一の里山	猪名川渓谷	鼓が滝	猪名川渓谷	鼓が滝
4.	鼓が滝	一庫炭	日本一の里山	一庫炭	鼓が滝	一庫炭
5.	ヒメポタル	鼓が滝	ヒメポタル	猪名川渓谷	一庫炭	日本一の里山
6.	猪名川渓谷	クリ	一庫炭	ヒメポタル	日本一の里山	クリ
7.	エドヒガン	モモ	エドヒガン	エドヒガン	エドヒガン	モモ
8.	台場クヌギ	エドヒガン	妙見山のブナ	クリ	ヒメポタル	エドヒガン
9.	モモ	ヒメポタル	クリ	モモ	モモ	ヒメポタル
10.	妙見山のブナ	棚田	モモ	妙見山のブナ	棚田	妙見山のブナ
11.	クリ	妙見山のブナ	台場クヌギ	棚田	妙見山のブナ	棚田
12.	初谷川	初谷川	棚田	初谷川	社寺林	社寺林
13.	棚田	台場クヌギ	初谷川	台場クヌギ	水路	初谷川
14.	水路	社寺林	水路	社寺林	台場クヌギ	台場クヌギ
15.	エノキ林	エノキ林	社寺林	エノキ林	初谷川	水路
16.	社寺林	水路	エノキ林	水路	エノキ林	エノキ林

凡例： 地域の農産物 里山系 台場クヌギ エドヒガン ヒメポタル

書式変更 ...

書式変更 ...

書式変更: 中央揃え

書式変更: フォント: 10 pt

書式変更: 中央揃え, 行間: 固定値 12 pt

表の書式変更

書式変更: フォント: 10 pt

書式変更 ...

書式変更 ...

書式変更 ...

書式変更 ...

書式変更 ...

書式変更 ...

書式変更: 中央揃え, 行間: 固定値 12 pt

書式変更: フォント: 10 pt

書式変更 ...

書式変更 ...

書式変更 ...

書式変更 ...

書式変更 ...

書式変更 ...

書式変更: 中央揃え, 行間: 固定値 12 pt

書式変更: フォント: 10 pt

書式変更 ...

書式変更 ...

書式変更 ...

書式変更 ...

書式変更 ...

書式変更 ...

書式変更: 中央揃え, 行間: 固定値 12 pt

書式変更: フォント: 10 pt

書式変更 ...

書式変更 ...

書式変更 ...

書式変更 ...

書式変更 ...

書式変更 ...

書式変更: 中央揃え

書式変更 ...

書式変更 ...

書式変更 ...

書式変更 ...

書式変更 ...

書式変更 ...

書式変更: 中央揃え

書式変更 ...

書式変更 ...

4)残したい自然のに対する意識

■設問4:今後川西市で残したい自然 (対象:市民、事業者、小学生)

◇選択：下記の9→10の選択肢から、「3つ」を選択して回答。

1. 昆虫採集やハイキングが楽しめる里山（雑木林）
2. 草花遊びができる畦や草原
3. イチジク、クリ、モモなど特産品がつくられている果樹園
4. 地元産の野菜や米が採れる農地
5. カエルやメダカのすむ田んぼや池
6. 水がきれいで生きもの豊かな水辺（猪名川・溪流・水路）
7. 緑が多く、生きものがたくさんすむ公園
8. 落ち着いたきのある神社などの森
9. 特にない
10. その他

◇結果：市民全体、小学生全体では、水がきれいで生きもの豊かな水辺の保全意識が高い傾向にありました。事業者全体では、昆虫採集やハイキングが楽しめる里山の保全意識が高い傾向にありました。また、~~.....~~居住地域別ではみると、里山地域では農地、ニュータウン地域では水辺、市街地地域では果樹園の保全意識が市民、事業者とも高い傾向にありました.....。事業者全体では、~~.....~~。事業所所在地域別では、~~.....~~。小学生全体では、~~.....~~。

◇戦略作成上の留意点：田んぼや池、草原、公園、社寺林などポイントの低かった要素の生態系上の重要性、他の環境や人とのつながり、生物多様性の面白さ（構成種など）の情報を伝えていく必要があります。

グラフ 設問 4

5) 悪くなってきた自然環境

■設問5: 逆に過去よりも悪くなり、元に戻すべき自然や場所の記述(自由記載記述) (対象: 市民)

◇結果: 97人79件の回答がありました。大きく分けて、河川(主に猪名川)河川(主に猪名川、最明寺川)の環境の悪化、住宅地周辺の環境の悪化、森林(里山や竹林)田畑の悪化減少や減少、田畑の減少悪化の意見が目立ちました。また抽象的ではありますが環境全般に対する荒廃の意見がありました。一方で少数ではありますが、改善されている、良くなった場所もあるといった意見が寄せられました。

回答の内容

内容	件数
河川(猪名川、最明寺川、初谷川、水路、河川敷)	22件
森林(舎羅林山、その他の森林)	7件
田畑(東畦野の田、赤松・笹部の棚田、イチジク園、モモ園)	15件
住宅地内(住宅地、公園、道路、街路樹)	18件
環境全般	3件
工事に対する不満	6件
その他	8件

◇戦略作成上の留意点: 河川・水辺に対して多くの意見が寄せられ、特に水質の悪化やごみの散乱に関する意見が多くみられました。環境の悪化は、生物多様性を脅かす一因であることから、意見を寄せられた場所や環境での対策を検討していく必要があります。

6) 生物多様性に係る行動

■設問6: 生物多様性保全に対する行動(対象: 市民)

◇選択: 下記の447つの行動事例について、「常に意識して行動している」、「時々行動している」、「行動していない」から1つを回答選択。

1. 地域の公園などの清掃活動へ参加している
 2. 飼っていた生きものを野外に逃がしたり、捨てたりしない
 3. ベランダや庭に鳥やチョウが好む植物を植える
 4. 学校や職場などの*ビオトープづくりに関わる
 5. ハイキングや自然観察会などに出かける
 6. 里山や水辺で生きものや自然環境を保全する活動へ参加する
 7. 公共交通機関(鉄道、バス)を利用する
- *ビオトープ(Biotope): 「生きもの(Bio)」が生息する「環境・空間(Tope)」という意味です。具体的には、ため池、湿地、草原、里山などの場所であり、生きものを呼び込むために人工的に作り出したものをいいます。

書式変更: フォント: 10 pt

書式変更: 中央揃え, 行間: 固定値 15 pt

表の書式変更

書式変更: フォント: (英) HG丸ゴシックM-PRO, (日) HG丸ゴシックM-PRO, 10 pt

書式変更: 右揃え, 行間: 固定値 15 pt

書式変更: フォント: (英) HG丸ゴシックM-PRO, (日) HG丸ゴシックM-PRO, 10 pt

書式変更: フォント: 10 pt

書式変更: 行間: 固定値 15 pt

書式変更: フォント: 10 pt

書式変更: フォント: (英) HG丸ゴシックM-PRO, (日) HG丸ゴシックM-PRO, 10 pt

書式変更: フォント: (英) HG丸ゴシックM-PRO, (日) HG丸ゴシックM-PRO, 10 pt

書式変更: 行間: 固定値 15 pt

書式変更: フォント: 10 pt

書式変更: 右揃え, 行間: 固定値 15 pt

書式変更: フォント: (英) HG丸ゴシックM-PRO, (日) HG丸ゴシックM-PRO, 10 pt

書式変更: フォント: 10 pt

書式変更: 行間: 固定値 15 pt

書式変更: フォント: 10 pt

書式変更: 右揃え, 行間: 固定値 15 pt

書式変更: フォント: (英) HG丸ゴシックM-PRO, (日) HG丸ゴシックM-PRO, 10 pt

書式変更: 行間: 固定値 15 pt

書式変更: フォント: 10 pt

書式変更

書式変更: 右揃え, 行間: 固定値 15 pt

書式変更

書式変更: フォント: 10 pt

書式変更

書式変更: 行間: 固定値 15 pt

書式変更: フォント: 10 pt

書式変更

書式変更: 右揃え, 行間: 固定値 15 pt

書式変更: フォント: 10 pt

書式変更

書式変更: 行間: 固定値 15 pt

書式変更: フォント: 10 pt

書式変更

書式変更: 右揃え, 行間: 固定値 15 pt

書式変更: フォント: 10 pt

書式変更

書式変更: 行間: 固定値 15 pt

書式変更: フォント: 10 pt

書式変更

書式変更: 右揃え, 行間: 固定値 15 pt

書式変更: フォント: 10 pt

◇結果：公共交通機関（鉄道、バス）を利用する、飼っていた生きものを野外に逃がしたり、捨てたりしないといった個人で行動しやすい内容の取り組み率が高い傾向にありました。

◇戦略作成上の留意点：ピオトープづくりや自然環境保全活動など、個人で取り組みにくい活動については、市民環境団体や川西市からの情報の提供や活動機会の創出など、行動を促していく必要があります。行動の継続や発展を促すため、上記の日常の行動が、生物多様性を守っている意義や効果に関する情報を提供することが考えられます。

グラフ 設問6

■設問7:保全活動や学習会への参加経験や意志 (対象:市民、小学生)

◇選択: 各種の保全活動や学習会に、「よく参加している」、「参加したことがある」、「参加したことはないが、今後は、参加してみたいと思っている」「特に興味はない」より4つから1つを選択。

◇結果: 市民全体では、よく参加している人、参加したことがある人を合わせると約19%でした。年代別で見ると、10代や40代、50代で参加経験がある人の割合が高い傾向にありました。小学生全体では、よく参加している人、参加したことがある人を合わせると約26%であり、里山体験学習等による成果がうかがえました。

◇戦略作成上の留意点: 市民、小学生とも活動への参加意思がある人が30%前後を占めています。参加にあたり課題となっていることを解消することで、活動に参画する人を増やすことができると考えられます。

グラフ 設問7

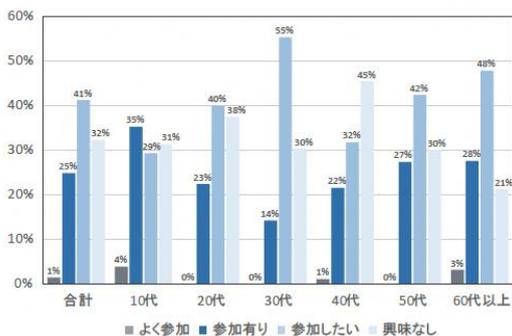


図 前回アンケート

■設問8:情報発信方法のアイデア参加している・参加したい活動 (対象:市民、小学生)

書式変更: フォント: (英) BIZ UDPゴシック, (日) BIZ UDPゴシック
 書式変更: 中央揃え
 書式変更: フォント: (英) BIZ UDPゴシック, (日) BIZ UDPゴシック

第2章 川西市の生物多様性の現状と課題

◇選択：設問7で「よく参加している」、「参加したことがある」、「参加したことはないが、今後は、参加してみたいと思っている」~~「特に興味はない」~~を選択した場合、下記の7つの選択肢からあてはまるものすべてを選択。

•河川清掃	•地域の緑地・公園清掃	•自然観察会	•農業体験
•里山活動体験（里山整備、植樹等）	•生物多様性の学習会		
•その他			

◇結果：市民全体、~~では小学生全体とともに、~~~~地域の緑地・公園清掃、自然観察会への参加意欲が高い傾向にありました。~~年代別で見ると、~~20代の農業体験への参加意欲が特に高い傾向にありました。~~小学生全体では~~。~~

~~情報の発信方法については、川西市の広報、ホームページ、チラシ（学校・公民館）の順で支持が多かったです。年代別で見ると、10才代は学校の手ラシを希望する意見が多かったのが特筆されます。なお、その他の意見として、自治会の回覧板や電車や駅のポスターで広報するといったアイデアが多く見られました。変わったアイデアとして、川西市でFacebookを作る、アステ川西の大画面ディスプレイで広報する、兵庫県立人と自然の博物館や大阪市立自然史博物館、スーパーに広告を置くなどがありました。~~

◇戦略作成上の留意点：~~身近な場所の清掃や自然観察会など参加意欲の高い活動を通して、生物多様性保全への関心を高めていくことが有効と考えられます。川西市の広報、ホームページを中心に、できるだけ多くの媒体を通して広報する必要があると考えられます。~~

グラフ 設問8

■設問9:参加している・参加したい活動を知った情報源 (対象:市民、小学生)

◇選択：設問7で「よく参加している」、「参加したことがある」、「参加したことはないが、今後は、参加してみたいと思っている」~~「特に興味はない」~~を選択した場合、下記の6つの選択肢からあてはまるものすべてを選択。

- | | | |
|-----------|-------------|------------|
| ・広報かわにし | ・川西市のホームページ | ・川西市公式 SNS |
| ・チラシ(公民館) | ・チラシ(学校) | |
| ・その他 | | |

◇結果：市民全体では、~~ホームページ~~から情報を入手している人が最も多い結果でした。年代別で見ると、~~若い世代~~では公式 SNS、高齢の世代では広報かわにしを情報源として利用している傾向が見られました。小学生全体では、~~チラシ~~やホームページから情報を入手している人が多い傾向にありました。

◇戦略作成上の留意点：ホームページや広報、SNS を中心に、多くの媒体を通して広報するとともに内容の充実を図る必要があります。また、小学生に対しては引き続き、学校を通して情報を提供していく必要があります。

グラフ 設問9



■設問 10:事業者で行っている環境教育・環境学習 (対象:事業者)

1)環境教育・環境学習の取組状況

◇選択:「定期的に取り組んでいる」、「取り組んではいるが、不定期である」、「今は取り組んでおらず、今後も予定なし」、「今は取り組んでいないが、今後は予定あり」から1つを選択。

◇結果:定期的に取り組んでいる事業者と不定期ながら取り組んでいる事業者を合わせると約43%でした。一方で、今後も取り組む予定のない事業者が40%でした。

◇戦略作成上の留意点:事業者が環境教育などに取り組みやすくなるよう、ソフト面、ハード面の支援が必要です。



図 環境教育・環境学習の取組み状況

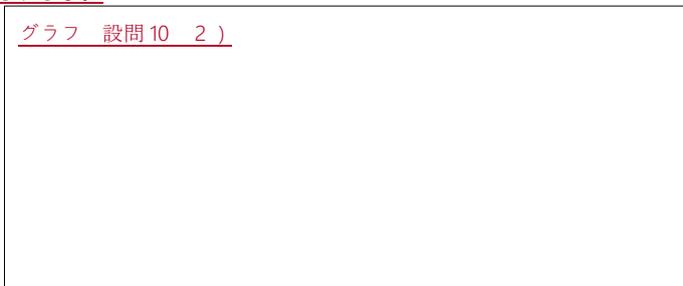
2)環境教育・環境学習の実施対象

◇選択:1)で「定期的に取り組んでいる」、「取り組んではいるが、不定期である」を選んだ場合、下記の4つの選択肢からあてはまるものをすべて選択。

- | | |
|---------|---------------------|
| 1. 一般市民 | 2. 学生 (小学校、中学校、高校等) |
| 3. 社員 | 4. その他 |

◇結果:社員を対象とした環境教育を実施している事業者がほとんどですが、一般市民や学生に対しても実施されていました。

◇戦略作成上の留意点:一般市民や学生に対する環境教育の際には、事業者と協働での実施も望まれます。



書式変更: フォント : (英) BIZ UDPゴシック, (日) BIZ UDPゴシック
 書式変更: 中央揃え
 書式変更: フォント : (英) BIZ UDPゴシック, (日) BIZ UDPゴシック

3)環境教育・環境学習の取組み頻度

◇選択：1)で「定期的に取り組んでいる」、「取り組んではいるが、不定期である」を選んだ場合、下記の6つの選択肢から1つ選択。

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 年1回程度 | 2. 年2～4回程度 |
| 3. 年5～7回程度 | 4. 年8～10回程度 |
| 5. 月1回程度(年12回程度) | 6. 月1回以上(年12回以上) |

◇結果：年1回程度の実施が約47%でした。

◇戦略作成上の留意点：事業者が確保できる時間と相談しながら、取組み頻度や内容を充実させていくことが望めます。

グラフ 設問 10 3)

4)環境教育・環境学習に取り組んでいない理由

◇選択：1)で「今は取り組んでおらず、今後も予定なし」、「今は取り組んでいないが、今後は予定あり」を選んだ場合、下記の9つの選択肢からあてはまるものをすべて選択。

- | | |
|----------------|---------------|
| 1. テーマがわからない | 2. 社員のスキルが不十分 |
| 3. 取組み方法がわからない | 4. 教材が少ない |
| 5. 予算がない | 6. 時間の確保が難しい |
| 7. 研修の機会が少ない | 8. 特になし |
| 9. その他 | |

◇結果：時間の確保や取組み方法がわからないことを理由として挙げている事業者が多い傾向にありました。

◇戦略作成上の留意点：環境教育や環境学習に取り組んでいる事業者の事例を紹介するなど、情報提供が必要です。

グラフ 設問 10 4)

5)環境問題への取り組みや環境教育を実施する上で市に手伝ってほしいこと

◇選択：下記の6つの選択肢からあてはまるものをすべて選択。

1. 専門家の派遣、紹介等
2. ノウハウを学ぶ機会の提供（出前講座、学習会の開催等）
3. 関係機関との調整、窓口
4. 補助金等の金銭的負担の軽減
5. 資機材やツールの提供
6. その他

◇結果：金銭的な負担の軽減を求める事業者が最も多い結果でした。また、ノウハウを学ぶ機会や資機材の提供も挙げられていました。

◇戦略作成上の留意点：事業者の取り組みに対し支援することで、企業と連携した生物多様性に関する取り組みを幅広く展開していくことが望まれます。

グラフ 設問10 5)

■設問 11:川西市が行った方がよいと思う「生物多様性」保全の取り組み（対象:市民、事業者）

◇選択：下記の8つの選択肢から、「3つ」を選択。

1. 希少な動植物の保護
2. 里山など身近な自然の保護
3. 害獣や外来生物による生態系の被害の防止
4. 生態系の調査やデータの集積
5. 生物多様性の保全に取り組む企業や団体の支援
6. 生物多様性の保全に関する情報の普及啓発
7. 学校や地域のイベントによる環境教育の推進
8. その他

◇結果：市民全体では、~~希少な動物の保護~~が最も多い結果でした。事業者全体では、~~里山など身近な自然の保護~~の他、環境教育の推進、害獣や外来生物による被害の防止が挙げられていました。

◇戦略作成上の留意点：希少な動植物や身近な自然の保護を行うとともに、害獣や外来生物への適切な対策を行う必要があります。また、これらの情報を市民へ提供し、生物多様性の保全に関する普及啓発につなげていくことが望まれます。

グラフ 設問 11

5. 川西市の地域区分とその特徴・課題

(1) 川西市の地域区分

川西市が2013(2024)年3月4月にまとめた策定予定のした川西市都市第3次環境基本計画マスタープランでは、川西市を山や川など地形の特性を基本とし、土地利用の状況や市街地の発展経緯など、特性の違いを踏まえ、市域を大きく次の3つに区分しています。そして、さらに地域特性をもとに細区分して、市域を6つの地域に区分しています。これに伴い本戦略でも地域区分を6地域から4地域へ変更します(表7、図18)。

- ①北部：自然が息づき豊かな自然環境が広がる地域と、隣接する住機能が広がる地域
- ②中部：豊かな自然を背景にした住機能を中心とする地域
- ③南部：都心機能や生産機能が強く、都市的土地利用が進展している地域

本戦略では、この地域区分を踏襲し、地域特性について検討を行いました。なお、名称についてはよりわかりやすくするために、北部地域を里山地域、中部地域をニュータウン地域、南部1地域を市街地1地域、南部2地域を市街地2地域の名称に変更しました(表7)。

表7 川西市の地域区分とその特徴

②北部・南地域 →ニュータウン1地域	建設中の新名神高速道路周辺に広がる自然緑地、山下周辺の里景観を呈する集落地、日生ニュータウンや大和田地などから構成されている地域です。
③中部・東地域 →ニュータウン2地域	猪名川の東側に位置し、長い歴史を持つ多田周辺の集落地、多田グリーンハイツなどからなる地域です。

地域	戦略第1期の地域区分	土地利用の特性
①北部地域 →里山地域	北部・北地域	黒川地区の里山や集落地、知明湖(一庫ダム)など、豊かな自然と美しい景観に恵まれた地域です。
②中部地域 →ニュータウン地域	北部・南地域 中部西地域 中部・東地域	新名神高速道路や猪名川の周辺に位置する地域です。自然緑地が広がり、集落地や団地などから構成されている地域です。
③南部1地域 →市街地1地域	南部・JR北地域	JR 福知山線の北側に位置する地域です。川西能勢口駅周辺では再開発事業、キセラ川西地区では区画整理事業が進められるなど、都市機能が集積しています。
④南部2地域 →市街地2地域	南部・JR南地域	JR 福知山線の南側に位置する地域です。住宅地、工業地、都市農地等が混在しており、一部には、大阪国際空港周辺の騒音対策区域が含まれています。

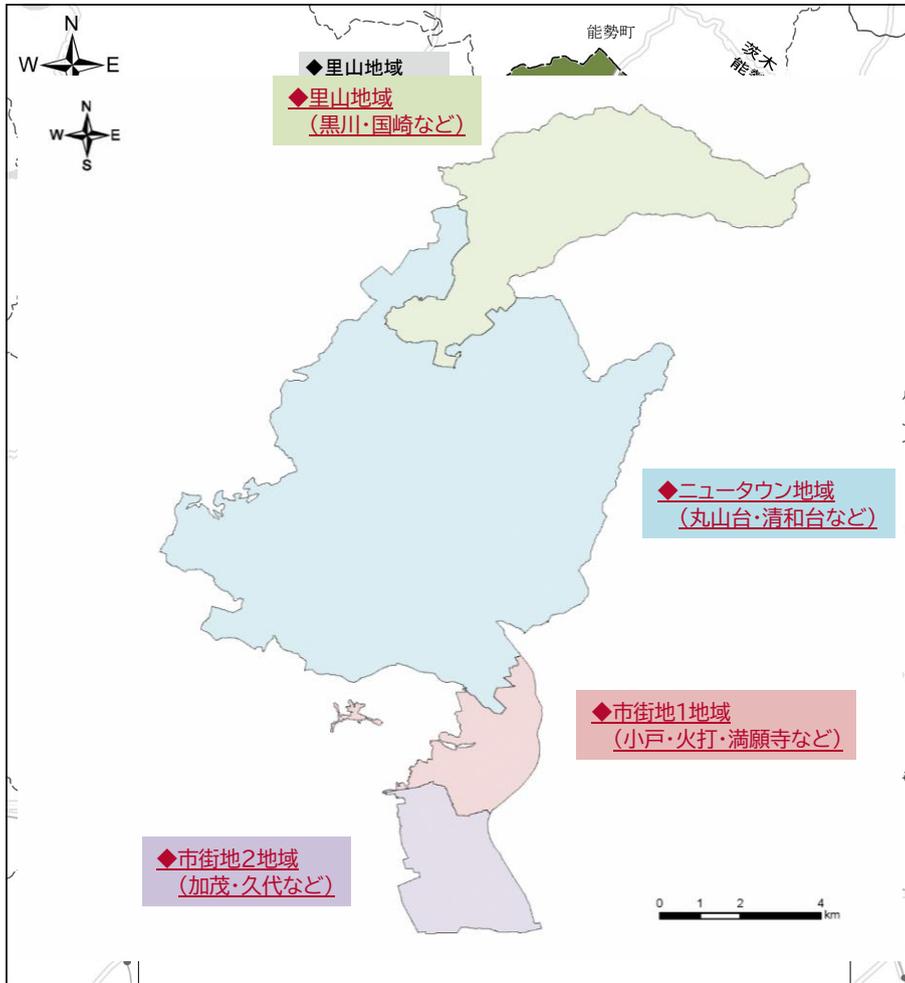


図18 川西市の地域区分

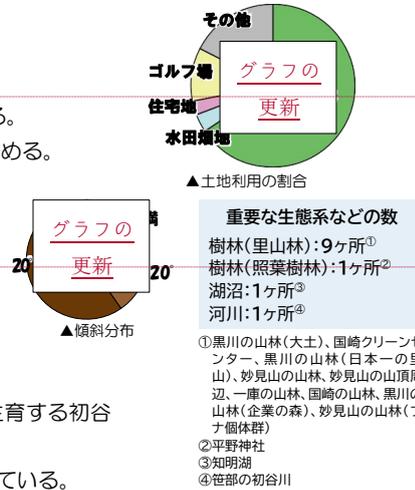
コメントの追加 [菊池10]: 途中経過

(2) 地域の特徴の分析

1) 里山地域

① 基礎情報

- コナラ林、アカマツ林の里山林が(66%)と優占する。
- 傾斜角 20° 以上の傾斜地が(60%)と高い割合を占める。
- 住宅地および水田、畑地はそれぞれ(3%)と少ない。
- ゴルフ場が(11%)を占めている。
- 公園は地域内に(2)ヶ所整備されている。
- 住区基幹公園である街区公園は(1)ヶ所と少ない。
- 大規模公園である広域公園として、一庫公園がある。



コメントの追加 [菊池11]: 重要な生態系などの数は何を参考にしているのか
・シンボリックな生きものなど: 見てよく分からない写真の変更
→素案作成後部会に諮る(市)

コメントの追加 [菊池12]: 公園数の確認
→素案作成後担当課に確認(市)

② 重要な生態系・特徴的な自然

- ◇自然環境: 笹部には棚田が残されている。サツキが生育する初谷川が流れる。
- ◇産業(恵み): 特産品であるクリ(銀寄)が栽培されている。

③ 活動団体など

- 兵庫県立一庫公園 (ひとくらクラブ・ひとくら森のクラブ)
- 国崎クリーンセンター (ゆめほたるクラブ) (森林、ヒメボタル)
- 川西里山クラブ
- 菊炭友の会(森林、エドヒガン、菊炭(一庫炭・池田炭))
- 能勢妙見山ブナ守の会
- NPO 法人ひょうご森のクラブ(森林)
- NPO 法人北摂里山文化保存会
- 流域ネット猪名川(清掃、外来種対策など)
- 企業(能勢電鉄、アサヒビール、黒田電気、チュチュアノン(株)) (森林)
- 一庫ダム管理所(知明湖)

シンボリックな生きものなど

- 日本一の里山
- 台場クヌギ・エドヒガン・ブナ
- ヒメボタル・ゲンジボタル
- 初谷川のサツキ
- 社寺林
- 知明湖
- 菊炭(一庫炭・池田炭)
- クリ(銀寄)

④ 市民の意識

- 市民が残したい自然として、地元産の野菜や米が採れる農地が最も多く挙げられている。
- 環境保全活動などへの参加意欲は、4地域で3番目に高い。
- 市民全体の農作物、菊炭(一庫炭・池田炭)に対する認識度は高い。
- 当該地域の方が残したいと思う自然は、果樹園、水辺、里山の順であり、身近な環境の保全意識が高い。

⑤ 生物多様性保全に向けた課題の整理

- ◇生きもの・環境の保全: 日本一の里山、エドヒガン群生地、台場クヌギ、ブナ、ヒメボタルの保全。
- ◇基礎情報の収集: 初谷川のサツキ(既知)の状況。
- ◇保全活動の維持・拡大: 森林整備ボランティアの継続と拡大。
- ◇外来種・シカの脅威など: シカにより低下した林床植生の回復、ナラ枯れ拡大防止のための監視、外来動物による農作被害対策、知明湖における外来魚駆除。

- ◇自然活動団体との連携：各種企業の森参画企業や公園でのエコアップ（ビオトープづくりや在来植物の植栽など）。
- ◇広報：人の営みによる一庫炭、台場クヌギ、日本一の里山というつながりの啓発など。

マップ



[再作成](#)

2)ニュータウン1地域

①基礎情報

- ・里山林と住宅地がそれぞれ35%程度で優占している。
- ・20°以上の傾斜地の割合は16%にとどまっておおむね緩斜面にも里山林が成立している。

- ・土地利用の割合について記載
- ・水田畑地は8%と、全地域の中で2番目に高い割合を占める。記載
- ・ゴルフ場が16%と最も優占している地域である。

- ・傾斜分布について記載
- ・公園は地域内に37(180)ヶ所整備されている。住区基幹公園である街区公園は32(168)ヶ所ある。住区基幹公園である近隣公園として、平木谷池公園、水明台第5公園、けやき坂中央公園など〇ヶ所がある。住区基幹公園である地区公園(カントリーパーク)として、深山池公園がある。緩衝緑地などである都市緑地として、素盞鳴公園、大和みはらし緑地、新じょうご池緑地、平野宮山公園地(多太神社)、湯山台にせせらぎの道がある。

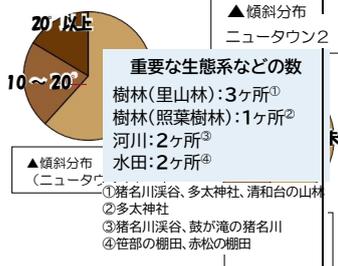
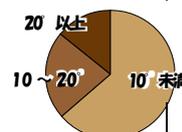
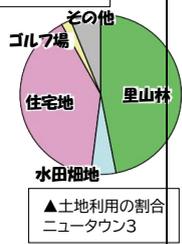
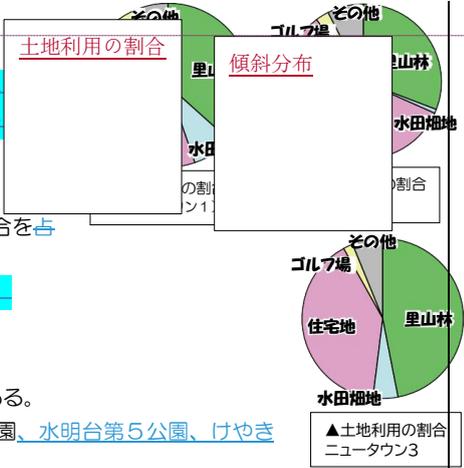
②重要な生態系・特徴的な自然

- ◇自然環境：笹部には棚田が残されている。地域の中央に
 - ・猪名川渓谷があり、清和台付近などにエドヒガンが群生する場所がある。水明台1丁目のエドヒガン群落は市の天然記念物に指定されている。
 - ・虫生の森(清和台3丁目コナラ群落)が市の天然記念物指定を受けている。
 - ・サツキが生育する初谷川が流れる。
 - ・清和台付近の残存林は、シカの食害が少なく、種多様性の高い里山林(まち山)である。
 - ・多太神社の社寺林や鼓が滝がある。
 - ・笹部や赤松地区には棚田が残されている。

- ◇産業(恵み)：特産品であるクリ(銀寄)や特産品であるイチジク(樹井ドーフィン)が栽培されている。若宮地区では、正月の門松の材料とするクマザサの栽培、出荷が行われている。

③活動団体など

- ・大和フォレストクラブ
- ・溪のサクラを守る会(エドヒガン)
- ・流域ネット猪名川(清掃、外来植物対策など)



シンボリックな生きものなど

- ・台場クヌギ
- ・エドヒガン
- ・クリ(銀寄)
- ・イチジク
- ・ゲンジボタル
- ・棚田
- ・社寺林
- ・鼓が滝
- ・種多様性の高いまち山

コメントの追加 [菊池13]: 課題: 情報を1ページに集約するために、情報の取捨選択が必要。

コメントの追加 [菊池14]: 重要な生態系などの数: 大和フォレストクラブの活動地を含めるか →含めるか否か、含めるのであればどのように記載するかご教授願います

第2章 川西市の生物多様性の現状と課題

- ・東多田里山の会
- ・虫生川周辺の自然を守る会（森林、植物、昆虫）

④市民の意識

- ・当該地域の方が残したいと思う自然は、水辺、里山、農地の順であり、身近な環境の保全意識が高い。
- ・同時に身近な環境の保全活動に参加している、または参加したい方が多い。
 - ・市民が残したい自然として、水がきれいで生きもの豊かな水辺が最も多く挙げられている。
 - ・環境保全活動などへの参加意欲は、4地域で2番目に高い。

⑤生物多様性保全に向けた課題の整理

- ◇生きもの・環境の保全：台場クヌギの保全、エドヒガン群生地の保全、社寺林の保全、種多様性の高い里山林（まち山）の保全、鼓が滝の保全、笹部の棚田の保全、赤松の棚田の保全。
- ◇基礎情報の収集：初谷川のサツキの状況、残存森林（まち山）の生物多様性、ゴルフ場の生物多様性（草原性の生物）。
- ◇保全活動の維持・拡大：社寺林、エドヒガンの保全ボランティア活動の継続・拡大、残存林保全の継続と拡大、棚田保全の継続と拡大。

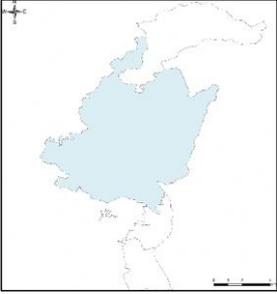
外来種・シカの脅威など：外来動物による農作物被害対策。

- ◇外来種・シカの脅威など：外来動物による農作物被害対策。外来植物対策。
- ◇自然活動団体との連携：公園、居住地のエコアップ（ビオトープ・レフュージア・混ぜ垣など）。
- ◇広報：棚田環境エドヒガンや社寺林などの情報発信。、棚田や残存林などの情報発信。

コメントの追加 [菊池15]: ゴルフ場の生物多様性の確認の方法は。
→ご確認をお願いいたします。

※レフューシア：生態学の用語で避難場所、退避場所を指します。川西市の生物多様性を守るために、人の管理が行き届く公園などを、貴重な植物などの避難、退避場所として利用することです。

マップ：ニュータウン2地域1～3を統合

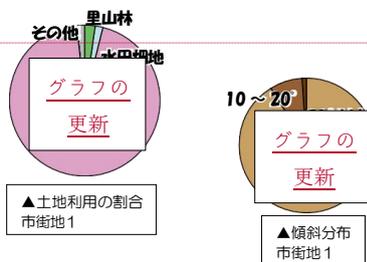


[再作成](#)

3)市街地1地域

①基礎情報

- 市街地が95%を占める。
- 傾斜地は10°未満が90%以上を占めている。
- 水田、畑地は2%とごくわずかである。
- 公園は地域内に(22)ヶ所整備されている。
住区基幹公園である街区公園は(18)ヶ所ある。
住区基幹公園である近隣公園として、猪名川右岸にドラゴンランドがある。



都市基幹公園である総合公園として、猪名川河川敷に東久代運動公園がある。

緩衝緑地などである都市緑地など(3)ヶ所がある。

②重要な生態系・特徴的な自然

②重要な生態系・特徴的な自然

◇自然環境：神社

- 社寺林として、満願寺、八坂神社、小戸神社などがある。
- 川西北小学校前を流れる水路には、貴重な魚類などが確認されている。
- 猪名川の河川敷には、河川本来の植生が発達するとともに多様な生きものが生息している。また、人と自然のふれあいの場として利用されている。

◇産業(恵み)：特産品である早生のモモやイチジク(柗井ドーフィン)が栽培されている。

③活動団体など

- 身近な自然とまちを考える会(水路の生きものの保全など)
- 国土交通省猪名川河川事務所
- 川西自然教室(ヒメボタル)
- 流域ネット猪名川(清掃、外来植物対策、オギ原(在来種)の保全など)
- NPO法人野生生物を調査研究する会



④市民の意識

- 市民が残したい自然として、水がきれい生きもの豊かな水辺が最も多く挙げられている。
- 環境保全活動などへの参加率は、4地域で最も高い。

⑤生物多様性保全に向けた課題の整理

◇生きもの・環境の保全：市街地水路の保全、社寺林の保全、猪名川河川敷の保全。

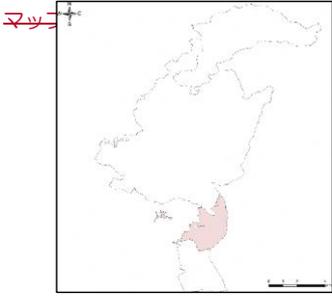
◇基礎情報の収集：特になし。

コメントの追加 [菊池16]: 市街地1地域

川西せせらぎ遊歩道の内容を追加する。
→基礎情報部分で良いでしょうか。どのような追加を想定されていたのかご教授願います。
・セラ川西せせらぎ公園、出在家健康公園など追加(健康公園を全部記載するかどうか?)
→追加するのであればどのような記載を想定されていたのかご教授願います。

書式変更: フォント: (英) HG丸ゴシックM-PRO, (日) HG丸ゴシックM-PRO

- ◇保全活動の維持・拡大：[神社社寺](#)林や水路保全のボランティア活動の継続・拡大。
- ◇外来種・シカの脅威など：猪名川河川敷の外来植物対策。
- ◇自然活動団体との連携：国土交通省猪名川河川事務所、公園、企業敷地のエコアップ（ビオトープ・レフュージア）。
- ◇広報：[神社社寺](#)林、市街地水路保全活動などの情報発信。



4)市街地2地域

①基礎情報

- 市街地は 78%と市街地1 地域より少なく、イチジク畑を中心とした畑地が 17%を占めている。
- 傾斜地は 10° 未満が約 99%を占めている。
- 公園は地域内に 18ヶ所整備されている。
住区基幹公園である街区公園は 14ヶ所ある。
都市基幹公園である総合公園として、猪名川河川敷に東久代運動公園がある。
緩衝緑地などである都市緑地として、久代 2 丁目緑地など 2ヶ所がある。
緩衝緑地などである緑道として、久代に南山緑道がある。

②重要な生態系・特徴的な自然

◇自然環境

- 加茂の段丘崖にはエノキやムクノキが優占する林が残されており、ヒメボタルが確認されている。**神社**
- 社寺林として、鴨神社などがある。
- 猪名川の河川敷には、河川本来の植生が発達するとともに多様な生きものが生息している。また、人と自然のふれあいの場として利用されている。

◇産業（恵み）：特産品である早生のモモや特産品であるイチジク（榎井ドーフィン）が栽培されている。

③活動団体など

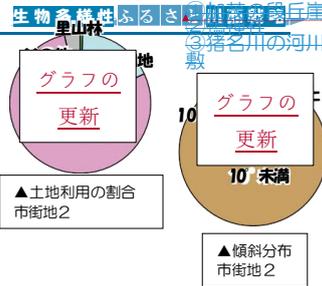
- 身近な自然とまちを考える会（水路の生きものの保全など）
- 国土交通省猪名川河川事務所
- 川西自然教室（ヒメボタル）
- 流域ネット猪名川（清掃、外来植物対策、オギ原（在来種）の保全など）
- NPO 法人野生生物を調査研究する会

④市民の意識

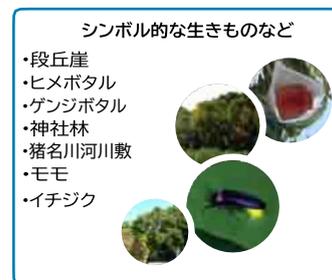
国土交通省猪名川河川事務所

④市民の意識

- 当該地域の方が残したいと思う自然は、果樹園、水辺、里山の順であり、身近な環境の保全意識が高い。
- その一方で、北部にある里山などの近くにない環境での保全活動に参加している、または参加したい方が多い。



書式変更：フォント：10.5 pt



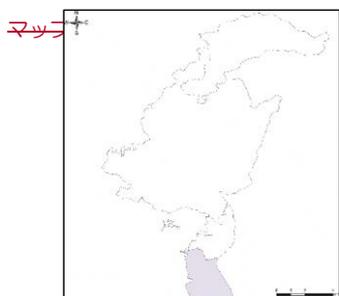
書式変更：フォント：（英）HG丸ゴシックM-PRO、（日）HG丸ゴシックM-PRO

書式変更：フォント：（英）HG丸ゴシックM-PRO、（日）HG丸ゴシックM-PRO

- ・市民が残したい自然として、イチジク、クリ、モモなど特産品がつくられている果樹園が最も多く挙げられている。
- ・環境保全活動などへの参加率は、4 地域で最も低い。

⑤生物多様性保全に向けた課題の整理

- ◇生きもの・環境の保全：[ヒメボタル](#)、[段丘崖の森林](#)[市街地水路](#)の保全、社寺林の保全、猪名川河川敷の保全。
- ◇基礎情報の収集：特になし。
- ◇保全活動の維持・拡大：[ヒメボタル](#)[社寺林](#)[や水路](#)保全のボランティア活動の継続・拡大。
- ◇外来種・シカの脅威など：猪名川河川敷の外来植物対策。
- ◇[自然活動団体](#)との連携：国土交通省猪名川河川事務所、公園、企業敷地のエコアップ（ビオトープ・レフュージア）。
- ◇広報：[ヒメボタル](#)や[段丘崖森林](#)[社寺林](#)、[市街地水路保全活動](#)などの情報発信。



(3)課題のまとめ

1)川西市における4つの生物多様性の危機に対する課題

①第一の危機に関連する課題(直接的な影響)

現在進められている新名神高速道路建設開通によるより、周辺の土地利用に伴う一部の里山の分断や改変、過去に造成されたニュータウンや市街地での環境保全や環境改善などが課題となります。特に、市街地では残された自然環境が少ないため、生物が生息できる空間そのものがありません。そのため、市民、事業者でもできる、市街地での生物多様性を向上(エコアップ)させるための方法の検討が必要となります。

②第二の危機に関連する課題(人の働きかけの減少)

本課題では、日本一の里山、社寺林、棚田、市街地の水路などの生態系の保全、エドヒガン、ブナ、ヒメボタル、コウモリなどの種の保全およびシカの食害とナラ枯れの軽減など、多くの要素が対象となります。特に北部の黒川周辺の日本一の里山を守っていくためには、現在、多くのスキルを持ったボランティアが活動しているものの、対象とする面積が広大であるために参画者の拡大が必要となります。さらにシカ害という新たな脅威への対応が求められます。なお、市街地に住む市民の里山整備の参画意識は高いので、活動に参画できるような情報発信や協働のしくみが必要となります。

③第三の危機に関連する課題(外来種などの影響)

湖沼でのブラックバス、猪名川河川敷のアレチウリのほか、農作物に被害を与えるアライグマやヌートリアが問題となっています。~~それ以外また、クビアカツヤカミキリによるサクラへの外来種被害も確認されていますが、発生するなど、川西市の生態系を変えてしまうほどのような脅威はまだありません。ただし、が迫っています。~~外来種対策は早期発見、早期対策が必要であり、被害が拡大する前からの行動が重要となります。そのためには、多くの人の目、人の手が必要となるので、市民への周知および対策への参画が期待されます。~~なお、特に外来植物に関しては、市民の関心や認識度が低い傾向にあるので、改善する必要があります。~~

書式変更: フォント : (日) HG丸ゴシックM-PRO
書式変更: フォント : (日) HG丸ゴシックM-PRO

④第四の危機(地球温暖化の影響)および情報発信などに関する課題

現時点では、温暖化による生態系への影響は顕著ではありません。そのため、地球温暖化の問題を含め、生物多様性に関する情報および各地域での特徴的な自然環境などを、市民などに広報し理解、認識してもらうために、情報を発信する必要があります。また、川西市としての取り組みをシンボリックに示したり、見てもらえたりすることができれば PR 効果は高まるものと考えられます。

2)川西市の生物多様性に関する認識と情報の不足

アンケート結果から、川西市民における「生物多様性」の言葉や意味の認知度は高い一方で、~~本戦略やその内容の認知度が低いことが明らかとなりました。また、認識、川西市のすばらしい自然環境や文化などの認識が不足していることが明らかとなりました。そして、川西市における生物多様性の現状や初谷川のサツキなどの守るべき自然の詳細な情報が不足していることも課題です。特に、シカの食害が少なく種の多様性が非常に高いニュータウンに残された残存林の「まち山」は、川西市の生物多様性を守る上で、重要な場所となる可能性があります。~~

そのため、~~市は本戦略や市民への生物多様性に関する情報の広報を市民に対して行うことが必要です。や、また、その情報のもととなる重要な生きものの生育、生息状況や構成種の調査によ~~

コメントの追加 [菊池17]: 今回アンケート結果を踏まえて記載
市民の認識不足と決めつけると気分を害する読者の声があった。市の発信不足もあるため、課題が明確になったという方向で記載

る生物多様性の把握および生物多様性の高いまち山の分布状況などについて市と市民が協力して把握していかなければなりません。

第3章

「生物多様性ふるさと川西戦略」が目指すもの

1. 生物多様性保全の基本理念と目指すべき川西市の将来像

2023年3月に閣議決定された「生物多様性国家戦略 2023-2030」には、生物多様性によって支えられる自然共生社会を実現するための戦略の理念として「自然のしくみを基礎とする真に豊かな社会をつくる」が掲げられています。また、持続可能な社会を構築するためには、自然が安定し、変化に対するしなやかさを保ち、将来にわたりその恵みを受けられることができるよう、共生と循環に基づく自然の理に則った行動を選択することが重要であるとされています。2012年9月に発表された「生物多様性国家戦略 2012-2020」には、生物多様性によって支えられる自然共生社会を実現するための戦略の理念として「自然のしくみを基礎とする真に豊かな社会をつくる」を掲げており、そのためには、すべての人が生物多様性の保全と持続可能な利用に関する重要性を理解して行動する必要があるとしています。

本戦略でもこれを基本理念とし、目指すべき川西市の将来像を次のとおり設定します。

◆基本理念

生物多様性国家戦略の理念

自然資本を次の世代に受け継ぐべき資産として捉え、その価値を的確に認識して、自然資本を守り持続可能に活用する社会に変革していく必要があります。これらを通じて、自然の仕組みを基礎とする真に豊かな社会を構築する必要があります。自然を次の世代に受け継ぐ資産として捉え、その価値を的確に認識し、自然を損なわない、持続的な利用を考え



◆目指すべき川西市の将来像

一人ひとりが川西市のすばらしい自然を誇りに思い、それらを守り共生するまち

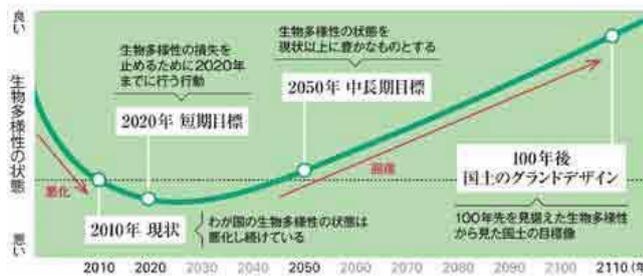
川西市に関係するすべての人が生物多様性の必要性を理解し、川西市の自然の魅力や重要性について「ふるさと川西」として誇りを持つことで、生物多様性保全に向けた行動をおこし、自然と共生するまち・川西市を目指します。

2. 目標の設定

2023年3月に閣議決定された「生物多様性国家戦略 2023-2030」では、「『2050年までに、生物多様性が評価され、保全され、回復され、賢明に利用され、生態系サービスが維持され、健全な地球が維持され、全ての人々にとって不可欠な利益がもたらされる』自然と共生する社会」を実現することを中長期目標としています。また、短期目標として、「2030年までに、『ネイチャーポジティブ：自然再興』を実現する」ことを掲げています。2010年に発行された生物多様性国家戦略 2010 パンフレット「いのちは支えあう」では、100年後の姿を見据えて目標とアプローチを提案しています。その中で現在進みつつある生物多様性の損失を、2020年までに止めることを短期目標に据え、2050年以降に2010年の現状以上に回復させることを中長期目標としています。すなわち、すぐに行動をおこなさなければ生物多様性は悪化、減少していくのです。

そのため、川西市において、まずは生物多様性の状況を知り、行動を始め、その損失を止め、その後の回復、向上を目指す必要があります。このような状況を踏まえ、本戦略では期間ごとに区分した3つの目標を掲げます。

わが国の生物多様性の回復イメージ



生物多様性国家戦略 2010 パンフレット「いのちは支えあう」より引用

「生物多様性ふるさと川西戦略」の目標

■短期目標(3年目まで):生物多様性の理解と行動の開始

川西市に関わるすべての人や団体が、川西市の自然のすばらしさと生物多様性の重要性を理解することでライフスタイルを見直し、それぞれができることから行動を始められるようになります。これにより、生物多様性の悪化を止めることを目指します。

■中期目標(3～8年間):生物多様性保全意識の向上と行動の継続

市民や団体、事業者などの生物多様性の保全に対する意識が高まることで、それぞれの行動が活発となります。さらに、市の指導、規制の充実を行います。これにより、生物多様性を回復させることを目指します。

■長期目標(8～18年間):主体間の連携、拡大による自然と共生するまちづくり

市民や団体、事業者、市が連携することで行動が拡大し、自然と共生する川西市の実現に進みます。これにより、生物多様性のさらなる向上を目指します。

3. 「生物多様性ふるさと川西戦略」の設定－ふるさと川西市民戦略と4つの基本戦略－

設定した目標を達成させ、将来象を実現するための「生物多様性ふるさと川西戦略」として、市民や事業者がすぐに実践できる「ふるさと川西市民戦略」と、川西市が主体となる4つの「基本戦略」を設定します。

(1) 「ふるさと川西市民戦略」

川西市の生物多様性の悪化を抑制するのは待ったなしの状況です。そこで、市民、団体、事業者をターゲットに、川西市の自然や生物多様性のことを意識し、ライフスタイルを見つめ直すことですぐに実行できる行動を提言します。

(2) 4つの基本戦略

基本戦略1：環境教育の充実による「ふるさと川西」意識の醸成および生物多様性教育

川西市に愛着を持ち、自然の保全に参画する意識を育むためには、子どもの時からの継続的な環境体験学習および生涯教育の体系化が必要です。そこで、長期的な展望にたち、幼稚園、小学校、中学校から継続的な環境教育を進め、ふるさとである川西を誇りと思えるよう意識の醸成を図ります。また子どもたちに教える大人（教員）に対する研修の実施や市の生涯教育を行い、川西市の自然を十分に理解し積極的に子どもたちに教えることのできる指導者を育成するための施策を実施します。



基本戦略2：自然に関する情報発信による生物多様性保全の普及・啓発

川西市の生物多様性を保全するには、市民や事業者などの参画が不可欠です。しかしながら、生物多様性に対する市民の認識度はまだまだ低く、市民に生物多様性について十分に理解してもらう必要があります。そこで短～中期的な展望のもと、生物多様性の意味や重要性を普及啓発するために、いろいろな媒体や機会を活用し川西市の生物多様性や自然環境に関する情報を発信するための施策を実施します。



基本戦略3:生物多様性保全の取り組みの強化

川西市の自然、生物多様性を守るためには、第一には今ある良好な自然などを守っていかねばなりません。そこでこれまで進めている環境保全施策の継続や法令などにより保全の取り組みと強化を図っていきます。さらに、市民や事業者による行動、参画を促進するため、市民レベルで実践できる取り組み方法などを紹介する施策を実施します。



基本戦略4:各主体の連携による生物多様性保全活動の継続と拡大

望ましい川西市の将来像を実現するためには、市民や事業者そして市の役割を明確にし、それぞれが連携、協働しながら生物多様性の保全活動が行われることが不可欠です。そのために、各主体の連携を充実させるために、交流、情報交換ができる場や機会を設け、活動の参画や拡大を補助する施策を実施します。

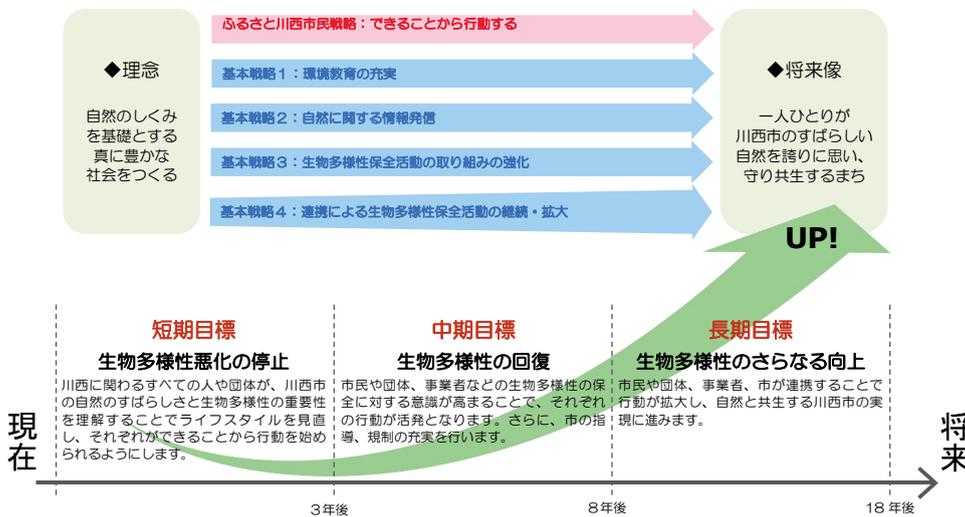


図19 「生物多様性ふるさと川西戦略」の概要

第4章 行動計画

1. 「ふるさと川西市民戦略」—ライフスタイルを見つめ直してできることから行動を—

コメントの追加 [菊池18]: 市民向けの話と事業者向けの話が一緒になっているため変更が必要ではないか?
(変更の場合専門部会で決を採る必要がある)
→市後日回答

基本戦略に基づく川西市の具体的な施策を述べる前に、まずは誰もがすぐに始められる、始めるべき行動について提案します。これまでのライフスタイル、ワークスタイルを見つめ直し、川西市の生物多様性のことを少し考えて日常を過ごすことで、将来にわたり生物多様性が確保され、自然と共生できる川西市になっていくはずで

(1)川西市の自然・文化に触れる

川西市の自然、生物多様性を意識する、そして知るためには、まずは地域の自然や文化に触れることです。日々の通勤や通学、散歩などの時に見る風景や自然を観察する、地域のことを紹介しているパンフレットや新聞記事に留意することが生物多様性の重要性を知り、行動をおこすための第一歩となるものと考えます。



(2)日常にできる行動

1)ゴミ出しなど生活のルールを守る

不適切に生ゴミなどを出すと、アライグマ（外来種）やイノシシなどの動物がやってくる原因となります。また、カラスやネコなどが荒らすようになり、生態系や景観に悪影響を与えてしまう可能性があります。このようなことがおこらないよう、生活のルールを守る必要があります。

市民、事業者が積極的に意識し、行動できることです。



2)外来種などの拡大を防止する

アライグマやオオキンケイギクなどの外来種は、当初はペットや園芸用に持ち込まれたものです。その後、飼えなくなって逃げたり、花壇から逃げ出したりして拡大することで問題となっています。それを防止するためには、まずは正しい情報を知ること、そしてむやみに飼わない、捨てない（逃がさない）、広げないの3原則を守る必要があります。なお、これらは外来種だけではなく、例えばメダカやホタルなど川西市から遠く離れた地域から持ち込まれたり、購入した在来の動植物に対しても同じであり、遺伝子の多様性の保全からむやみに自然の中に逃がしたりしてはいけません。

市民一人ひとりが注意し、実行できることです。



3)地域の農産物・特産品を消費する

クリ、モモ、イチジク、菊炭をはじめ、地域の農産物であることを意識し、消費するようにします。これらの需要が増えることで、農地での生産が確保され、畦、水田、畑など豊かな農村の環境が管理、維持され、生物多様性が確保されます。

市民、事業者など、誰もが取り組める行動です。



4)身近なエコアップ

自宅の庭やベランダ、工場の敷地などで樹木や草花を植える時、チョウや鳥が訪れる種なども意識して植えるようにします。また、生垣を作る際に一種類の木で作るのではなく、複数の樹種を混ぜる「混ぜ垣」を作るのも良いです。このような場所が増えることで、チョウのネットワークができます。特に自然の少ない市街地などでは効果がある行動です。

市民、事業者など、誰もが取り組める行動です。



5)情報を発信、共有する

川西市では、日本一の里山やヒメボタル、エドヒガンの保全など市民団体、ボランティアなどの団体が積極的に活動しています。また、企業や公共の公園などでも自然環境や生物多様性保全の取り組みがなされています。これらの団体や事業者が情報を発信し、市民などへPRするとともに、横断的な交流を深めることで、活動の拡大、充実が期待できます。川西市や兵庫県などが開催するイベントなどに参加し、活動の情報発信や他団体などとの交流を深めることが大切です。

ボランティア団体、事業者などが積極的に取り組める行動です。



6)ビオトープ整備における情報収集や学習

工場などにビオトープを作る時、しっかりとした知識または指導者がいないと、逆効果になってしまうこともあります。例えば、生きものを導入する時、在来種でも遠く離れた地域の種が持ち込まれたりしないよう、最新の情報などをよく理解し、情報の収集や学習をしておくことが必要です。特に、企業の事業者などが留意し、行動することが求められます。

2. 基本戦略に基づく行動計画

(1) 環境教育の充実による「ふるさと川西」意識の熟成および生物多様性教育(基本戦略1)

1) 児童・生徒を対象とした環境教育の実施

① 施策名称【森就学前園児の幼稚園環境教育方針】・担当部署【こども未来部教育推進部】

公立幼稚園を対象に、兵庫県立一庫公園での「森の幼稚園」を実施し、幼児期から自然にふれあう機会を作っていきます。

国の定める3法令や市基底の全体的な計画などに基づいて、各園所で計画を立てて、園所内の自然環境を生かした取り組みや県や市の企画に参加したりして環境保育に努めていきます。

② 施策名称【小学校体験活動(環境体験)】・担当部署【教育推進部】

小学校3年生を対象とした「環境体験」を実施し、児童が普段生活している地域の自然の中に出かけて環境体験をします。また、川西独自の自然や産物を知り、それらを広めていくことで、環境問題を考え解決していく素地を育てていきます。

③ 施策名称【里山体験学習】・担当部署【教育推進部】

小学校4年生を対象に「里山体験学習」を実施し、日本一の里山である黒川地域を体験活動の場として、自然に対する畏敬の念をはじめ、生命のつながり・環境保護の大切さを実感し、美しさ感動する豊かな心を育てていきます。川西市の自然特性を活かした、独自の環境教育です。

④ 施策名称【小学校体験活動(自然学校)】・担当部署【教育推進部】

小学校5年生を対象に「自然学校」を実施し、児童が兵庫県にゆかりのある人や自然、地域社会と触れ合い、理解を深めるなど、長期宿泊体験を通して、自分で考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する力や、生命に対する畏敬の念、感動する心、共に生きる心を育むなど、「生きる力」を育てていきます。

⑤ 施策名称【中学校教育支援】・担当部署【教育推進部】

中学校2年生を対象に地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」を実施し、地域や自然の中で、生徒の主体性を尊重したさまざまな活動や体験を通して、地域に学び、自分を見つめ、他人を思いやる心を育てるとともに、自立性を高め「生きる力」を育てていきます。

戦略の進捗を評価するための指標

- ・各環境教育を受けた1年間の人数



2)教職員や市民を対象とした研修の実施

①施策名称【教育研究】・担当部署【教育推進部】

教職員対象に「環境体験研修」を実施し、日本一の里山である黒川地域・猪名川水系・身近な自然などを体験し、自然・生物・環境教育など体験的な研修を行っていきます。

②施策名称【生涯環境学習の充実】・担当部署【教育推進部市民環境部】

生涯学習短期大学「レフネック」、川西市高齢者大学「りんどう学園」などの生涯公民館などの学習の充実を図り、リタイアした世代だけでなく、30 才から 50 才代への環境教育も充実させていきます。

戦略の進捗を評価するための指標

- ・研修を受けた年間の教職員数
- ・環境に関する公民館講座を受けた人数



(2)自然に関する情報発信による生物多様性保全の普及・啓発(基本戦略2)

1)広報やHPによる情報発信

①施策名称【自然環境情報の発信】・担当部署【美化市民環境部】

ホームページや広報かわにしなどの媒体を通じ、かわにしの自然環境、生物多様性に関する情報を定期的に発信することにより、ふるさと川西のすばらしさを伝えていきます。

②施策名称【国や兵庫県が作成する上位計画などの広報、普及啓発】・担当部署【美化市民環境部】

生物多様性に関する国や兵庫県の情報について、HP 上で概要版の掲載やリンクを張り、一元で閲覧でき、情報が入手しやすくなるよう整備します。

③施策名称【観光の推進】・担当部署【市民生活部環境部】

市 HP や観光マップ「[歩っと川西めぐり](#)」や「[川西学検定](#)」の実施などを通して、市の自然や歴史、市内の観光地の PR を行っています。

④施策名称【地産地消の推進】・担当部署【市民生活部環境部】

川西市の特産品であるイチジク、クリ、モモなどについて、市広報誌や[ホームページHP](#)等を用いて PR し、地産地消を進めます。

⑤施策名称【市街地における里山の PR】・担当部署【[キセウ川西整備部](#)・[教育推進部](#)・[土木部](#)】
[キセウ川西の中央公園内に黒川地区から台場クヌギやエドヒガンの移植に努め、里庭エリアとして整備したり、](#)JR 川西池田駅前ロータリーのクヌギを台場クヌギに仕立てるなど、市街地において、北部の里山の自然を身近に感じられるようにします。

戦略の進捗を評価するための指標
<ul style="list-style-type: none">・ 1 年間の各 HP へのアクセス数・ 1 年間に紹介した自然環境の数

2)川西市によるモデル整備や景観計画による情報発信

①施策名称【再生可能エネルギーの普及啓発】・担当部署【美化市民環境部】

市役所本庁舎南側壁面に太陽光発電システムを設置し、モニターで観察できるようにするなど、地球温暖化対策（温暖化による生きものの衰退・絶滅の防止）として再生可能エネルギーの普及促進のための啓発を進めています。



②施策名称【川西市都市景観形成条例の改正及び川西市景観計画の策定改訂】・担当部署【都市整備部政策部】

川西市都市景観形成条例の改正および川西市景観計画の策定改訂により、市の自然や歴史文化をはじめとするさまざまな景観資源を活用し、風格のあるブランド力を備えた魅力的な景観の形成を積極的に進めています。

戦略の進捗を評価するための指標

- ・2022年に実施予定のアンケート調査結果

(3)生物多様性保全の取り組みの強化(基本戦略3)

1)市民生活での生物多様性保全の活動の支援

①施策名称【市民や事業者との連携による生物多様性向上(エコアップ)の推進】・担当部署【美化環境部】
市民や事業者ができる身近な生物多様性の向上手法についてまとめ、HPやリーフレットとして広報し、活動を支援します。

②施策名称【外来種対策の推進】・担当部署【美化市民環境部・都市整備部】

外来種の侵入経路、影響、対策の必要性や市民でも実施できる外来種対策の方法などをまとめ、HPなどで広報するなど、外来種に対する対策を進めます。

戦略の進捗を評価するための指標

- ・2022年に実施予定のアンケート調査結果

書式変更：フォント：(英) BIZ UDPゴシック, (日) BIZ UDPゴシック

2)川西市による文化財の指定保全および生物多様性向上の事業の実施

①施策名称【文化財保存啓発】担当部署【教育推進部市民環境部】

天然記念物などの貴重な財産である文化財の保全を進めるとともに、[以下に示した天然記念物の候補地において調査を行い、新たな指定やその普及啓発、活用を進めていきます。](#)

- ・黒川周辺の日本一の里山（クヌギ群落）
 - ・黒川大槌の桜の森のエドヒガン個体群
 - ・黒川大原などの妙見の森ケーブル周辺のエドヒガン個体群とクヌギ群落
 - ・黒川尾上の企業の森のエドヒガン個体群やクヌギ群落
 - ・清和台東のまち山のシロバナウンゼンツツシ個体群
 - ・平野の多太神社のコシイ・カナメモチ群集
 - ・菅部の初谷川のサツキ個体群
 - ・鼓が滝のユキヤナギ個体群
 - ・出在家町(川西北小学校横)の市街地水路の水生生物群
- (これらの詳細は巻末資料にあります)

②施策名称【ため池などの保全】・担当部署【市民生活部】

農業用灌漑のため、水利組合が管理するため池や農業用水路などの補修・改修、水難防止のため、安全柵の設置などへの支援を行っています。今後の改修などに際しては、ため池などにおける生物多様性の重要性に配慮し、進めていけるよう検討していきます。

③施策名称【生物多様性に配慮した公園・緑地管理の推進】・担当部署【都市整備部土木部】

市内の公園および都市緑地の管理に際しては、特に外来生物の[対策啓発を強化し行うとともに](#)、生物多様性に配慮した在来種や川西市のシンボルとなる樹種などの植栽を実施していきます。

戦略の進捗を評価するための指標

- ・ **新たな指標を設定**



水明台1丁目エドヒガン群落

書式変更: フォント: 10.5 pt

書式変更: ヘッダー, 行間: 1 行

3)川西市による生物多様性に被害を与える獣害対策などの実施

①施策名称【ナラ枯れ対策】・担当部署【市民生活部環境部】

カシノナガキクイムシによるナラ枯れが西日本を中心に被害が拡大してきており、本市は被害最先端地に指定されていることもあり、被害拡大防止に取り組んでいきます。

②施策名称【有害鳥獣対策】・担当部署【市民生活部環境部】

川西市鳥獣被害防止計画に基づき、農作物の被害などの防止を目的に、個体数の調整などとしてイノシシやシカの捕獲・処分を行っていきます。また、シカの食害防止対策としてのシカ柵設置等に対する補助を行っていきます。

③施策名称【外来動物来生物対策】・担当部署【市民生活部環境部】

農作物の被害などの防止、希少種を含めた在来生態系の保全・回復のため、特定外来生物であるアライグマ・ヌートリアを対象に捕獲・処分を行っていきます。また、農作物被害防止対策に対する補助を行っていきます。

コメントの追加 [菊池19]: 指標の内訳部分
→素案作成後担当課に確認

④施策名称【外来植物来生物対策】・担当部署【都市整備部等市民環境部】

川西市の在来植物の生育場所を守るために、侵略的な外来植物の対策を進めていきます。さらに、セアカゴケグモ、ヒアリや、今後サクラやモモへの被害の拡大が懸念されるクビアカツヤカミキリについて、注意喚起や駆除に関する啓発を行っていきます。

書式変更: フォント: (英) HG丸ゴシックM-PRO, (日) HG丸ゴシックM-PRO

戦略の進捗を評価するための指標

- ・1年間に捕獲した有害鳥獣および外来動物の数
(2021年度実績: 191頭(アライグマ 82頭、ヌートリア 0頭、イノシシ 42頭、シカ 35頭))



わなにかかったアライグマ

(4)各主体の連携による生物多様性保全活動の継続と拡大(基本戦略4)

1)市民、団体、企業などとの連携の構築

①事業名【生物多様性に関する情報交換の場の提供】・担当部署【美化市民環境部】

生物多様性に関する取り組みを行っている市民、市民活動団体、事業者などが交流、情報交換などができる機会や場所を設けます。

書式変更: フォント: (英) BIZ UDPゴシック, (日) BIZ UDPゴシック

②事業名【森林ボランティアの支援】・担当部署【市民生活部環境部】

森林の保全に取り組む森林ボランティア団体の活動支援を行い、日本一の里山と言われる黒川地区の里山を含めた森林の整備に努めていきます。

③事業名【まち山の再評価】・担当部署【都市整備部政策部】

市街地に点在するまち山について、生物多様性の拠点として再評価するとともに、今後の保全や活用について、市民との協働の方法などを検討します。

④事業名【事業者との連携および生物多様性戦略作成の応援】・担当部署【美化環境部】兵庫県立一庫公園、独立行政法人水資源機構一庫ダム管理所、国崎クリーンセンターなど生物多様性の拠点となる地点を管理する事業者などと連携し、生物多様性の保全活動の推進や各事業者、団体による生物多様性(学校・企業・公園など)戦略の作成を応援します。市民環境部

兵庫県立一庫公園、独立行政法人水資源機構一庫ダム管理所、国崎クリーンセンターなど生物多様性の拠点となる地点を管理する事業者などと連携し、生物多様性の保全活動を推進します。

書式変更: フォント: (英) BIZ UDPゴシック, (日) BIZ UDPゴシック

戦略の進捗を評価するための指標

- 1年間の情報交換などの実施回数
- 1年間に支援したボランティア数(2013年度実績: 5団体)

2)兵庫県や市民団体との既存事業の継続

①事業名【北摂里山博物館構想】・担当部署【市民生活部環境部】

都会近くに残された北摂の里山地域一帯を「北摂里山博物館(地域まるごとミュージアム)」として整備し、生産活動はもとより環境学習、野外活動など、訪れる人々それぞれのニーズにあわせて利活用していくことを通じ、北摂里山の持続的な保全を図り、北摂地域の活性化につなげていく取り組みを兵庫県と連携して実施していきます。

②事業名【NPOなどと連携した河川美化の実施】・担当部署【都市整備部政策部・美化環境部衛生部】

猪名川水系の美化環境を保全し、豊かな生物多様性を守るために、NPOなどが実施する河川美化活動を支援し、発生した廃棄物の収集、処理などを行っていきます。

戦略の進捗を評価するための指標

- 1年間に実施した河川美化活動の回数

書式変更: フォント : 10.5 pt

書式変更: ヘッダー, 行間 : 1 行

第5章 推進体制と進行管理

1. 推進体制

「生物多様性ふるさと川西戦略」を効果的に進めていくためには、前述の行動計画で示した各事業を担当する部署間での情報交換を行いながら連携を取り、確実に実施していく必要があります。加えて、市民や事業者からの質問などの対応や、必要に応じて学識者、専門家からのアドバイスを受け、総合的に進めていかなければなりません。

(1) 庁内担当部署との連携強化

「生物多様性ふるさと川西戦略」の推進を主に担当する部署を**美化市民環境部**、**市民生活部****美化衛生部**、**都市整備部政策部**、**土木部**、**教育推進部**、~~こども未来部~~、~~キセラ川西整備部~~とし、各部に生物多様性施策推進の担当者を設置し、事業の推進および市民・事業者からの相談などへの回答を行います。各部の担当者は生物多様性の保全など関連するセミナーや講習会に参加し、スキルの向上を図ります。

また、**美化市民環境部**が中心となり、庁内の担当部署との連携を図り、事業の進捗や課題などについて協議する機会を設けるものとします。

<各部の役割と今後の重点項目>

◆**美化市民環境部**

- ・市民・事業者からの相談などの窓口を担当します。
- ・「生物多様性ふるさと川西戦略」推進の主担当として、事業の進捗や管理を行います。

~~◆市民・事業者からの相談などの窓口を担当します。~~

- ・前述の行動計画で示した担当する事業の推進を行います。
- ・担当する分野について、市民・事業者からの相談などへの回答を行います。
- ・後述する「~~(仮称)~~生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会」の事務局として、委員などとの調整を行い、定期的に委員会を開催します。
- ・「生物多様性ふるさと川西戦略」のシンボルとなるような動植物の選定を検討します。

◆**市民生活部**

~~◆前述の行動計画で示した担当する事業の推進を行います。~~

~~◆担当する分野について、市民・事業者からの相談などへの回答を行います。~~

- ・里山、森林に関するボランティアとの連携を強化し、高齢化の進んでいるボランティアの数を減らさないよう支援の方策を検討します。

◆**美化衛生部**

- ・前述の行動計画で示した担当する事業の推進を行います。
- ・担当する分野について、市民・事業者からの相談などへの回答を行います。

◆**都市整備部政策部**

- ・行動計画で示した担当する事業の推進を行います。
- ・担当する分野について、市民・事業者からの相談などへの回答を行います。

◆**土木部**

- ・行動計画で示した担当する事業の推進を行います。
- ・担当する分野について、市民・事業者からの相談などへの回答を行います。
- ・せせらぎ遊歩道で、市民活動の一環として動植物の観察会等の実施を検討します。

・新名神高速道路にかかるインター線の植樹や、プロペラ公園の拡張などに際しては、生物多様性に配慮した植栽を検討していきます。

◆教育推進部-こども未来部

- ・行動計画で示した担当する事業の推進および市民・事業者からの相談などへの回答を行います。
- ・担当する分野について、市民・事業者からの相談などへの回答を行います。
- ・教職員を対象とした環境体験研修の充実を図り、教職員へふるさと川西のすばらしさを伝えることにより、環境教育を推進していきます。

書式変更：フォント：10.5 pt

書式変更：ヘッダー，行間：1 行

◆キセラ川西整備部

- ▶ 行動計画で示した担当する事業の推進を行います。
- ▶ 担当する分野について、市民・事業者からの相談などへの回答を行います。
- ▶ せせらぎ遊歩道で、市民活動の一環として動植物の観察会等の実施を検討します。

書式変更：フォント：(英) BIZ UDPゴシック，(日) BIZ UDPゴシック

書式変更：フォント：(英) BIZ UDPゴシック，(日) BIZ UDPゴシック

書式変更：フォント：(英) BIZ UDPゴシック，(日) BIZ UDPゴシック

(2) (仮称) (2) 「生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会」の設置

「生物多様性ふるさと川西戦略」を推進し、進捗状況のチェック、評価および修正案を検討することを目的とした「(仮称)生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会」を設置します。各主体からの意見、アイデアを受けするために、学識経験者、市民や市民団体および事業者など多様な主体により組織します。なお、本委員会の運営は美化市民環境部が担当し、各委員との調整などを行います。

(3) 体制、連携の強化などの検討

1) 生物多様性に関するアドバイザー機能の強化

推進する事業における課題解決や市民からの相談に対する返答などについては、専門的な知識を持った人からの助言を受けることが効率的です。そのための協議ができるアドバイザーの人选や連携について検討を行います。例えば、川西市における自然環境や生物多様性に詳しい人材を募集し、セミナーの講師や団体からの問い合わせ時などに紹介できるように体制を整えます。

2) 市民団体、ボランティア、自治会等との連携強化

本戦略の実施効果の検討などにおいては、生きもの情報の収集が必要となります。そのため各地で活動する市民団体、ボランティア、自治会やコミュニティ等からの情報提供などについて検討し、連携を強化していきます。

例えば、各団体との横断的な交流や発表の場を設ける、また、各種団体で実施している調査や所有している生物情報を共有でき、川西市の生物多様性のモニタリングや数値化、今後の評価に活用できるようなシステムを検討していきます。

3) 企業の森づくりの誘致、推進

(公社)兵庫県緑化推進協会が進める「企業の森づくり」制度を広報し、川西における企業の参画を推進することを検討します。

4) 生物多様性保全のためのシンボルの選定

「生物多様性ふるさと川西戦略」をより身近な存在とするために、川西市の自然、歴史、文化を象徴し、かつ身近な生きものをシンボルとして選定することを検討していきます。例えば樹木では、各地で群生するエドヒガン、日本一の里山を代表するクヌギ、そして古文書に残るナラガシワの3種類を「三種の心木」としてシンボルとすることや、オオムラサキ、ミドリシジミの仲間やオオクワガタなど、動物のシンボルの選定も検討していきます。

5) 生物多様性に関する拠点作りの検討拠点「川西市黒川里山センター」の整備

例えば黒川公民館などを活用し、川西市の生物多様性に関する活動や情報発信の拠点を整備することを検討していきます。

「黒川を中心としたまちづくり方針」に基づき、里山保全や教育の振興、観光の推進を図るとともに、地域住民に限らず市内外から様々な方が集まる交流拠点として旧黒川小学校グラウンド内に整備します。

書式変更: フォント : 10.5 pt

書式変更: ヘッダー, 行間 : 1 行

2. 進行管理

(1) 進行管理計画

本戦略における今後の進行管理計画を表8に示します。

基本戦略で設定可能な評価指標について、1年目で実績数値を把握しました。その値を踏まえ、~~次年度で踏まえて~~次年度の目標数値など決めていきます。~~この設定、検証を毎年進めるとともに進め、~~第1期の最終年度である2022年度に、~~生物多様性に関するアンケートを実施します。そのしました。~~アンケートの結果を踏まえ、市民への認識度や参画意欲の状況などを把握し、「生物多様性ふるさと川西戦略」の見直しを行います。~~見直しは、事業内容、評価指標およびその目標値などとして実施しました。~~2032年度までの第2期では、一人ひとりが川西市の素晴らしい自然を誇りに思い、それらを守り共生するまちを目指して川西市内で一体となって取り組みを行う必要があります。

(2) 進行の管理システム

本戦略の進行管理における事業の評価は、表8に示した計画に基づき、①庁内において評価する指標の各数値の集計の実施、②「~~(仮称)~~生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会」における内容のチェックと評価の2段階で進めます。これは、年度当初の「計画 (Plan)」→「実施 (Do)」と年度終わりの「評価 (Check)」と「見直し(Action)」と言う流れで管理するPDCA手法であり、検討結果は外部に公表していく予定です。

表8 「生物多様性ふるさと川西戦略」進行管理計画

基本戦略	評価する指標	第一期			第二期	
		2015年	2016年～	2022年	2023年～	2032年
1. 環境教育の充実による「ふるさと川西」意識の育成	◆児童・生徒を対象とした環境教育の実施 ◆教職員を対象とした研修の実施	◆各環境教育を受けた1年間の人数 ◆研修を受けた年間の教職員数	◆各指標の数値を集計し、次年度に向けての数値目標を設定する	◆達成度の検証と次年度の目標を設定する	◆生物多様性に関するアンケートを実施し、市民への認識度や達成状況を評価する	◆生物多様性に関し戦略の見直し(内容や評価基準)
2. 自然に関する情報発信による生物多様性保全の普及・啓発	◆広報やHPによる情報発信 ◆川西市によるモデル整備や景観計画による情報発信	◆1年間の各HPへのアクセス数 ◆1年間に紹介した自然環境の数 ◆2022年実施予定のアンケート結果				
3. 生物多様性保全の取り組みの強化	◆市民生活での生物多様性保全の活動の支援 ◆川西市による文化財の保全および生物多様性向上の事業の実施	◆2022年実施予定のアンケート結果 ◆新たな指標を設定	◆各指標の数値を集計し、次年度に向けての数値目標を設定する	◆達成度の検証と次年度の目標を設定する		
4. 各主体の連携による生物多様性保全活動の継続と拡大	◆川西市による生物多様性に被害を与える獣害対策などの実施 ◆市民、団体、企業などとの連携の構築 ◆兵庫県や市民団体との既存事業の継続	◆1年間に捕獲した有害鳥獣および外来動物の数 ◆1年間の情報交換などの実施回数 ◆1年間に支援したボランティア数 ◆1年間に実施した河川美化活動の回数				◆一人ひとりが川西市の素晴らしい自然を誇りに思い、それらを守り共生するまちを目指す

書式変更: フォント : 10.5 pt

書式変更: ヘッダー, 行間 : 1 行

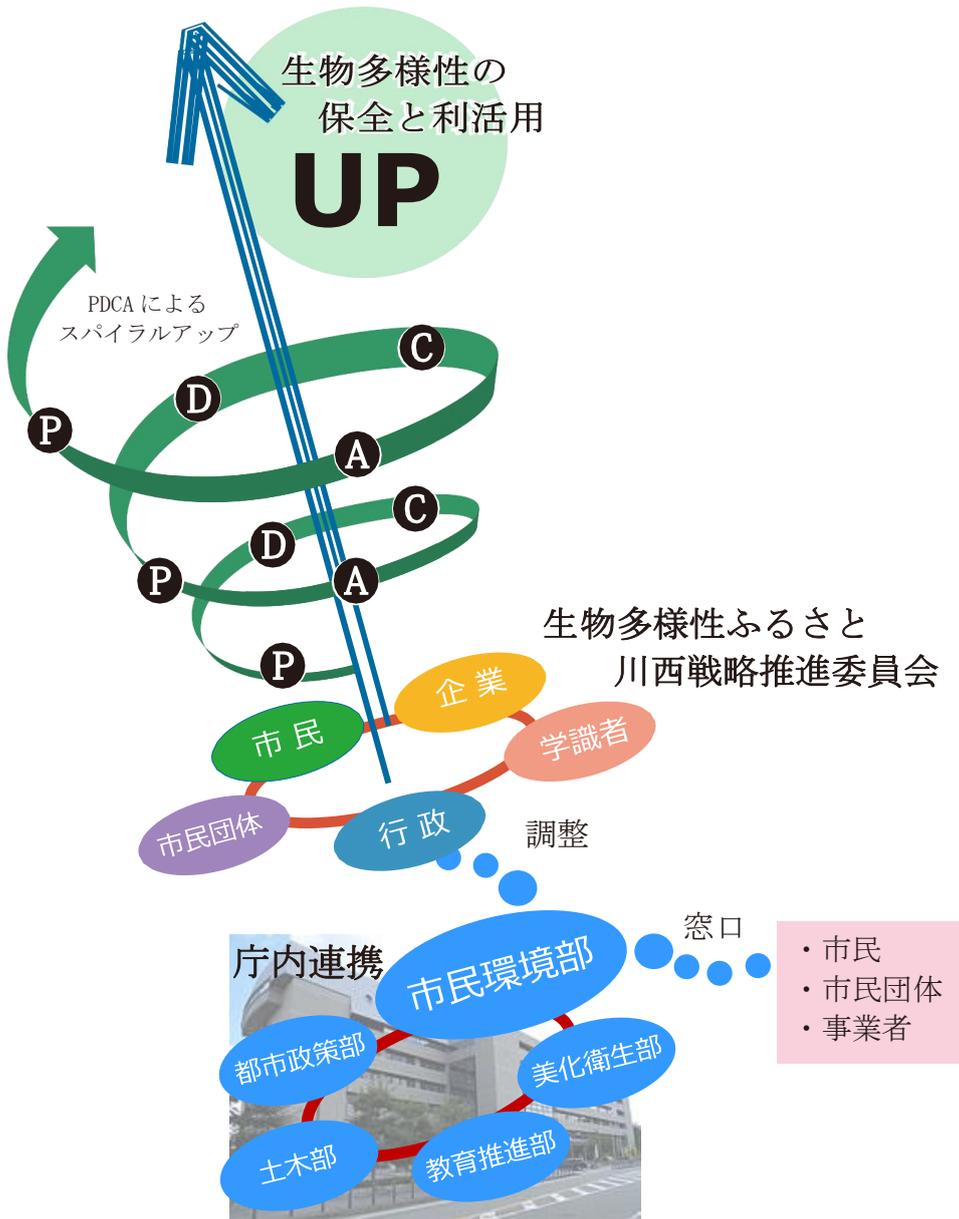


図 20 推進体制と進行管理イメージ

参考文献

◆生きもの情報など

『いのちは支えあう生物多様性国家戦略 2010』（環境省, 2010年）

[『生物多様性国家戦略 2012-2020～豊かな自然共生社会の実現に向けたロードマップ～』（環境省, 2012年）](#)

[『生物多様性国家戦略 2023-2030』（環境省, 2023年）](#)

[『次期生物多様性国家戦略素案の概要』（環境省）](#)

[『環境省レッドリスト 2020』（環境省, 2020年）](#)

[『兵庫県版レッドリスト 2011（地形・地質・自然景観・生態系）』（兵庫県, 2011年）](#)

[『兵庫県版レッドリスト 2012（昆虫類）』（兵庫県, 2012年）](#)

[『兵庫県版レッドリスト 2013（鳥類）』（兵庫県, 2013年）](#)

[『兵庫県版レッドリスト 2014（貝類・その他無脊椎動物）』（兵庫県, 2014年）](#)

[『兵庫県版レッドデータブック 2020（植物・植物群落）』（兵庫県, 2020年）](#)

[『兵庫県版レッドリスト 2021（昆虫類）』（兵庫県, 2021年）](#)

『河川水辺の国勢調査（鳥類両生類・爬虫類・哺乳類）』（国土交通省近畿地方整備局猪名川 河川事務所, 2006-環境データベース, 2013年）

『河川水辺の国勢調査（河川環境基図昆虫）』（国土交通省近畿地方整備局猪名川河川事務所, 2014-河川環境データベース, 2014年）

『河川水辺の国勢調査（植物魚類）』（国土交通省近畿地方整備局猪名川 河川事務所, 2010-環境データベース, 2017年）

『かわにし里山の自然と生き物』（川西市教育委員会, 1998年）

[『河川水辺の国勢調査（鳥類）』（国土交通省 河川環境データベース, 2018年）](#)

[『河川水辺の国勢調査（底生）』（国土交通省 河川環境データベース, 2018年）](#)

[『河川水辺の国勢調査（環境基図）』（国土交通省 河川環境データベース, 2020年）](#)

[『河川水辺の国勢調査（植物）』（国土交通省 河川環境データベース, 2020年）](#)

[『兵庫県の樹木誌』（兵庫県, 1996年）](#)

[『ひょうごの川・自然環境調査』（兵庫県, 2005年）](#)

『川西市国崎字小路におけるヒメボタルの生息状況調査及び保全措置にかかる研究報告書』（兵庫県立人と自然の博物館, 2005年）

『生息地の造成工事がヒメボタル個体群へ与える影響に関する研究報告書』（兵庫県立人と自然の博物館, 2006年）

[『ひょうごのいきもの・ふるさとを見守るなかま』（兵庫県立人と自然の博物館, 2010年）](#)

[『兵庫県におけるハバチ類の種多様性（自然環境モノグラフ1）』（兵庫県立人と自然の博物館, 2004年）](#)

[『兵庫県における鳥類の分布と変遷（自然環境モノグラフ2）』（兵庫県立人と自然の博物館, 2006年）](#)

[『兵庫県における大・中型野生動物の生息状況と人との軋轢の現状（自然環境モノグラフ3）』（兵庫県立人と自然の博物館, 2007年）](#)

書式変更: フォント : 10 pt

書式変更: 本文, 行間 : 倍数 0.06 li

『兵庫県の淡水魚(自然環境モノグラフ4)』(兵庫県立人と自然の博物館, 2008年)

『13年度地域環境調査』(兵庫県植生誌研究会, 1992年)

『生物多様性ひとくらパーク戦略』(兵庫県立一庫公園, 2011年)

『川西市景観MAP』(川西市)

『川西市史第二巻』(川西市, 1976年)

『川西第2回わがまち再発見写真集』(川西市, 2013年)

『かわにし里山の歴史自然と産業』(菅原, 2007年)『生き物』(川西市教育委員会, 1998年)

『15年間で著しく減少した川西市加茂地区のヒメボタル』(川西自然教室, 2010年)

~~『生息地の造成工事がヒメボタル個体群へ与える影響に関する研究報告書』(兵庫県立人と自然の博物館, 2006年)~~

~~『生物多様性ひとくらパーク戦略』(兵庫県立一庫公園, 2011年)~~

~~『第2回わがまち再発見写真集』(川西市, 2013年)~~

~~『ひょうごのいきもの・ふるさとを見守るなかま』(兵庫県立人と自然の博物館, 2010年)~~

~~『兵庫県における大・中型野生動物の生息状況と人との軋轢の現状(自然環境モノグラフ3)』(兵庫県立人と自然の博物館, 2007年)~~

~~『兵庫県における鳥類の分布と変遷(自然環境モノグラフ2)』(兵庫県立人と自然の博物館, 2006年)~~

~~『兵庫県におけるハバチ類の種多様性(自然環境モノグラフ1)』(兵庫県立人と自然の博物館, 2004年)~~

~~『兵庫県におけるヒメボタルの分布』(八木剛, 2007年)~~

~~『兵庫県の樹木誌』(兵庫県, 1996年)~~

~~『兵庫県の淡水魚(自然環境モノグラフ4)』(兵庫県立人と自然の博物館, 2008年)~~

~~『兵庫県の蝶』(畑政巳・近藤伸一, 2007年)~~

~~『兵庫県版レッドデータブック2011(生態系)』(兵庫県, 2011年)~~

~~『兵庫県版レッドデータブック2010(植物)』(兵庫県, 2010年)~~

~~『ひょうごの川・自然環境調査』(兵庫県, 2005年)~~

~~『13年度地域環境調査』(兵庫県植生誌研究会, 1992年)~~

~~『水辺現地調査(両生類他)』(国土交通省近畿地方整備局猪名川河川事務所, 2012年)~~

~~『水辺現地調査(魚類)』(国土交通省近畿地方整備局猪名川河川事務所, 2013年)~~

『未来につなげる国崎の自然エドヒガン群生林』(国崎クリーンセンター, 2012年)

『未来につなげる国崎の自然ヒメボタル飛翔林』(国崎クリーンセンター, 2013年)

『川西の歴史と産業』(菅原巖, 2007年)

『兵庫県におけるヒメボタルの分布』(八木剛, 2007年)

『兵庫県の蝶』(畑政巳・近藤伸一, 2007年)

『用水路に出た! オオサンショウウオ兵庫・川西』(水の生き物にゆーず, 2009年)

◆貴重性・外来性の判定

『改定・兵庫の貴重な自然環境省レッドリスト2020』(環境省, 2020年)

『兵庫県版レッドデータブック2003-レッドリスト2011(地形・地質・自然景観・生態系)』

(兵庫県, 2003, 2011年)

~~『外来生物法』(法律第78号, 2004)~~

~~『環境省動物・植物兵庫県版レッドリスト』(環境省, 2012(昆虫類))』(兵庫県, 2012年)~~

書式変更: フォント : (日) HG丸ゴシックM-PRO

書式変更: フォント : (日) HG丸ゴシックM-PRO

書式変更: フォント : (日) HG丸ゴシックM-PRO

『環境省動物・動物兵庫県版レッドリスト』(環境省,20122013(鳥類)) (兵庫県,2013年)

『兵庫県版レッドリスト2014(貝類・その他無脊椎動物)』(兵庫県,2014年)

『兵庫県版レッドデータブック2020(植物・植物群落)』(兵庫県,2020年)

『兵庫県版レッドリスト2022(昆虫類)』(兵庫県,2022年)

『特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律』(令和4年法律第42号による改正)

『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律』(令和4年法律第75号,1983年68号による改正)

『兵庫県我が国の生物多様性生態系等に悪影響被害を及ぼすおそれのある外来生物種リスト』(環境省,2015年)

『兵庫県の外来生物(ブラックリスト2010(2022改訂版))』(兵庫県,2010,2022年)

~~『兵庫の貴重な自然兵庫県版レッドデータブック2010(植物・植物群落)』(兵庫県,2010年)~~

~~『兵庫の貴重な自然兵庫県版レッドデータブック2012-2014(鳥類・昆虫類・貝類・その他無脊椎動物)』(兵庫県,2012~2014年)~~

『川西市文化財保護条例』(川西市,1966年)

◆重要な生態系の抽出根拠

『第5回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書』(環境省,2000年)

『川西市緑の基本計画』(川西市,2002年)

『兵庫県立自然公園条例』(兵庫県,1963年)

~~『特定植物群落』(環境庁,1979年)~~

~~『兵庫の貴重な自然兵庫県版レッドデータブック2010(植物・植物群落)』(兵庫県,2010年)~~

~~『兵庫の貴重な自然兵庫県版レッドデータブックレッドリスト2011(地形・地質・自然景観・生態系)』(兵庫県,2011年)~~

『兵庫県版レッドデータブック2020(植物・植物群落)』(兵庫県,2020年)

『川西市文化財保護条例』(川西市,1966年)

『北摂里山博物館構想』(兵庫県阪神北県民局,2011年)

◆地図情報

◆ヒメボタルの写真

兵庫県立人と自然の博物館八木剛氏のご協力をいただきました。

書式変更: フォント : 10 pt

書式変更: 本文, 行間 : 倍数 0.06 li

資料編

◇川西市の重要種一覧(植物・動物・生態系や自然景観など)

[◇市内の天然記念物](#)

◇川西市の外来種一覧(植物・動物)

◇川西市の重要な生態系・特徴的な自然環境

◇川西市の重要種一覧(植物)

分類	科名	和名	重要種の基準		分布を確認した文献							
			①	②	1	2	3	4	5	6	7	
シダ植物門	ハナヤスリ科	アカハナウラビ		B						○		
	ハナヤスリ科	ハマハナヤスリ		B						○		
	ミスウラビ科イノモトソウ科	ミスウラビヒメミスウラビ		C						○		○
	メシダ科	ヒカゲウラビ		B						○		
	ウラボシ科	クリハラソ		C						○		
種子植物門	アブラナ科	コイヌガラシ	NT	C						○		
	バラ科	エドヒガン		C	○		○	○	○	○	○	○
	マメ科	ミソナオシ		BA			○					
	グミ科	アリマグミ		C			○					
	ツツジ科	サツキ		A		○	○					
	カカイモ科キョウチクトウ科	コカモメツル		C			○					○
	ヒルガオ科	マメダオシ	CR	EX			○					
	シソ科	ナツノタムラソウ		A							○	
	オオバコ科	アブノメ		C						○		
	コマノハタサ科オオバコ科	イヌノフグリ	VU	C						○		
	コマノハタサ科オオバコ科	カワヂシャ	NT	C								○
	スイカズラ科	チョウジガマスミ	NT				○					
	スイカズラ科	オベテ		B								
	キキョウ科	キキョウ	VU		○							
	キク科	オグルマ		C						○		
	キク科	ヌマダイコン		C						○		
	キク科	ハバヤマボクチ		A			○					
	イハラモ科トチカガミ科	トリゲモ	VU	調△			○					
	アヤメ科	ノハナショウブ		C	○							
	イネ科	ホソガヤ		C						○		
	カヤツリグサ科	ヒロードスゲ		B			○					
	ラン科	エビネ	NT	C			○					
	ラン科	キンラン		C			○					
ラン科	キンラン	VU	C			○						
ムクロジ科	ムクロジ		C						○		○	

※種の分類体系及び学名は、概ね「平成24年度版河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（国土交通省、2012年）に従った。

※絶滅危惧種のカテゴリーを以下に示す。

①国 RL…『環境省動物・植物レッドリスト 2020』（環境省、2012、2020年）

EX：絶滅「我が国ではすでに絶滅したと考えられる種」

EW：野生絶滅「飼育・栽培下、あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種」

CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類「絶滅の危機に瀕している種」

CR：絶滅危惧ⅠA類「ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種」

EN：絶滅危惧ⅠB類「ⅠA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種」

VU：絶滅危惧Ⅱ類「絶滅の危険が増大している種」

NT：準絶滅危惧「現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種」

DD：情報不足「評価するための情報が不足している種」

②兵庫県RDB…『兵庫の貴重な自然兵庫県版レッドデータブック2019LP：絶滅のおそれのある地域個体群「地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの」』

②兵庫県RDB…『兵庫県版レッドデータブック2020（植物・植物群落）』（兵庫県、2019、兵庫県、2020年）

EX：絶滅「かつては生息・生育していたと考えられるが、兵庫県では近年、現存が確認できなかった種」

EW：野生絶滅「飼育・栽培下、あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種」

A：Aランク「兵庫県内において絶滅の危機に瀕している種などあり、緊急の保全対策、厳重な保全対策の必要な種」

B：Bランク「兵庫県内において絶滅の危険が増大している種などあり、極力生息環境、自生地などの保全が必要な種」

C：Cランク「兵庫県内において存続基盤が脆弱な種」

調：要調査種「本県兵庫県での生息・生育の実態がほとんどわからないことなどにより、現在の知見では貴重性の評価ができないが、今後の調査によっては貴重種となる可能性のある種」

注：要注目種「消滅のおそれのあるものや貴重なものに準ずるものとして保全に配慮すべきもの」

※分布を確認した文献

1. 『かわにし里山の自然と生き物』（川西市教育委員会、1998年）

2. 『ひょうごの川・自然環境調査』（兵庫県、2005年）

3. 『生物多様性ひとくらパーク戦略』（兵庫県立一庫公園, 2011年）
4. 『兵庫県の樹木誌』（兵庫県, 1996年）
5. 『兵庫県版レッドデータブック 20192020（植物・植物群落）』（兵庫県, 2019, 2020年）
6. 『平成13年度地域環境調査』（兵庫県植生誌研究会, 1992年）
7. 『河川水辺の国勢調査（河川環境基図）』（国土交通省 河川環境データベース, 2022年）、『河川水辺の国勢調査（植物）』（国土交通省 近畿地方整備局猪名川河川事務所, 2010 河川環境データベース, 2020年）

- 書式変更：フォント：10 pt
- 書式変更：本文、行間： 倍数 0.06 li
- 書式変更：フォント：（英）HG丸ゴシックM-PRO,（日）HG丸ゴシックM-PRO
- 書式変更：フォント：（英）HG丸ゴシックM-PRO,（日）HG丸ゴシックM-PRO
- 書式変更：フォント：（英）HG丸ゴシックM-PRO,（日）HG丸ゴシックM-PRO
- 書式変更：フォント：（英）HG丸ゴシックM-PRO,（日）HG丸ゴシックM-PRO
- 書式変更：フォント：（英）HG丸ゴシックM-PRO,（日）HG丸ゴシックM-PRO

◇川西市の重要種一覧(動物)

1/3

分類群	科名	和名	重要種の基準				生物の抽出に使った文献等													
			①	②	③	④	1	2	3	4	5	6	7	8	9					
哺乳類	トガリネズミ科	ニホンシネズミ				捕														
	キクガシラコウモリ科	キクガシラコウモリ				捕														
	キクガシラコウモリ科	コキクガシラコウモリ				捕														
	ヒナコウモリ科	ヒナコウモリ				捕														
	クマ科	ツキノウグマ			LP	注														
鳥類	ペリカン科	ヨシゴイ			NT	A				○										
	ペリカン科	ササゴイ				C				○										○
	ペリカン科	チュウサギ			NT	C	○			○										
	カモ科	トモエカモ				VU	C													
	カモ科	コハクチョウ				C	○													
	カモ科	オシドリ			DD	B	○				○									
	タカ科	ミサゴ				NT	A				○									
	タカ科	オオタカ		○	NT	B														
	タカ科	クマタカ		○	EN	A														
	タカ科	ハチクマ			NT	B					○									
	タカ科	ハイタカ			NT	C					○									
	タカ科	ノスリ				B					○									
	タカ科	クアシノスリ				B					○									
	タカ科	サシバ				VU	B				○									
	タカ科	ツミ				B														
	ヨタカ科	ヨタカ				NT	A													
	ハヤブサ科	ハヤブサ		○	VU	C					○									
	ハヤブサ科	オオハヤブサ				C														
	キジ科	ヤマドリ				注					○									
	チドリ科	タマシギ				VU	B	○												
	チドリ科	イカルチドリ				B														
	チドリ科	ケリ			DD															
	チドリ科	イソシギ				C														○
	チドリ科	アオアシシギ				B														○
	チドリ科	オクシギ				B	○													
	チドリ科	オシギ				B	○													
	チドリ科	アオサギ				B	○							○						
	チドリ科	ヤマシギ				B														○
	チドリ科	タカフシギ			VU	B														
	ブッポウソウ科	ヤマセミ				B					○									
	ブッポウソウ科	カワセミ				注	○													○
	キツツキ科	アリスイ				B								○						
	キツツキ科	アオケラ				C					○									○
	キツツキ科	アカケラ				C					○									○
	スズメ科	サンショウクイ			VU	C	○				○									
	スズメ科	カウカラス				C														
	スズメ科	カヤクグリ				A					○									○
	スズメ科	ルリビタキ				A	○				○									○
	スズメ科	ノビタキ				A	○				○									○
	スズメ科	オオヨシキリ				注	○				○									○
	スズメ科	メボソムシクイ				B	○				○									○
	スズメ科	キビタキ				注	○				○									○
	スズメ科	オオルリ				注	○				○									○
	スズメ科	コサメビタキ				C	○				○									○
	スズメ科	コガラ				注	○				○									○
	スズメ科	アオシ				A	○				○									○
	スズメ科	クロシ				B					○									○
	スズメ科	オオマシコ				捕	○													
	スズメ科	コムドリ				注														○
	スズメ科	コマドリ				B														○
スズメ科	コヨシキリ				C															
スズメ科	イスカ				捕															
スズメ科	ホオアカ				A															
スズメ科	ノシコ			NT	A															
アマツバメ科	ヒメアマツバメ				B														○	
ツル科	クイナ				捕														○	
サイチョウ科	ヤツガシラ				捕														○	
イシガハシ科	ニホンイシガハシ			NT	C	○				○										
スッポン科	ニホンスッポン			DD	捕					○										
タカチホヘビ科	タカチホヘビ				C														○	
ナミヘビ科	シロマダラ				C					○									○	
ナミヘビ科	ヒバカリ				注					○									○	
ナミヘビ科	シムグリ				注					○									○	
ヤモリ科	ニホンヤモリ				注					○									○	
両生類	オオサンショウウオ科	オオサンショウウオ	○		VU	B	○			○										
	イモリ科	アカハライモリ			NT	注	○													
	ヒキガエル科	ニホンヒキガエル				C				○										
	アカガエル科	タゴガエル				C				○										
	アカガエル科	トノサマガエル			NT		○			○										
	アカガエル科	ツチガエル				C	○			○									○	
	アカガエル科	シュレーゲルアオガエル				C	○			○										
	アオガエル科	ホリアオガエル				B				○										
	アオガエル科	カシカガエル				C				○										
	ウツギ科	ニホノウツギ			EN	C													○	
魚類	コイ科	ゲンゴロウブナ			EN														○	
	コイ科	ヤリタナゴ			NT	B													○	
	コイ科	ハス				VU													○	
	コイ科	アブラハヤ				C													○	
	コイ科	カウヒガイ			NT	C													○	
	コイ科	コウライモロコ																	○	
	ドジョウ科	ドジョウ			DD	注	○												○	

書式変更: フォント : 1 pt
書式変更: 本文, 行間 : 倍数 0.06 li

書式変更: フォント: (日) HG丸ゴシックM-PRO

書式変更: フォント: (日) HG丸ゴシックM-PRO

書式変更

◇川西市の重要な生態系や自然景観など

名称	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
黒川大峰の妙見山山頂の里山林構成種個体群	A	-	B	-	-	-	-	○	○	-	-
黒川大峰の妙見の森のブナ個体群	A	C	-	-	-	-	-	-	○	-	-
黒川周辺の日本一の里山(クヌギ群落)	A	A	-	-	-	○	○	○	○	共生ゾーン	○
黒川大峰大士の桜の森のエドヒガン個体群	A	B	-	-	-	-	○	-	○	-	-
黒川大原などの妙見の森ケーブル周辺のエドヒガン個体群とクヌギ群落	A	B	-	-	-	-	○	○	○	共生ゾーン	○
国崎の国崎クリーンセンターのエドヒガン個体群とクヌギ群落	A	B	-	-	-	-	○	○	○	レクリエーションゾーン	○
知明湖周辺のクヌギ群落	A	A	-	-	-	○	○	-	○	レクリエーションゾーン	-
国崎の一庫公園のエドヒガン個体群	A	A	-	-	-	○	○	○	○	レクリエーションゾーン	○
黒川尾上の企業の森のエドヒガン個体群やクヌギ群落	A	-B	-	-	-	-	○	-	○	-	-
清和台東のまち山のシロバナウンゼンツツジ個体群	-	-	-	-B	-C	-	○	-	-	景観ゾーン	-
水明台のまち山のエドヒガン個体群	-	B	-C	-	-C	-	○	○	-	景観ゾーン	○
加茂の段丘崖のエノキムクノキ群落	-	-	-	-	-	-	-	-	-	市街地貴重な緑	-
平野の多太神社のコジイ-カナメモチ群落	-	-C	-	-	-	-	-	-	-	-	○
笹部の平野神社のアラカシ群落	-	-	-	-	-	-	-	○	-	共生ゾーン	-
満願寺町の満願寺のコジイ-カナメモチ群落	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
火打の八坂神社のクスノキ群落	-	-	-	-	-	-	-	-	-	市街地貴重な緑	-
小戸の小戸神社のクスノキ群落	-	-	-	-	-	-	-	○	-	重点緑化地区	-
加茂の鴨神社のエノキムクノキ群落	-	-	-	-	-	-	-	-	-	重点緑化地区	-
一庫の知明湖(一庫ダム)	-	-	C	-	-	-	-	○	-	レクリエーションゾーン	-
笹部の初谷川のサツキ個体群	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-
東駐野の一庫大路次川のオオサンショウウオ	-	-	-	-	-	-	○	-	-	景観ゾーン	-
鼓が滝のユキヤナギ個体群	-	-	-	-	-	-	-	○	-	レクリエーションゾーン	-
加茂、東久代の猪名川河川敷の河川植生	-	-	-	-	-	-	○	-	-	レクリエーションゾーン	-
出在家町(川西北小学校横)の市街地水路の水生物群	C	-	-	-	-	-	○	-	-	重点緑化地区	-
笹部の棚田のチガヤ群落	-	-	-	-	-	-	-	-	-	共生ゾーン	-
赤松の棚田のチガヤ群落	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※指定状況を確認した文献

①『兵庫県の貴重な自然兵庫県版レッドリストデータブック2011(生態系)』(兵庫県, 2011年)

②『兵庫県の貴重な自然兵庫県版レッドデータブック2024(植物群落)』(兵庫県, 2024年)

③『兵庫県の貴重な自然兵庫県版レッドリストデータブック2011(自然景観)』(兵庫県, 2011年)

④『兵庫県の貴重な自然兵庫県版レッドリストデータブック2011(地形)』(兵庫県, 2011年)

⑤『兵庫県の貴重な自然兵庫県版レッドリストデータブック2011(地質)』(兵庫県, 2011年)

⑥『第5回基礎調査特定植物群落調査報告書』(環境庁, 昭和54(2000)年)

⑦兵庫県版レッドデータブックなどにより指定される絶滅危惧種の生育・生息を確認している場所

⑧川西市の天然記念物(川西市文化財保護条例)

⑨兵庫県立自然公園(兵庫県立自然公園条例)

⑩『川西市緑みどりの基本計画』(川西市, 2002年)による指定

⑪『北摂里山博物館構想』(兵庫県阪神北県民局, 2011年)による指定

◇市内の天然記念物

区分	名称	所在地	所有者・管理者	指定・登録年月日
県指定	小戸神社の大クス	小戸 1 丁目 13-17	小戸神社	昭和 41 年 3 月 22 日
市指定	満願寺の樹林	満願寺町 7	満願寺	昭和 56 年 1 月 28 日
	平野神社社叢	笹部 2 丁目 35	平野神社	昭和 60 年 11 月 29 日
	慶積寺のカヤ	一庫 3 丁目 24	慶積寺	昭和 60 年 11 月 29 日
	黒川字奥瀧谷エドヒガン群落	黒川字奥瀧谷 1-1 ほか	能勢電鉄株式会社	平成 23 年 9 月 9 日
	水明台 1 丁目エドヒガン群落	水明台 1 丁目 7-1 ほか	市	平成 23 年 9 月 9 日
	国崎字小路エドヒガン群落	国崎字小路 13 ほか	猪名川上流広域ごみ処理施設組合	平成 27 年 3 月 31 日
	国崎字知明・卯ノ戸エドヒガン群落	国崎字知明・卯ノ戸地内	県	平成 27 年 9 月 4 日
	黒川字奥山ブナ群落（妙見山のブナ林）	黒川字奥山 1-8 の一部	真如寺（大阪府能勢町）	平成 28 年 3 月 25 日
	黒川字奥瀧谷台場クヌギ群落	黒川字奥瀧谷 16 の一部	能勢電鉄株式会社	平成 29 年 5 月 25 日
	清和台東 3 丁目コナラ群落	清和台東 3 丁目 3-1 ほか	市	平成 30 年 4 月 19 日
	一庫字唐松エドヒガン群落	一庫字唐松 4-1 の一部	（独）水資源機構一庫ダム管理所	令和 3 年 4 月 22 日
	黒川字大谷台場クヌギ群落	黒川字大谷 4-1 ほか	個人	令和 3 年 4 月 22 日

書式変更：フォント：10 pt

書式変更：本文、行間：倍数 0.06 li

表の書式変更

◇川西市の外來種一覧(植物)

1/3

分類	科名	和名	国・県の指定		分布を確認した文献				
			①	②	1	2	3	4	5
シダ植物門	アカウキクサ科	外来アソラ類	特	Z					○
種子植物門	クルミ科	シナサウグルミ		Y					○
	タデ科	シャクチリソバ	○	Y					○
	タデ科	ツルドクダミ	○				○		
	タデ科	ヒメスイバ	○				○		○
	タデ科	アレチキシギシ				○	○		○
	タデ科	ナガバキシギシ	○			○	○		○
	タデ科	エゾノキシギシ	要				○		○
	ヤマゴボウ科	ヨウシュヤマゴボウ					○	○	○
	ヤマゴボウ科	ヤマゴボウ					○		
	オシロイバナ科	オシロイバナ					○		○
	ザクロソウ科	クルバザクロソウ					○		○
	ナデシコ科	オランダミミナグサ			○		○		○
	ナデシコ科	ムシトリナデシコ	○				○		○
	ナデシコ科	シロバナマンテマ					○		○
	ナデシコ科	コハコバ			○		○		○
	アカザ科	アカザ					○		○
	アカザ科	コアカザ					○		○
	アカザ科	アリタソウ					○		○
	ヒユ科	ホソバツルノゲイトウ							○
	ヒユ科	ナガエツルノゲイトウ	特	Z					○
	ヒユ科	ホソアオゲイトウ					○		○
	ヒユ科	ホナガイヌヒユ					○		○
	クシ科	ナガミヒナグシ					○		○
	アブラナ科	セイヨウカラシナ	○	Y			○	○	○
	アブラナ科	カラクサナズナ							○
	アブラナ科	マメグンハイナズナ					○		○
	アブラナ科	オランダガラシ	要		○		○	○	○
	アブラナ科	カキネガラシ							○
	ベンケイソウ科	メキシコマンネングサ							○
	ベンケイソウ科	ツルマンネングサ							○
	バラ科	オキシムシロ							○
	マメ科	イタチハギ	要	Z			○		○
	マメ科	アレチヌスビトハギ	○				○		○
	マメ科	イリノイヌスビトハギ					○		○
	マメ科	コムツブウマゴヤシ					○		○
	マメ科	ハリエンジュ	要	Z			○	○	○
	マメ科	コムツブツメクサ					○		○
	マメ科	ムラサキツメクサ					○		○
	マメ科	シロツメクサ					○		○
	マメ科	ナヨクサフジ	○						○
	カタバミ科	イモカタバミ							○
	カタバミ科	ムラサキカタバミ					○		○
	カタバミ科	オウチカタバミ					○		○
	フウソウ科	アメリカフウロ					○		○
	トウダイグサ科	シナアブラギリ					○		○
	トウダイグサ科	オオニシキソウ					○		○
	トウダイグサ科	コニシキソウ					○		○
	トウダイグサ科	ナンキンハゼ	○	Z					○
	ニガキ科	シンジュ	○				○		○
	カエデ科	トウカエデ							○
アオイ科	ムクゲ					○		○	
アオイ科	アメリカキンゴジカ					○		○	
ウリ科	アレチウリ	特	Z			○		○	
ミソハギ科	ホソバヒメミソハギ							○	
アカバナ科	アメリカミスキンバイ							○	
アカバナ科	メマツヨイグサ					○		○	
アカバナ科	オオマツヨイグサ					○		○	
アカバナ科	コマツヨイグサ	要	Y					○	
アカバナ科	ユウグショウ							○	
アカバナ科	マツヨイグサ					○		○	
アカバナ科	アレチマツヨイグサ					○		○	
セリ科	マツバゼリ							○	
モクセイ科	トウネズミモチ	要	Z					○	
キョウチクトウ科	ツルニチニチソウ	○				○		○	
ヒルガオ科	アメリカネナシカズラ	要				○		○	
ヒルガオ科	マルバヒコウ					○		○	
ヒルガオ科	アメリカアサガオ	○						○	
ヒルガオ科	マメアサガオ					○		○	
ヒルガオ科	ホシアサガオ	○						○	
ヒルガオ科	ソライロアサガオ							○	

分類	科名	和名	国・県の指定		分布を確認した文献				
			①	②	1	2	3	4	5
	クマツツラ科	ヤナギハナガサ	○				○		○
	クマツツラ科	アシチハナガサ	○	Y			○		○
	シノ科	ヒメオドリコソウ			○		○		○
	シノ科	ヨウシュハッカ							○
	シノ科	オランダハッカ							○
	シノ科	イヌハッカ					○		
	ナス科	ヒロハフウリンホオズキ							○
	ナス科	アメリカイヌホオズキ					○		○
	ナス科	ワルナスビ					○		○
	ナス科	テリミノイヌホオズキ					○	○	○
	ナス科	タマサンゴ					○		
	コマノハグサ科	マツバウンラン					○		○
	コマノハグサ科	アメリカアゼナ					○		○
	コマノハグサ科	タケトアゼナ							○
	コマノハグサ科	ピロードモウスイカ					○		○
	コマノハグサ科	オオカワヂシャ	特	Z			○	○	○
	コマノハグサ科	タチヌノフグリ					○	○	○
	コマノハグサ科	オオイヌノフグリ			○		○		○
	ノウゼンカズラ科	キキサゲ					○		○
	オオハコ科	ヘラオオハコ	要				○		○
	オオハコ科	タチオオハコ							○
	タヌキモ科	エフクシタヌキモ	特	Z					○
	キキョウ科	ヒナキキョウソウ							○
	キキョウ科	キキョウソウ							○
	キク科	セイヨウノコギリソウ					○		
	キク科	オオブタクサ	要	Z			○		○
	キク科	ブタクサ	要				○		○
	キク科	クソニンジン					○		○
	キク科	キダチコンギク							○
	キク科	ヒロハボウキギク					○		○
	キク科	ボウキギク					○		○
	キク科	コバノセンダングサ					○		○
	キク科	アメリカセンダングサ	要				○		○
	キク科	コセンダングサ	要			○	○	○	○
	キク科	シロバナセンダングサ					○		○
	キク科	アシチノギク					○		○
	キク科	オオアシチノギク	要			○	○		○
	キク科	コスモス			○				○
	キク科	マメカミツレ							○
	キク科	ベニバナボロギク					○	○	○
	キク科	アメリカタカサブロウ					○		○
	キク科	ダントボロギク					○		○
	キク科	ヒメムカシヨモギ				○	○		○
	キク科	ハルシオン					○		○
	キク科	ハキダメギク					○		○
	キク科	タチチヂコグサ					○		○
	キク科	チヂコグサモドキ					○		○
	キク科	ウラシロチヂコグサ					○		○
	キク科	イヌキクイモ					○		○
	キク科	キクイモ		Y			○		○
	キク科	ヒマワリモドキ属							○
	キク科	フタナ					○		○
	キク科	トゲチシャ							○
	キク科	ノボロギク					○		○
	キク科	セイタカアワダチソウ	要	Y		○	○	○	○
	キク科	オニノゲシ					○		○
	キク科	ヒメジョオン	要			○	○		○
	キク科	ハラハヒメジョオン					○		○
	キク科	セイヨウタンポポ	要				○		○
	キク科	オオオナモミ	要	Y		○	○		○
	キク科	メリケントキンソウ		Z			○		○
	トチカガミ科	オオカナダモ	要	Z			○		○
	トチカガミ科	コカナダモ	要	Y					○
	ユリ科	ハナニラ	○						○
	アヤメ科	キショウブ	要	Y	○		○		○
	アヤメ科	ニワゼキショウ					○		○
	アヤメ科	ヒメヒオウギスイセン	○						○
	イグサ科	コゴメイ	○						○
	ツユクサ科	ノハカタカラクサ	要						○

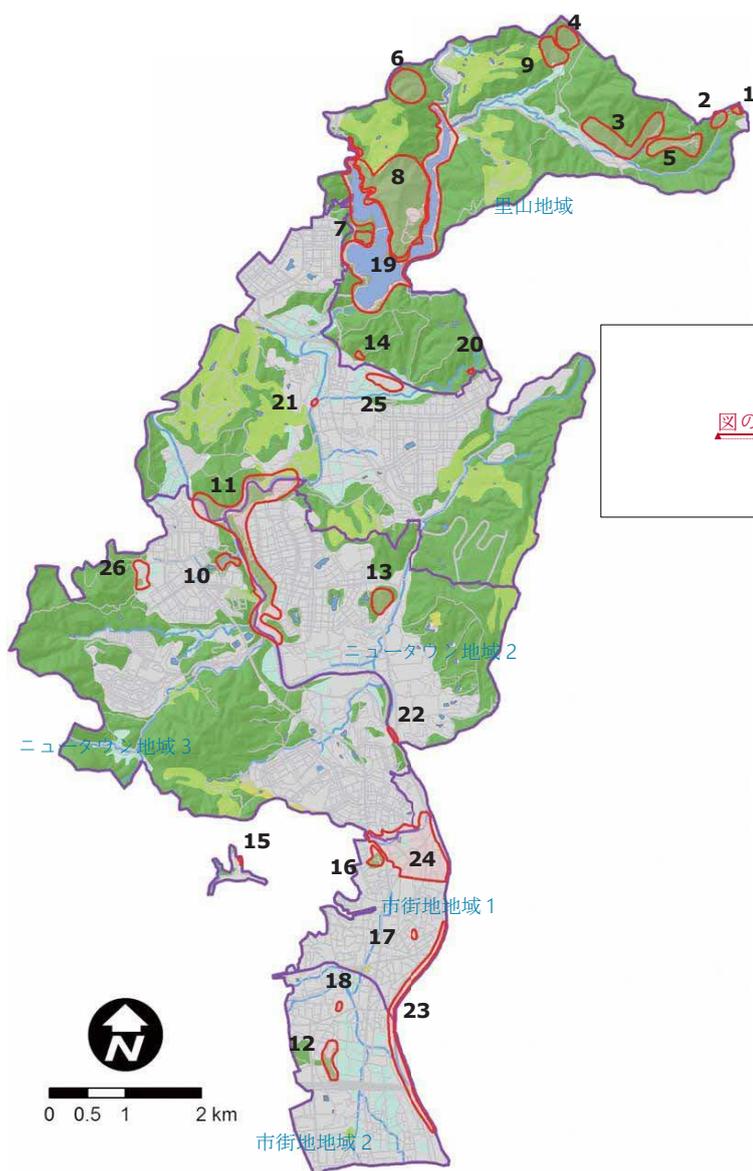
- 6. 『河川水辺の国勢調査（鳥類）』（国土交通省近畿地方整備局猪名川河川事務所、2006年）
- 7. 『水辺現地調査（両生類他・爬虫類・哺乳類）』（国土交通省 河川環境データベース、2013年）、『河川水辺の国勢調査（昆虫）』（国土交通省近畿地方整備局猪名川河川事務所、2012 河川環境データベース、2014年）
- 8. 『河川水辺現地の国勢調査（魚類）』（国土交通省近畿地方整備局猪名川河川事務所、2013 河川環境データベース、2017年）、『河川水辺の国勢調査（鳥類）』（国土交通省 河川環境データベース、2018年）

- 書式変更：フォント：（日）HG丸ゴシックM-PRO

書式変更: フォント : 10 pt

書式変更: 本文, 行間 : 倍数 0.06 li

川西市の重要な生態系・特徴的な自然環境



コメントの追加 [菊池20]: 本編に合わせて情報修正中
地域線が引かれているため図の改訂が必要

図の改訂

書式変更: フォントの色: 赤

書式変更: 中央揃え

書式変更: フォント: 10 pt

書式変更: 本文、行間: 倍数 0.06 li

◆日本一の里山とその周辺の森林環境	
1	黒川大峰の妙見山山頂の里山林構成種個体群
2	黒川奥山の妙見の森のブナ個体群
3	黒川周辺の日本一の里山(クヌギ群落)
4	黒川大土の桜の森のエドヒガン個体群
5	黒川大原などの妙見の森ケーブル周辺のエドヒガン個体群とクヌギ群落
6	国崎の国崎クリーンセンターのエドヒガン個体群
7	知明湖周辺のクヌギ群落
8	国崎の一庫公園のエドヒガン個体群
9	黒川尾上の企業の森のエドヒガン個体群やクヌギ群落
◆ニュータウン、市街地の森林環境	
10	清和台東のまち山のシロバナウンゼンツツジ個体群
11	水明台のまち山のエドヒガン個体群
12	加茂の段丘崖のエノキムクノキ群集
◆神社の社叢林	
13	平野の多太神社のコジイ-カナメモチ群集
14	笹部の平野神社のアラカシ群落
15	満願寺町の満願寺のコジイ-カナメモチ群集
16	火打の八坂神社のクスノキ群落
17	小戸の小戸神社のクスノキ群落
18	加茂の鴨神社のエノキムクノキ群集
◆河川、水辺環境	
19	一庫の知明湖(一庫ダム)
20	笹部の初谷川のサツキ個体群
21	東睦野の一庫大路次川のオオサンショウウオ
22	鼓が滝のユキヤナギ個体群
23	猪名川河川敷の河川植生
24	出在家町(川西北小学校横)~キセラ川の市街地水路の水生生物群
◆棚田環境	
25	笹部の棚田のチガヤ群落
26	赤松の棚田のチガヤ群落

1

黒川大峰の妙見山山頂の里山林構成種個体群 環境区分: 樹林(里山林)



1 概要

妙見山山頂には、日蓮宗関西唯一の霊場「能勢妙見」がある。里山林や大阪府側に残るブナ林などの豊かな自然を享受できる。駐車場や展望台からの眺めもすばらしい。

2 貴重な種や環境を特徴づける種

里山林構成種、ブナ林構成種

3 関連団体・施設

—

4 保全制度・指定など

県 RDB（生態系：A ランクの中生態系に包含・自然景観：B ランク）、自然公園（県）

5 保全・活用

当該地は、優れた自然景観として県のレッドデータブックに指定されている。兵庫県側の里山林と大阪府側のブナ林の景観をセットで眺望することができ、その対比を楽しめる場所であるが、里山林の前面にスギの植林が分布しており、兵庫県側の市域に特徴的なクヌギ林からなる里山景観を見渡す障害となっている。

2 黒川奥山のブナ个体群

環境区分: 樹林(里山林)



1 概要

兵庫県と大阪府境に位置する妙見山では、大阪府側にのみブナ林が分布しているとされてきたが、調査の結果ブナ林は、一部は兵庫県川西市域内にあることが判明した。ブナ林の一部およびその周辺域に散在するブナ个体群は生態系の多様性からも大変重要である。

2 貴重な種や環境を特徴づける種

ブナ（植物）

3 関連団体・施設

能勢電鉄株式会社、川西里山クラブ

4 保全制度・指定など

県 RDB（生態系：A ランクの中生態系に包含・植物群落：C ランク）、自然公園（県）

5 保全・活用

川西市域のブナ林については、レッドリスト、天然記念物などの指定はまだされていない。ブナ林内の歩道整備、照葉樹の除伐やブナ個体群の整備など、ブナ林の育成に向けた企業と市民団体の連携による取り組みの推進が望まれる。



ブナ林の林床



ブナの巨木

3 黒川周辺の日本一の里山(クヌギ群落) 環境区分:樹林(里山林)



1 概要

クヌギの優占する夏緑低～中林。一庫炭・池田炭とよばれる茶道用高級炭の生産が今なお続けられており、8～10年周期の輪伐により伐採年の異なる植分がパッチワーク状に広がる。



2 貴重な種や環境を特徴づける種

台場クヌギ、エドヒガン(植物)、ヒロオビミドリシジミ、オオムラサキ、ギフチョウ、スジボソヤマキチョウ、クロヒカゲモドキ、オオクワガタ、アカマダラハナムグリ、クロカナブン、ヒメボタル、ゲンジボタル(昆虫類)

3 関連団体・施設

NPO 法人 ひょうご森の倶楽部など

4 保全制度・指定など

県 RDB(生態系:A ランクの中生態系に包含・植物群落:A ランク)、特定植物群落(国)自然公園(県)、北摂里山博物館(県)、共生ゾーン(市)

5 保全・活用

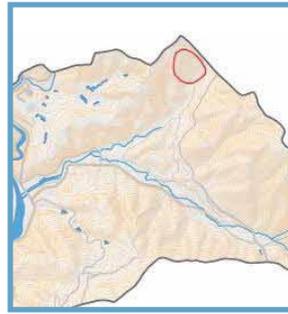
当該地のクヌギ林は、生きた里山林として価値があるだけでなく、生物多様性を維持するうえで重要である。また、地域の歴史・文化・自然を学ぶ環境学習・生涯学習の場としても貴重である。



4

黒川大土の桜の森のエドヒガン个体群

環境区分:樹林(里山林)



1 概要

エドヒガンの大きな個体がまとまって生育している。開花期の景観が素晴らしく、地区の名所のひとつになっている。

2 貴重な種や環境を特徴づける種

エドヒガン、台場クヌギ(植物)

3 関連団体・施設

菊炭友の会

4 保全制度・指定など

県RDB(生態系:Aランクの中生態系に包含・植物群落:Bランク)、自然公園(県)

5 保全・活用

市民団体が主体となり、つる植物が巻きつくエドヒガンやササ類に埋没する台場クヌギの救出など、地域のシンボル種を守る取り組みが里山整備の一環として行われている。整備した里山は黒川・桜の森として市民に広く開放されており、炭焼き体験、自然体験など生涯学習・環境学習の場としても活用されている。

当該地は、生物多様性の保全と利用に向けた先進的な取り組みが行われている地域である。



台場クヌギの育成



自然体験



炭焼き体験

5

黒川大原などの妙見の森ケーブル周辺のエドヒガン個体群とクヌギ群落

環境区分：樹林(里山林)



1 概要

妙見の森ケーブル北側の斜面にはエドヒガンが比較的多く見られるクヌギ群落が分布している。また、エドヒガンの大きな個体が見られる桜谷は市の天然記念物に指定されている。

2 貴重な種や環境を特徴づける種

エドヒガン、クヌギ（植物）

3 関連団体・施設

能勢電鉄株式会社、川西里山クラブ

4 保全制度・指定など

県RDB（生態系：Aランクの中生態系に包含・植物群落：Bランク）、自然公園（県）、北摂里山博物館（県）、天然記念物（市）、共生ゾーン（市）



5 保全・活用

企業と市民団体が連携し、生物多様性に富む里山林整備を行うほか、エドヒガンの保全を実施している。シカの採食による下層植生の衰退（不嗜好性植物のニシノホンモンジスゲが目立つ林床）やカシノナガキクイムシによるナラ枯れといった、近年注目される問題にも、防鹿柵や粘着シートの設置によりいち早く対応している。また、市民や小学生の生涯学習・環境学習の場としても活用されており、普及・啓発活動へも注力されている。当該地は、生物多様性の保全と利用に向けた先進的な取り組みが行われている地域である。



不嗜好性植物が優占する

6 国崎の国崎クリーンセンターのエドヒガン個体群 環境区分：樹林(里山林)



1 概要

市域におけるエドヒガンの最も大きな群生地である。若い個体が大半を占めている。まとまって生育しているため開花期の景観が素晴らしい。ヒメボタルの生息地でもある。

2 貴重な種や環境を特徴づける種

エドヒガン、台場クヌギ（植物）、ヒメボタル（昆虫類）



台場クヌギ

炭焼痕跡

間歩

3 関連団体・施設

国崎クリーンセンター 環境学習館ゆめほたる

4 保全制度・指定など

県 RDB（生態系：A ランクの中生態系に包含・植物群落：B ランク）、自然公園（県）、北摂里山博物館（県）、天然記念物※（市）、レクリエーションゾーン（市）※2014 年申請

5 保全・活用

シカが高密度に生息し、下層植生が衰退している。エドヒガン林の持続的な存続のため、競合する高木種の伐採が実施されるほか、防鹿柵の設置や地域性苗木を導入し、異齢林化を進める取り組みが検討されている。



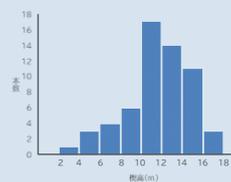
シカによる樹皮はぎ



シカの糞



下層植生の衰退



エドヒガンの樹高階分布
2m 以下の幼木が存在していない。また、エドヒガンに限らず、林床には低木や草があまり見られない。これらはすべて林内に生息するシカの採食によるものである。

書式変更：フォント：10 pt

書式変更：本文、行間： 倍数 0.06 li

7 知明湖周辺のクヌギ群落

環境区分:樹林(里山林)



1 概要

クヌギの優占する夏緑林が広がっている。知明湖周辺での散策やハイキング、自然探勝を楽しむためには欠かせない重要な自然環境となっている。

2 貴重な種や環境を特徴づける種

エドヒガン（植物）、ヒメボタル（昆虫類）

3 関連団体・施設

—

4 保全制度・指定など

県 RDB（生態系：A ランクの中生態系に包含・植物群落：A ランク）、特定植物群落（国）、自然公園（県）、レクリエーションゾーン（市）

5 保全・活用

当該地のクヌギ林は、里山放置林である。シカの生息密度が高く、樹皮はぎが見られるほか、採食により下層植生が衰退する植分が目立つ。



シカによる樹皮はぎ



下層植生の衰退

8 国崎の一庫公園のエドヒガン個体群 環境区分:樹林(里山林)



1 概要

クヌギ林（自然観察の森）をはじめ、各所に残る炭焼跡や間歩（まぶ：坑道）跡などを活かしながら、参画型の様々な環境学習や里山体験が行われている。

2 貴重な種や環境を特徴づける種

クヌギ群落の輪伐、エドヒガン（植物）、ヒメボタル（昆虫類）

3 関連団体・施設

県立一庫公園・公園内の活動団体

4 保全制度・指定など

県 RDB（生態系：A ランクの中生態系に包含・植物群落：A ランク）、特定植物群落（国）、自然公園（県）、北摂里山博物館（県）、天然記念物※（市）、レクリエーションゾーン（市）※2014 年申請

5 保全・活用

公園管理者と市民団体の連携により、里山の手入れや炭焼き、エドヒガンの育苗・植栽、植生調査など保全と普及・啓発の取り組みを市民の参画を募りながら実施している。

当該地は、生物多様性の保全と利用に向けた先進的な取り組みが行われている地域である。



里山の手入れ



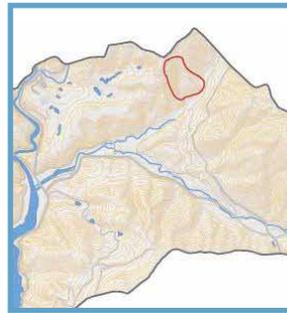
台場クヌギの育成



エドヒガンの調査



自然観察会



1 概要

兵庫県が推進する「県民総参加の森づくり」を柱とした「新ひょうごの森づくり」の趣旨に賛同する企業が、土地所有者に代わり生物多様性と地域景観の保全を目的とした森づくり（CSR）を展開している。

2 貴重な種や環境を特徴づける種

エドヒガン、クヌギ（植物）

3 関連団体・施設

—



4 保全制度・指定など

県 RDB（生態系：A ランクの中生態系に包含）、自然公園（県）

5 保全・活用

企業が主体となり、クヌギの地域性苗木による森づくりが進められている（推進母体：（社）兵庫県緑化推進協会）。

シカの生息密度の高い地域特性に配慮し、防鹿柵が設けられている。防鹿柵の破損も見られず定期的にメンテナンスがされている様子が窺える。苗木の生長を妨げる下草の刈り取りも適切に行われている。3年生苗を植栽し3年目を迎える企業では、背丈ほどに良好に育っているクヌギを観察することができる。

当該地は、生物多様性の保全と利用に向けた先進的な取り組みが行われている地域である。



黒田電気の活動



アサヒビールの活動



シロバナウンゼンツツジ

1 概要

虫生川両岸に見られるコナラやクヌギが優占する里山林。シカの影響がないこと、市民団体による管理が行われていることなどから、植物の種多様性が非常に高い（100 m内に 50 種（草本層 38 種））。

2 貴重な種や環境を特徴づける種

コナラ、カスミザクラ、エドヒガン、リョウブ、エゴノキ、シロバナウンゼンツツジ、ササユリ、ミヤマウズラ、キンラン、ミヤマヨメナ（植物）

3 関連団体・施設

虫生川周辺の自然を守る会

4 保全制度・指定など

県 RDB（植物群落：B ランク・地質 C ランク）、景観ゾーン（市）

5 保全・活用

シロバナウンゼンツツジやササユリなどの植物が多いことに気づいた市民団体が、それらの保全を目的とした森林整備（市有地）を行っている。貴重な植物を含む、非常に多様な植物が生育しており、市域の生物多様性を保全するうえで重要な場所である。



ササユリ



市民団体による植物調査

ニュータウン内に残る里山林は、これまであまり調査対象にされなかった場所である。シカの影響が及びにくいため、ほかの場所にも貴重な植物が生育するなど、多様性の高い林分が残存している可能性がある。



1 概要

猪名川の侵食によりできた美しい自然景観を呈する河川渓谷。渓谷内には、市域で有数のエドヒガンの群生地がある。市の天然記念物に指定されている。

2 貴重な種や環境を特徴づける種

エドヒガン（植物）、メダカ（魚類）、アオサナエ、タバサナエ（昆虫類）

3 関連団体・施設

溪のサクラを守る会

4 保全制度・指定など

県 RDB（植物群落：B ランク・自然景観：C ランク・地質 C ランク）、北摂里山博物館（県）、天然記念物（市）、景観ゾーン（市）



5 保全・活用

市民団体により整備された里山は多様な植物の生育地として蘇っている。また、つる植物が巻きついたり照葉樹がに被陰しきれたりしていたエドヒガンの群生地は、日当たりのよい生育に適した開放的な空間となっている。地元小学校の環境学習の場としても利用されるほか、エドヒガンの群生地は地元自治会の協力のもと開花時には市民に開放されている。

当該地は、生物多様性の保全と利用に向けた先進的な取り組みが行われている地域である。



活動の様子



管理体験の実施

12 加茂の段丘崖のエノキ-ムクノキ群集

環境区分: 樹林(里山林)



1 概要

市街地に残されたまとまったエノキやムクノキが優占する林であり、貴重である。また、竹林を中心にヒメボタルが生息している。

2 貴重な種や環境を特徴づける種

エノキ、ムクノキ、クスノキ、モチノキ、タラヨウ、カゴノキ、イヌマキ、ヤブニッケイ、トウネズミモチ、シュロ、ハカタシダ、ベニシダ（植物）、ヒメボタル（昆虫類）

3 関連団体・施設

川西自然教室

4 保全制度・指定など

市街地の貴重な緑（市）

5 保全・活用

竹林の拡大によりエノキ-ムクノキ林に竹が侵入し、植分によっては林内がひどく荒廃している。道路沿いの林内にはゴミが散乱する様子が見られる。

また、当該地のヒメボタルを守るため、市民団体による普及・啓発が行われている。

13 平野の多太神社のコジイ-カナメモチ群集

環境区分：樹林(照葉樹林・里山林)



1 概要

コジイ、モミの巨木が残る照葉樹林がみられる。背後には里山林が広がり、遊歩道から照葉樹林と里山林の違いをよく観察できる。

2 貴重な種や環境を特徴づける種

照葉樹林：コジイ、モミ、カナメモチ（植物）

里山林：コナラ、クスギ（植物）

3 関連団体・施設

—

4 保全制度・指定など

北摂里山博物館（県）



◆植生調査データ

2013年10月30日調査

調査面積：10×10m²

高木層：高さ25m、被度98%

亜高木層：高さ12m、被度9%

第1低木層：高さ8m、被度15%

第2低木層：高さ2m、被度4%

草本層：高さ0.6m、被度8%

高木層	草本層		
75	コジイ	0.1	サカキ
25	モミ	0.05	ビワ
亜高木層		2	コジイ
4	ヒノキ	2	ササクサ
5	コジイ	0.05	ナガバジャノヒゲ
第1低木層		0.05	ヒノキ
4	サカキ	0.02	モミ
8	コジイ	0.02	ヘクソカズラ
3	ヤマザクラ	0.01	イロハモミジ
第2低木層		0.05	エゴノキ
1	コジイ	0.01	エノキ
0.3	クロガネモチ	5	ヘニシダ
1	カナメモチ	0.05	フジ
0.8	サカキ	0.05	サネカズラ
0.2	ヤマウルシ	0.02	サルトリイバラ
0.2	ネザサ	0.5	アオキ
0.5	ネズミモチ	0.1	アラカシ
0.1	クスノキ	0.05	ニシノホンモンジスゲ

5 保全・活用

市域において自然性の高い照葉樹林が残る数少ない場所として貴重である。コジイやモミの巨木がみられるが、若齢木が欠けており照葉樹林としての持続的な存続が危ぶまれる。

一方、背後に広がる里山林では、市民団体による整備活動が行われているほか、樹木銘板が取り付けられた自然観察路が設置されるなど、普及・啓発活動にも注力されている。



若齢木が欠ける林分構造

14 笹部の平野神社のアラカシ群落

環境区分: 樹林(照葉樹林)



1 概要

アラカシが優占する照葉樹林。コナラの大木がわずかに混生する。また、神木としてツガの大木が見られる。

2 貴重な種や環境を特徴づける種

アラカシ、ツガ、コナラ、ヤブツバキ、サカキ、ヒサカキ、クチナシ、モッコク（植物）

3 関連団体・施設

—

4 保全制度・指定など

天然記念物（市）、共生ゾーン（市）

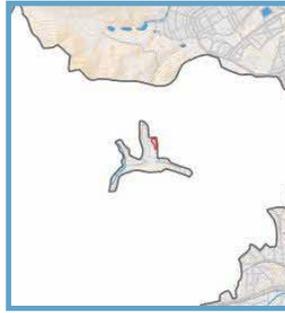
5 保全・活用

亜高木層以下が欠落しており、林床にもほとんど植物が見られない。市の天然記念物として重要な社叢であるが、生物多様性はあまり高くない。



亜高木層以下が欠落

15 満願寺町の満願寺のコジイ-カナメモチ群集 環境区分: 樹林(照葉樹林)



1 概要

樹高 20m に達するコジイが優占する照葉樹林が見られる。散策道が設けられ、林内はよく手入れされている。

2 貴重な種や環境を特徴づける種

コジイ、カナメモチ、ヤブツバキ、アラカシ、サカキ、ヒサカキ、センリョウ、ヒノキ (植物)

3 関連団体・施設

—

4 保全制度・指定など

天然記念物 (市)

◆植生調査データ 2013年10月30日調査

調査面積: 10×10 m² (枠設けず)

高木層: 高さ 22m, 被度 98% 亜高木層: 高さ 12m, 被度 5%

第1低木層: 高さ 6m, 被度 8%

第2低木層: 高さ 2m, 被度 15% 草本層: 0.3m 0.1%

高木層	第2低木層	
95 コジイ	10	コジイ
5 ヒノキ	5	ヒサカキ
亜高木層	2	ヤブツバキ
5 コジイ	2	ソヨゴ
第1低木層	草本層	
5 コジイ	0.06	コジイ
4 アラカシ	0.01	ヘニシダ
	0.01	カナメモチ
	0.01	エゴノキ
	0.01	アラカシ

種名の数値は植被度(%)

5 保全・活用

川西市から宝塚市にかけて広がるまとまりのある照葉樹林であり、優占種であるコジイも巨木で立派である。しかし、樹林を形成する構成種は少なく、生物多様性はあまり高くない。



林床の様子

16 火打の八坂神社のクスノキ群落

環境区分: 樹林(照葉樹林)



1 概要

神社の社叢林として照葉樹林が見られる。市街地に残されたまとまった緑地であり、貴重である。

2 貴重な種や環境を特徴づける種

クスノキ、アラカシ、クロガネモチ、クヌギ、カナメモチ、ネズミモチ、サカキ、ヒサカキ、カクレミノ、オガタマノキ、ヤブニッケイ、アオキ、クチナシ、マンリョウ、センリョウ、ナンテン、シュロ(植物)

3 関連団体・施設

—

4 保全制度・指定など

市街地の貴重な緑(市)

5 保全・活用

クスノキやクヌギなど人為的に導入された樹種が優占し、必ずしも自然性は高くない。階層構造も未発達で、林分の大半は亜高木層以下が欠落している。生物多様性はあまり高くないが、市街地の貴重な緑地である。



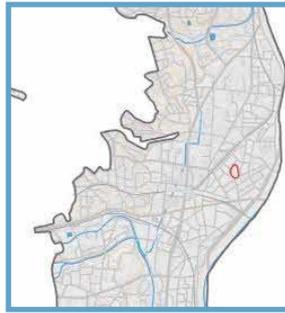
亜高木層以下が欠落

書式変更: フォント: 10 pt

書式変更: 本文, 行間: 倍数 0.06 li

17 小戸の小戸神社のクスノキ群落

環境区分:樹林(照葉樹林)



1 概要

神社の社叢林として照葉樹林が見られる。市街地に残されたまとまった緑地であり、貴重である。

2 貴重な種や環境を特徴づける種

クスノキ、エノキ、ムクノキ、ケヤキ（植物）

3 関連団体・施設

—

4 保全制度・指定など

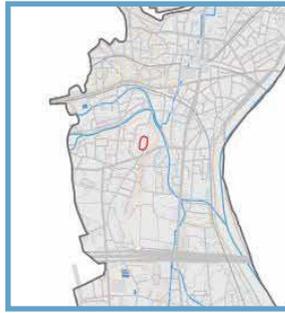
重点緑化地区（市）

5 保全・活用

クスノキ、エノキ、ムクノキ、ケヤキの巨木が点在するのみである。林床は児童遊園地と駐車場として利用されている。生物多様性はあまり高くないが、市街地の貴重な緑地である。

18 加茂の鴨神社のエノキ-ムクノキ群集

環境区分：樹林(照葉樹林)



1 概要

神社の社叢林として照葉樹林が見られる。市街地に残されたまとまった緑地であり、貴重である。クスノキが優占するが、出現種は南部段丘崖とよく似ており、元来は連続する緑地であったことが窺える。

2 貴重な種や環境を特徴づける種

クスノキ、エノキ、ムクノキ、アヘマキ、アラカシ、モチノキ、イヌマキ、ヤブニッケイ、テイカカズラ、ヤツデ、マンリョウ、ヤブラン（植物）

3 関連団体・施設

—

4 保全制度・指定など

重点緑化地区（市）

5 保全・活用

クスノキが優占し、必ずしも自然性は高くないが、低木層以下を構成する木本種、草本種の多様性は比較的高い。管理も行き届いており、枯損木などが適切に処理され、安全面・景観面ともに優れた林である。市街地の貴重な緑地である。



林内の様子

19 一庫の知明湖(一庫ダム)

環境区分:湖沼



1 概要

雄大な湖面を有する知明湖は、周辺の里山林とあいまって市域の景勝地となっているほか、下流河川の水生物を育む重要な水源となっている。

2 貴重な種や環境を特徴づける種

エドヒガン(植物)

3 関連団体・施設

独立行政法人水資源機構一庫ダム管理所

4 保全制度・指定など

県RDB(自然景観:Cランク)、自然公園(県)、レクリエーションゾーン(市)

5 保全・活用

下流河川の水生生物を育む重要な水源として機能する知名湖であるが、放流水を通じた外来生物の拡散を防止したり、生息基盤となる土砂を堰き止めず下流へと供給し^{たり}することも生物多様性を保全するうえでは重要である。知名湖では、ダム湖の魚類相を把握し、外来魚（ブラックバス、ブルーギル）を除去したり、堰き止めた土砂を下流に置いて流したりしている。また、下流河川では、水量の少ない期間が続くと、河床に古い藻類や汚れが付着したままとなり、魚類などの生息に悪影響を及ぼすおそれがある。これらを取り除き、下流河川をリフレッシュする目的でフラッシュ放流なども実施されている。

20 笹部の初谷川のサツキ个体群

環境区分:河川



1 概要

猪名川の源流部のひとつである初谷川。出水時に流水によりかく乱を受ける岩上にサツキが生育している。猪名川水系でサツキが生育する場所はここしかない。県下においてもサツキの自生地は限られる。

2 貴重な種や環境を特徴づける種

サツキ、セキショウ、シケシダ、イノモトソウ、イノデ（植物）

3 関連団体・施設

—

4 保全制度・指定など

—

5 保全・活用

県下広しといえどもサツキの自生地は局地的であり、武庫川の自生地以外はほとんど知られていない。その意味において、当該地の自生地は、市域の生物多様性だけでなく、県下の生物多様性を保全する上でも重要な場所である。

書式変更: フォント : 10 pt

書式変更: 本文、行間 : 倍数 0.06 li

21 東畦野の一庫大路次川のオオサンショウウオ 環境区分:河川



1 概要

川西市においては国の特別天然記念物であるオオサンショウウオの生息が記録されている。最も新しい記録は東畦野の一庫大路次川周辺であり、現在も当該河川を主要な生息場として利用している可能性が高い。

2 貴重な種や環境を特徴づける種

オオサンショウウオ（両生類）

3 関連団体・施設

—

4 保全制度・指定など

景観ゾーン（市）

5 保全・活用

2009年、地元住民が一庫大路次川周辺の用水路にてオオサンショウウオを確認した。一庫大路次川に生息する個体が遡上中にまぎれ込んだ可能性が高いと考えられ、専門家による捕獲と一庫大路次川への放流が行われた。



オオサンショウウオ



1 概要

800 年余り前、西行法師が見事な滝をながめて歌を詠んだとい伝えられる場所。丹波層群が露出する河川岩上には、たびたび生じる冠水にも適応したユキヤナギの大群落が見られる。

2 貴重な種や環境を特徴づける種

ユキヤナギ、セキショウ、カワラハンノキ、ネコヤナギ（植物）

3 関連団体・施設

—

4 保全制度・指定など

レクリエーションゾーン（市）

5 保全・活用

緑化植物としてよく知られているユキヤナギは、本来当該地のような河川岩上という特殊な立地に生育する。このようなユキヤナギが自生し大群落を形成する場所はめずらしい。当該地は西行法師ゆかりの歴史的に興味深い場所であるとともに、市域の生物多様性の一端を担う重要な場所である。

また、部分的にクズやフジなどのつる植物が周辺から侵入し、繁茂している。ユキヤナギが被圧され、景観的にも見苦しい状況にある。



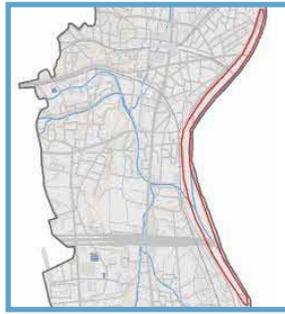
つる植物による被圧



つる植物による不良景観

23 猪名川河川敷の河川植生

環境区分:河川



1 概要

おおよそ能勢電鉄滝山駅付近から下流の猪名川は、下流に行くに従い川幅が広くなり、交互砂州が発達して河原が見られる。今は少なくなった河川本来の植生や河川の生きものが生息している。

2 貴重な種や環境を特徴づける種

オギ、カワラマツバ（植物）、カワセミ、オオヨシキリ（鳥類）

3 関連団体・施設

国土交通省猪名川河川事務所、流域ネット猪名川

4 保全制度・指定など

レクリエーションゾーン（市）

5 保全・活用

河川本来の環境が残る一方、特定外来種であるアレチウリの生育が問題となっており、国土交通省と市民団体との協働で外来植物対策が進められ、環境体験学習の場として利用されている。

また、東久代運動公園付近では、国土交通省が「自然再生事業」を行っており、河原の再生が試みられている。

阪急宝塚線の架橋の下流付近には、堤外側にせせらぎ水路、堤内側に遊具を整備したドラゴンランドがあり、市民に広く開放されている。



ドラゴンランド

書式変更: フォント: 10 pt

書式変更: 本文, 行間: 倍数 0.06 li



1 概要

希少な二枚貝の繁殖地。このような場所は猪名川水系でほとんどなく重要である。三面張りの水路ではあるが、河床には砂が堆積している。

2 貴重な種や環境を特徴づける種

シマドジョウ、カワヨシノボリ、ドンコ、ヤリタナゴ（魚類）、ゲンジボタル、ハイケボタル（昆虫類）、ヒメタニシ、タガイ、マシジミ、マツカサガイ（貝類）

3 関連団体・施設

身近な自然とまちを考える会

4 保全制度・指定など

県RDB（生態系：Cランク）、重点緑化地区（市）

5 保全・活用

地域の生物多様性を保全するうえで重要な場所であるとともに、隣接する川西北小学校の総合学習の教材やキセラ川西内で展開される市民活動などにより、地域の自然を学ぶ環境学習の場となる可能性を秘めている。

25 笹部の棚田のチガヤ群落

環境区分:水田



1 概要

四季折々の美しい棚田を大和団地から眺めることができる。田園風景は、これまで継承され育まれてきた大切な景観資源である。

2 貴重な種や環境を特徴づける種

チガヤ、ススキ、ノアザミ、キツネノマゴ、スイバ、ヒガンバナ、ノビル、ヒメジョオン、イヌタデ、シロツメクサ、ノチドメ、エノキグサ、ヘビイチゴ、ヒメヨツバムグラ（植物）



3 関連団体・施設

—

4 保全制度・指定など

共生ゾーン（市）

5 保全・活用

定期的に行き取り管理が行われる棚田の畦畔には、チガヤの優占する草原が見られ、畦畔特有の植物が生育している。また、草原生昆虫などの貴重な生息環境にもなっている。このような草原環境は、農業の営みにより維持されており、美しい田園風景とともに保全すべき市域の生物多様性である。

書式変更: フォント: 10 pt

書式変更: 本文, 行間: 倍数 0.06 li

26 赤松の棚田のチガヤ群落

環境区分: 水田



1 概要

小規模に残る棚田。四季折々の美しい景観を楽しめる。一部貸し農園となっている。

2

チガヤ、ススキ、ノアザミ、キツネノマゴ、アキノタムラソウ、ヒメジョオン、ヤブカンゾウ、ヒヨドリバナ、センニンソウ、ニガナ、ミツバツチグリ、リンドウ（植物）



3 関連団体・施設

—

4 保全制度・指定など

—

5 保全・活用

定期的に刈り取り管理が行われる棚田の畦畔には、チガヤの優占する草原が見られ、畦畔特有の植物が生育している。また、草原生昆虫などの貴重な生息環境にもなっている。このような草原環境は、農業の営みにより維持されており、美しい田園風景とともに保全すべき市域の生物多様性である。

生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会における審議経過

○年○月○日 諮問

○年○月○日 審議

令和4年11月11日 審議 生物多様性ふるさと川西戦略の改訂について

令和5年1月 意識調査実施

書式変更: フォント: 10 pt

書式変更: 本文, 行間: 倍数 0.06 li

生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会委員名簿

	氏名(敬称略)	役職	選出区分
審議会委員 (委員長)	武田 義明	神戸大学人間発達環境学研究所名誉教授	学識経験者
専門委員	信田 修次	能勢妙見山ブナ守の会副会長 元能勢電鉄株式会社	学識経験者
専門委員	牛尾 巧	一庫公園管理事務所長	学識経験者
専門委員	服部 保	兵庫県立大学自然・環境科学研究所名誉教授 兵庫県立南但馬自然学校学長	学識経験者
専門委員	足立 隆昭	兵庫丹波オオムラサキの会会長	学識経験者
専門委員	田中 廉	川西自然教室代表	学識経験者
担当員	山口 順子	産業振興課長	市職員
担当員	稲治 惟也	文化・観光・スポーツ課長	市職員
担当員	堀内 孝洋	都市政策課長	市職員
担当員	足立 拓也	公園緑地課長	市職員
担当員	中津留 幸紀	道路整備課長(道路補修担当)	市職員
担当員	寺田 義一	社会教育課長	市職員
担当員	下内 卓夫	教育保育課長	市職員
担当員	福本 靖	教育推進部参事兼教育保育課長(研修担当)	市職員

書式変更: フォント : 10 pt

書式変更: 本文, 行間 : 倍数 0.06 li

書式変更: フォント : 10 pt

生物多様性ふるさと川西戦略

2015 発行年月 2024 (令和6) 年 (平成27年) 3月3日発行

編集・発行 川西市美化市民環境部 美化環境室 環境創造課政策課

〒666-0011 兵庫県川西市出在家町1-11-中央町12番1号

TEL : 072-740-1202 FAX : 072-740-1336

E-mail : kawa0018@city.kawanishi.lg.jp

書式変更: フォント : (日) HG丸ゴシックM-PRO

書式変更: フォント : (日) HG丸ゴシックM-PRO

書式変更: フォント : (日) HG丸ゴシックM-PRO

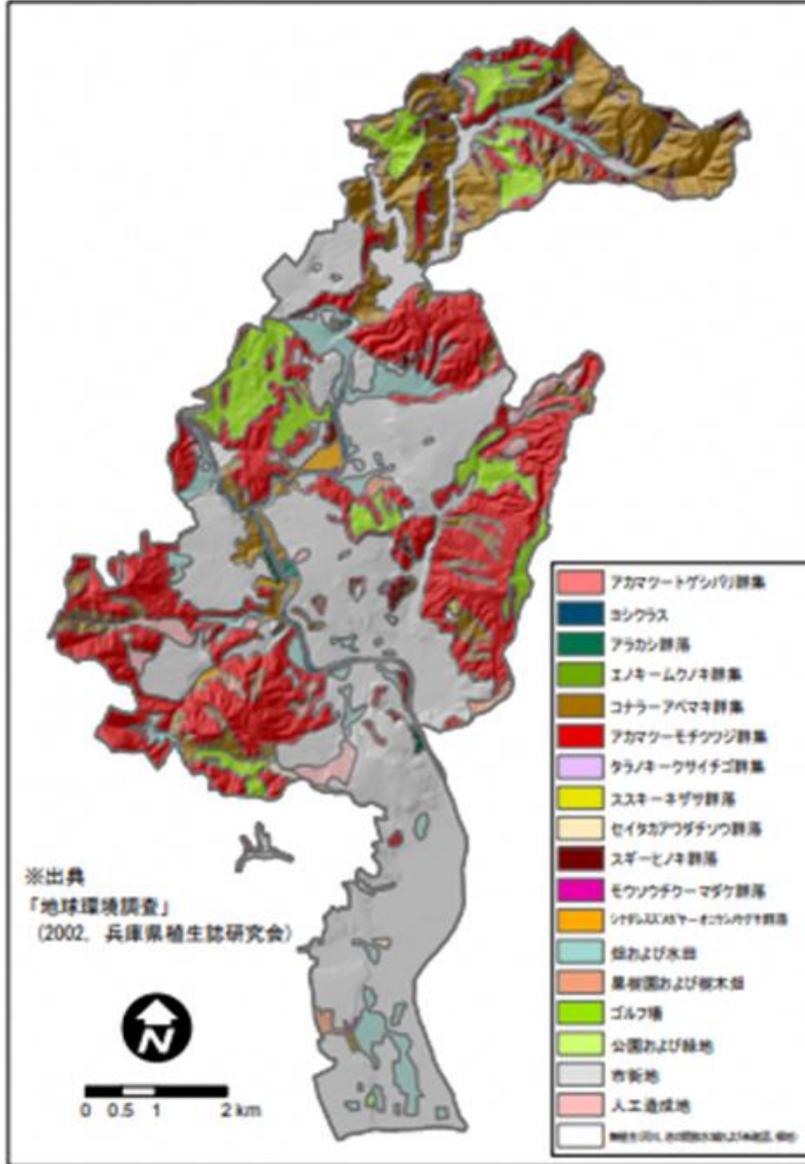
書式変更: フォント : (日) HG丸ゴシックM-PRO, フォントの色 : 自動, 文字間隔狭く 0.1 pt

書式変更: フォント : (日) HG丸ゴシックM-PRO

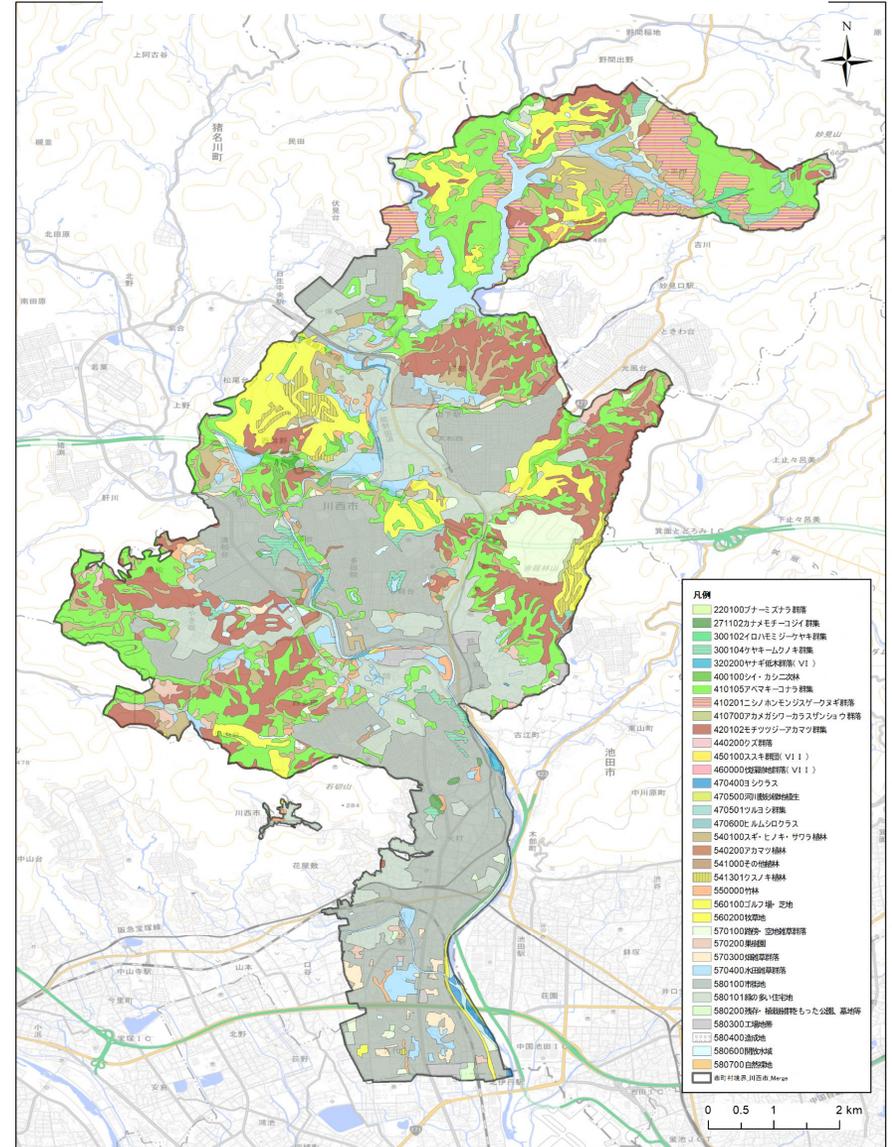
書式変更: フォント : 10 pt

書式変更: 本文, 行間 : 倍数 0.06 li

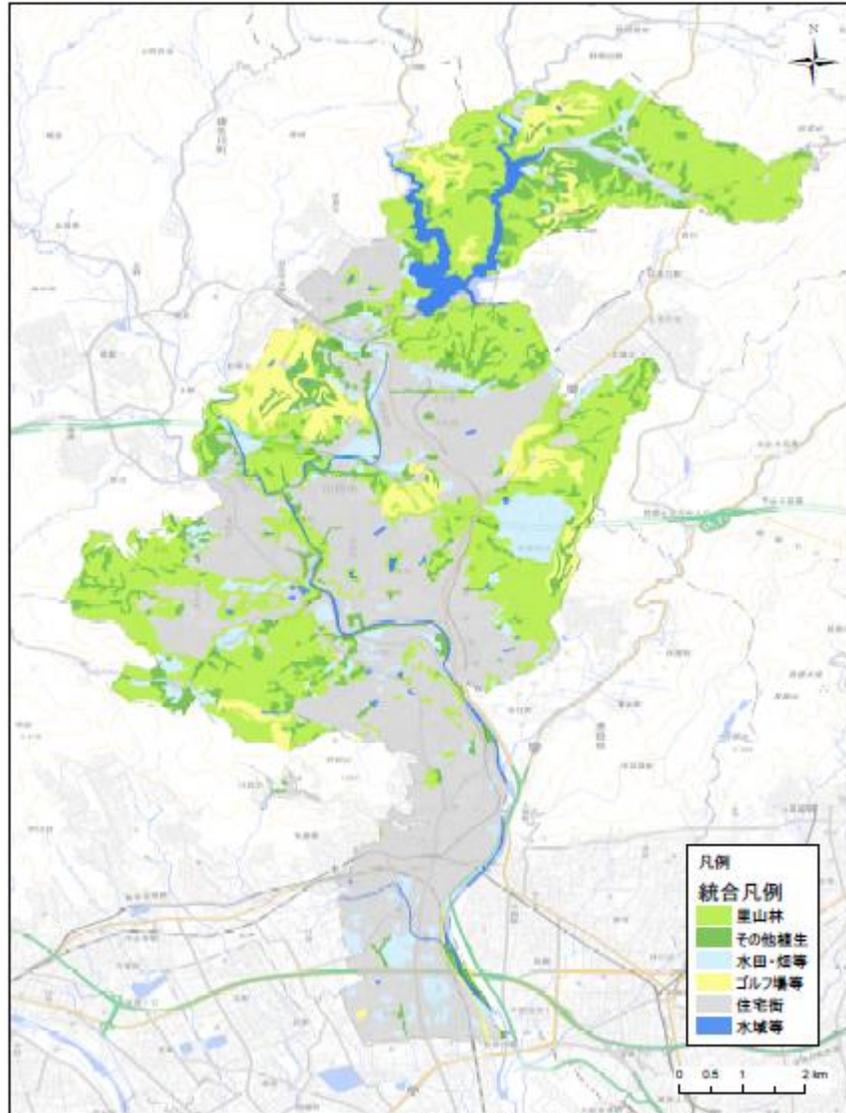
兵庫県 2002年 縮尺不明



環境省 2009年 1/25,000



環境省 2009年 1/25,000を基に凡例を統合



出典：「国土利用計画」環境省編纂、国土院編纂、環境省、環境省自然環境部、生物多様性センター

植生区分		環境省植生図の統一凡例		凡例名	凡例統合案			
		大分類						
5	ブナクラス域代償植生	22	落葉広葉樹二次林	ブナ・ミズナラ群落	里山林 (自然性がやや高い群落のため里地・里山とするか要検討)			
				オニグルミ群落(V)				
6	ヤブツバキクラス域自然植生	27	常緑広葉樹林	シラカシ群落	里山林 (自然性がやや高い群落のため里地・里山とするか要検討)			
				アラカシ群落				
				アカガシ群落				
				ツクバネガシ群落				
				ウラジロガシ群落				
				カナメモチ・コジイ群落				
				ヤブコウジ・スダジイ群落				
				ミミズバイ・スダジイ群落				
				28		暖温帯針葉樹林	シキミ・モミ群落	その他植生
				29		岩角地・海岸断崖地針葉樹林	アカマツ群落(VI)	
30	落葉広葉樹林	イロハモミジ・ケヤキ群落						
31	沼沢林	ケヤキ・ムクノキ群落						
32	河辺林	ハンノキ群落(VI)						
32	河辺林	ヤナギ低木群落(VI)						
32	河辺林	カワラハンノキ群落						
40	常緑広葉樹二次林	シイ・カシ二次林	里山林					
41	落葉広葉樹二次林	アベマキ・コナラ群落						
41	落葉広葉樹二次林	ニシノホンモンジ・スゲ・クヌギ群落						
41	落葉広葉樹二次林	アカメガシワ・カラスザンショウ群落						
42	常緑針葉樹二次林	モチツツジ・アカマツ群落						
43	タケ・ササ群落	メダケ群落						
8	河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等	47	湿原・河川・池沼植生	クズ群落	その他植生			
				44		低木群落		
				45		二次草原		
				45		二次草原	ススキ群団(VII)	
				46		伐採跡地群落	伐採跡地群落(VII)	
				46		伐採跡地群落	ヌマガヤ・オウター	
				46		伐採跡地群落	貧養地小型植物群落	
9	植林地、耕作地植生	54	植林地	ヨシクラス	その他植生			
				河川敷砂礫地植生				
				ツルヨシ群落				
				オギ群落				
				ヒルムシロクラス				
				サツキ群落				
				51		岩角地・石灰岩地・蛇紋岩地植生	岩壁植生	
				54		スギ・ヒノキ・サワラ植林	ゴルフ場	
				54		アカマツ植林		
				54		クロマツ植林		
54	外国産樹種植林							
54	その他植林							
54	クスノキ植林							
55	竹林	竹林						
56	牧草地・ゴルフ場・芝地	ゴルフ場・芝地						
56	牧草地・ゴルフ場・芝地	牧草地						
10	その他	58	市街地等	路傍・空地雑草群落	住宅街			
				果樹園				
				畑雑草群落				
				水田雑草群落				
				放棄水田雑草群落				
市街地	住宅街							
緑の多い住宅地								
残存・植栽樹群をもった公園、墓地等								
工場地帯								
造成地								
開放水域	水域等							
自然裸地								